

# 岩橋千塚古墳群

- 特別史跡岩橋千塚古墳群第4次追加指定事業に伴う発掘調査報告書 -

2024年3月

和歌山県教育委員会



1. 井辺1号墳 7トレンチ (墳丘東側面の段築成 東から)



1. 寺内18号墳 前方部北西隅 全景（北西から）



2. 寺内18号墳 前方部北西隅土器埋納遺構出土土器



1. 前山B370号墳全景（西から）

巻頭写真 4 分布調査における新規確認埋葬施設



1. 井辺 18 号墳 (横穴式石室)



2. 井辺 32 号墳 (横穴式石室又は竪穴式石室)



3. 寺内 118 号墳 (横穴式石室)



4. 寺内 118 号墳 (横穴式石室)



5. 寺内 112 号墳 (横穴式石室)



6. 寺内 119 号墳 (横穴式石室)



7. 寺内 122 号墳 (横穴式石室)



8. 寺内 146 号墳 (竪穴式石室か)

## 序 文

和歌山県の北部を西流する紀ノ川の下流には、肥沃な和歌山平野が形成され、平野部やその周辺には、古くから人々が生活を営んできたことを示す数多くの遺跡が残されています。このうち、紀ノ川下流域南岸の岩橋山塊に位置する岩橋千塚古墳群は、当地域の古墳時代を代表する遺跡であり、少なくとも4世紀末までに始まり7世紀に至るまでの時期に、総数約900基の古墳が築造された全国有数の古墳群として知られています。

岩橋千塚古墳群の一部は昭和6年に国史跡、昭和27年に特別史跡に指定され、昭和63年、平成12年及び平成28年の追加指定を経て、現在は約63万㎡の指定地の中に約500基の古墳が保存されています。

和歌山県教育委員会では、古墳群の更なる追加指定を目指し、令和2年度から岩橋千塚古墳群第4次追加指定事業に取り組んでいます。この事業において、令和2年度から令和5年度には、岩橋千塚古墳群の井辺地区や寺内地区を中心に未指定範囲の分布調査及び主要古墳の発掘調査を実施しました。

本書は、その成果を報告書としてとりまとめたもので、古墳群を理解する新たな資料として、広く活用されることを強く願います。

最後になりましたが、調査にあたり、格別のご配慮を賜りました土地所有者をはじめとする関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。

令和6年3月31日

和歌山県教育委員会  
教育長 宮崎 泉

## 例 言

1 本書は和歌山県教育委員会が実施した和歌山市に所在する岩橋千塚古墳群の発掘調査報告書である。

2 当事業は、文化庁国宝重要文化財等保存活用事業費補助金を得て実施した。事業期間は令和2～令和5年度である。

3 発掘調査及び出土遺物整理に係る体制は下記のとおりである。

分布調査（令和4・5年度）

調査主体 和歌山県教育委員会

調査担当 和歌山県教育庁 文化遺産課 主任 瀬谷今日子

調査支援業務 公益財団法人和歌山県文化財センター（担当）仲原知之

井辺1号墳（令和2年度発掘調査・令和5年度整理作業）

調査主体 和歌山県教育委員会

調査担当 和歌山県教育庁 文化遺産課 副主査 仲辻慧大

調査支援業務 公益財団法人和歌山県文化財センター（調査：担当）森田真由香  
（整理作業：担当）仲原知之

寺内18号墳（令和3年度発掘調査・令和4・5年度整理作業）

調査主体 和歌山県教育委員会

調査担当 和歌山県教育庁 文化遺産課 主任 瀬谷今日子

調査支援業務 公益財団法人和歌山県文化財センター（調査：担当）佐伯和也  
（整理作業：担当）仲原知之

前山B地区の古墳（令和3年度発掘調査・令和4・5年度整理作業）

調査主体 和歌山県教育委員会

調査担当 和歌山県立紀伊風土記の丘 主査学芸員 田中元浩

調査支援業務 公益財団法人和歌山県文化財センター（担当）濱崎範子

4 本書は、第1章、第2章、第3章、第5章、第7章を瀬谷、第4章を仲辻、第6章を田中が執筆し、編集は瀬谷が行った。

5 各調査については、和歌山県文化財保護審議会及び特別史跡岩橋千塚古墳群保存整備検討会議の指導を得ながら実施した。

和田晴吾 兵庫県立考古博物館館長

松木武彦 国立歴史民俗博物館教授

増渕徹 京都橘大学教授  
小野健吉 和歌山大学教授  
禰宜田佳男 大阪府立弥生文化博物館館長

- 6 測量業務は、株式会社 NAC 総建に委託して実施した。
- 7 寺内 18 号墳出土土器の CT 撮影は和歌山県工業技術センターの協力を得て実施した。また、土器の開封作業及び内容物分析は独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所の指導及び協力を得た。
- 8 発掘調査及び出土遺物整理にあたり下記の方々と機関からご指導・ご協力を賜った。記して感謝申し上げる。  
文化庁 紀の川市教育委員会 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 和歌山県工業技術センター 和歌山市 和歌山市立博物館 諫早直人 岩井顕彦 上中央子 太田宏明 河内一浩 木許守 高正龍 佐藤純一 清水梨代 庄田慎矢 辰巳和弘 田村保雄 寺前直人 富永里菜 中西瑠花 花坂寿章 富加見泰彦 藤藪勝則 古川匠 松永悦枝 村上夏希 森原聖 山崎健（個人名敬省略・五十音順）
- 9 発掘調査及び出土遺物整理で作成した図面・写真並びに台帳等の記録資料及び出土遺物は和歌山県教育委員会が保管している。

## 凡 例

- 1 本書で用いた座標は、平面直角座標系第Ⅳ系(世界測地系)に基づき、m を単位として表記した。また、図示した北方位は座標北を示す。
- 2 標高は、東京湾平均海面 (T.P.) による日本水準原点の数値を基準としている。
- 3 調査の土層記録の土色及び出土遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修、小山正忠・竹原秀雄著『新版標準土色帖』に基づく。
- 4 本文の遺物番号は節ごとに付し、遺物写真図版の遺物番号と一致する。



# 調 査 組 織

## 和歌山県教育委員会（令和2～5年度）

教育長 宮崎 泉（令和2～5年度）  
生涯学習局長 松本泰幸（令和2年度）  
橘 誠（令和3年度）  
栗生好人（令和4・5年度）

## 生涯学習局文化遺産課（令和2～5年度）

文化遺産課長 栗生 好人（令和2・3年度） 垣本 和男（令和4・5年度）  
副課長 土山 寛人（令和2年度） 土井 昌紀（令和3年度）  
三木 啓生（令和4・5年度）  
教育企画員 黒石 哲夫（令和2年度）  
班長 佐々木宏治（令和3～5年度）  
主任 瀬谷今日子（令和4・5年度）  
主査 田中 元浩（令和2年度） 瀬谷今日子（令和3年度）  
副主査 仲辻 慧大（令和2～5年度）  
技師 石丸 彩（令和2～5年度） 木村日向子（令和5年度）

## 県立紀伊風土記の丘（令和3～5年度）

館長 中村 浩道（令和3～5年度）  
副課長 中村 拓司（令和3年度） 西山 耕司（令和4・5年度）  
専門員 / 学芸課長  
藤井 幸司（令和4・5年度）  
学芸課長 丹野 拓（令和3年度）  
主任学芸員 萩野谷正宏（令和3～5年度）  
主査学芸員 田中 元浩（令和3～5年度）  
学芸員 金澤 舞（令和3～5年度）  
上村 緑（令和4・5年度）

# 本文目次

## 巻頭写真

### 第1章 経緯と経過

第1節 調査の経緯	1
第2節 調査の経過	2

### 第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4

### 第3章 分布調査の成果

第1節 調査の目的と方法	12
第2節 現地調査の成果	
(1) 大谷山地区	24
(2) 大日山地区	24
(3) 井辺地区	31
(4) 寺内地区	36
(5) 前山 A 地区	56
(6) 前山 B 地区	56
第3節 まとめ	59

### 第4章 井辺1号墳の調査成果

第1節 調査の目的と方法	
(1) 調査の目的	63
(2) 既往の調査	63
(3) 調査の方法	64
(4) 基本層序	66
第2節 調査成果	
(1) 測量調査	66
(2) 墳丘南東隅部分の調査（1トレンチ）	68
(3) 墳丘南西隅部分の調査（2トレンチ）	72
(4) 墳丘前面中央部分の調査（3トレンチ）	72
(5) 墳丘背面部分の調査（4トレンチ）	72
(6) 墳丘北東隅部分の調査（5トレンチ）	74
(7) 墳丘北西隅部分の調査（6トレンチ）	74
(8) 墳丘側面部分の調査（7トレンチ）	79
第3節 出土遺物	83
第4節 まとめ	85

### 第5章 寺内18号墳の調査成果

第1節 調査の方法	
(1) 調査の目的	89

(2)	調査の方法	91
(3)	測量調査の方法	91
(4)	調査区の設定	91
(5)	基本層序	91
第2節	調査成果	
(1)	調査前の墳丘の現況	93
(2)	1トレンチ	93
(3)	2トレンチ	95
(4)	3トレンチ	97
(5)	4トレンチ	100
(6)	5トレンチ	102
(7)	6トレンチ	103
(8)	埴輪露出地点の調査	112
第3節	出土遺物	113
第4節	まとめ	135
<b>第6章</b>	<b>前山B地区の調査成果</b>	
第1節	調査の目的と方法	
(1)	調査の目的	141
(2)	調査の経過	141
(3)	既往の調査	142
(4)	調査の方法	143
第2節	調査成果	
(1)	基本層序	145
(2)	前山 B370 号墳 (4-2、4-17 トレンチ)	145
(3)	前山 B369 号墳 (4-3 トレンチ)、周辺 (4-10 トレンチ)	156
(4)	前山 B371 号墳 (4-11、4-16 トレンチ)	158
(5)	前山 B368 号墳 (4-15 トレンチ)	158
(6)	花木園東部地区隣接地 (4-12 ～ 4-14 トレンチ)	161
第3節	出土遺物	
(1)	土器、埴輪	161
(2)	武器	164
(3)	工具	167
(4)	その他鉄製品	168
(5)	馬具	168
(6)	装身具	170
第4節	まとめ	171
<b>第7章</b>	<b>調査成果のまとめ</b>	179

写真図版

報告書抄録

## 挿 図 目 次

- 図 1 岩橋千塚古墳群の地区割と調査対象範囲  
図 2 岩橋千塚古墳群の位置  
図 3 岩橋千塚古墳群と周辺の主要遺跡  
図 4 岩橋千塚古墳群赤色立体地図 (S=1/15,000)  
図 5 井辺地区詳細測量図 (S=1/800)  
図 6 寺内地区詳細測量図 (S=1/800)  
図 7 踏査対象地位置図  
図 8 大谷山地区踏査対象範囲赤色立体地図(S=1/2,500)  
図 9 大谷山地区踏査対象範囲地形測量図(S=1/2,500)  
図 10 大日山地区踏査対象範囲赤色立体地図(S=1/2,500)  
図 11 大日山地区踏査対象範囲地形測量図(S=1/2,500)  
図 12 井辺地区踏査対象範囲 赤色立体地図  
(上段 S=1/2,500、下段 S=1/1,000)  
図 13 井辺地区踏査対象範囲 地形測量図  
(上段 S=1/2,500、下段 S=1/1,000)  
図 14 寺内地区踏査範囲①赤色立体地図 (S=1/2,500)  
図 15 寺内地区踏査範囲①地形測量図 (S=1/2,500)  
図 16 寺内地区踏査範囲②赤色立体地図 (S=1/2,500)  
図 17 寺内地区踏査範囲②地形測量図 (S=1/2,500)  
図 18 寺内地区踏査範囲③赤色立体地図 (S=1/2,500)  
図 19 寺内地区踏査範囲③地形測量図 (S=1/2,500)  
図 20 寺内地区踏査範囲④赤色立体地図 (S=1/2,500)  
図 21 寺内地区踏査範囲④地形測量図 (S=1/2,500)  
図 22 寺内地区踏査範囲⑤赤色立体地図 (S=1/5,000)  
図 23 寺内地区踏査範囲⑤地形測量図 (S=1/5,000)  
図 24 前山 A 地区(南尾根) 踏査範囲赤色立体地図(S=1/2,500)  
図 25 前山 A 地区(南尾根)踏査範囲地形測量図S=1/2,500)  
図 26 前山 B 地区(南西)踏査範囲赤色立体地図S=1/2,500)  
図 27 前山 B 地区(南西) 踏査範囲地形測量図(S=1/2,500)  
図 28 分布調査 採集遺物 (S=1/4)  
図 29 井辺地区の位置 (和歌山県埋蔵文化財包蔵地所  
所在地図に加筆、S=1/10,000)  
図 30 関西大学考古学研究室による発掘調査の成果  
(関西大学考古学研究室編 1967)  
図 31 井辺1号墳 トレンチ配置及び調査グリッド (S = 1/500)  
図 32 測量図及び地形断面図 (S=1/600)  
図 33 1トレンチ 平面図及び立面図 (S=1/40)  
図 34 1トレンチ 土層断面図1 (S=1/40)  
図 35 1トレンチ 土層断面図2 (S=1/40)  
図 36 1トレンチ 基壇中央断ち割り平面図 (S=1/40)  
図 37 2トレンチ 平面図及び土層断面図1 (S=1/40)  
図 38 2トレンチ 土層断面図2 (S=1/40)  
図 39 3トレンチ 平面図及び土層断面図 (S=1/80)  
図 40 4トレンチ 平面図及び土層断面図 (S=1/40)  
図 41 5トレンチ 平面図及び土層断面図 (S=1/40)  
図 42 6トレンチ 平面図及び土層断面図 (S=1/40)  
図 43 7トレンチ 平面図及び土層断面図 (S=1/50)  
図 44 井辺1号墳出土遺物及び井辺地区採集遺物 (S=1/4)  
図 45 井辺1号墳 墳丘復元図 (S=1/500)  
図 46 井辺1号墳 岩盤と古墳各部の関係  
図 47 岩橋丘陵南斜面に展開する背面カットを有する古  
墳の分布 (S=1/6,000)  
図 48 寺内 18 号墳の位置  
図 49 墳丘測量図 (S=1/300)  
図 50 トレンチ配置図 (S=1/200)  
図 51 1トレンチ平面図・東壁土層断面図 (S=1/40)  
図 52 2トレンチ平面図・南壁土層断面図 (S=1/40)  
図 53 3トレンチ平面図・南壁土層断面図 (S=1/40)  
図 54 3トレンチ南拡張部 (3-2トレンチ) 土層断面  
(S=1/40)  
図 55 4トレンチ平面図・東壁土層断面図 (S=1/40)、  
埴輪ハ・埴輪ニ 立面図・断面図 (S=1/20)  
図 56 5トレンチ平面図・南壁及び東壁土層断面  
(S=1/40)  
図 57 5トレンチ 出土状況(オルソ画像)  
図 58 5トレンチ前方部北埴輪列・西埴輪列 立面図・  
断面図 (S=1/20)  
図 59 5トレンチ須恵器大甕検出状況 平面図・断面図  
(S=1/20)  
図 60 5トレンチ土器埋納遺構平面図・断面図 (S=1/20)  
図 61 6トレンチ平面図・西壁土層断面 (S=1/40 )、埴  
輪イ・埴輪ロ 立面図・断面図 (S=1/20 )  
図 62 埴輪露出地点 出土状況図・南壁土層断面図  
(S=1/40 )  
図 63 寺内 18 号墳出土埴輪 (1) 実測図 (S=1/4)  
図 64 寺内 18 号墳出土埴輪 (2) 実測図 (S=1/4)  
図 65 寺内 18 号墳出土埴輪 (3) 実測図 (S=1/4)  
図 66 寺内 18 号墳出土埴輪 (4) 実測図 (S=1/4)  
図 67 寺内 18 号墳出土埴輪 (5) 実測図 (S=1/4)  
図 68 寺内 18 号墳出土埴輪 (6) 実測図 (S=1/4)

- 図 69 寺内 18 号墳出土埴輪 (7) 実測図 (S=1/4)
- 図 70 寺内 18 号墳出土埴輪 (8) 実測図 (S=1/4)
- 図 71 寺内 18 号墳出土土器 (1) 実測図 (S=1/4)
- 図 72 寺内 18 号墳出土土器 (2) 実測図 (S=1/4)
- 図 73 寺内 18 号墳出土土器 (3) 実測図 (S=1/4)
- 図 74 墳丘復元図 (S=1/250)
- 図 75 埴輪樹立位置の復元案
- 図 76 寺内 18 号墳の後円部及び前方部の横穴式石室  
(関西大学 1967 より転載)
- 図 77 前山 B 地区出土須恵器 (奥村 1996 より、S=1/3)
- 図 78 前山 B367 号墳横穴式石室実測図 (和歌山市教育委員会 2016 より、S=1/60)
- 図 79 和歌山県立考古民俗博物館 (仮称) 建設に伴う  
試掘確認調査トレンチ配置図 (S=1/1,500)
- 図 80 岩橋型横穴式石室模式図
- 図 81 前山 B370 号墳 (4-2 トレンチ) 平面図及び立面  
図 (S=1/40)
- 図 82 前山 B370 号墳 (4-2 トレンチ) 立面図及び断面  
図 (S=1/40)
- 図 83 前山 B370 号墳 (4-2 トレンチ) 断面図 (S=1/40)
- 図 84 前山 B370 号墳 (4-2 トレンチ) 玄室床面遺物出土  
状況図及び遺物取り上げ区画図 (S=1/30・S=1/80)
- 図 85 前山 B370 号墳 (4-17 トレンチ) 平面図及び立面  
図 (S=1/40)
- 図 86 前山 B370 号墳墳丘復元図 (S=1/150)
- 図 87 前山 B369 号墳 (4-3 トレンチ)、周辺 (4-10 トレンチ)  
平面図及び断面図、立面図 (S=1/40)
- 図 88 前山 B371 号墳 (4-11、4-16 トレンチ) 平面図及  
び断面図 (S=1/40)
- 図 89 前山 B369 号墳 (4-3 トレンチ)、周辺 (4-10 トレンチ)  
平面図及び、立面図 (S=1/40)
- 図 90 花木園東部地区隣接地 (4-13 トレンチ) 平面図  
及び断面図 (S=1/80)
- 図 91 花木園東部地区隣接地 (4-12、4-14 トレンチ) 平  
面図及び断面図 (S=1/40)
- 図 92 土器・埴輪実測図 (S=1/4)
- 図 93 武器 (鉄刀・刀装具) 実測図 (鉄刀 S=1/3・  
刀装具 S=1/2)
- 図 94 武器 (鉄鏃) 実測図 (S=1/2)
- 図 95 工具 (鹿角装刀子・鉄鉈・鉄鑿) 実測図 (S=1/2)
- 図 96 金属製鞍の部位名称 (宮代 1996 より)
- 図 97 その他鉄製品実測図 (S=1/2)
- 図 98 馬具 (縁金具・覆輪・鞍金具・雲珠・辻金具・花  
形飾) 実測図 (S=1/2)
- 図 99 装身具 (耳環、空玉、滑石白玉) 実測図 (S=2/3)
- 図 100 前山 B 地区古墳墳丘復元図 (S=1/500)

## 表 目 次

- 表 1 3 級基準点一覧
- 表 2 分布調査古墳一覧
- 表 3 分布調査採集遺物観察表
- 表 4 井辺 1 号墳出土及び井辺地区採集遺物観察表
- 表 5 遺物観察表 (寺内 18 号墳)
- 表 6 岩橋千塚古墳群における馬具副葬古墳と副葬品
- 表 7 遺物観察表 1
- 表 8 遺物観察表 2

## 写 真 目 次

- 写真 1 墳丘検出作業 (井辺 1 号墳)
- 写真 2 現地説明会 (井辺 1 号墳)
- 写真 3 埴輪列検出作業 (寺内 18 号墳)
- 写真 4 現地説明会 (前山 B370 号墳)
- 写真 5 分布調査の様子 (井辺 12 号墳)
- 写真 6 寺内 18 号墳出土土器内部の土壌サンプル採取作業
- 写真 7 現在の石室の状況 (南西から)
- 写真 8 CT 撮影による開封前の坏の内部確認
- 写真 9 開封後の坏身・坏蓋の内部 (混入土壌除去後)
- 写真 10 みねせんげ出土黥面人物埴輪 (大野 1981 より)
- 写真 11 KE4 号墳 (前山 B225 号墳) 発掘状況
- 写真 12 前山 B369 号墳 (4-3 トレンチ) 埋戻し状況
- 写真 13 前山 B370 号墳 (4-2 トレンチ) 横穴式石室検出  
状況 (東から)
- 写真 14 前山 B370 号墳玄室床面検出状況 (北から)
- 写真 15 玄室床面雲珠 (67) 出土状況 (西から)

- |       |                               |                                    |
|-------|-------------------------------|------------------------------------|
| 写真 16 | 玄室床面鉄刀 (35) 出土状況 (東から)        | 状況 (北から)                           |
| 写真 17 | 玄室床面耳環 (71・72) 出土状況 (北から)     | 写真 20 前山 B368 号墳 (4-15 トレンチ) 埋葬施設検 |
| 写真 18 | 周辺埋葬施設検出状況 (北から)              | 出状況 (北から)                          |
| 写真 19 | 前山 B369 号墳 (4-3 トレンチ) 横穴式石室検出 |                                    |

## 巻頭図版目次

### 巻頭写真 1 井辺 1 号墳

1. 井辺 1 号墳 7 トレンチ (墳丘東側面の段築成 東から)

### 巻頭写真 2 寺内 18 号墳

1. 寺内 18 号墳 前方部北西隅 全景 (北西から)
2. 寺内 18 号墳 前方部北西隅土器埋納遺構出土土器

### 巻頭写真 3 前山 B370 号墳

1. 前山 B370 号墳全景 (西から)

### 巻頭写真 4 分布調査における新規確認埋葬施設

1. 井辺 18 号墳 (横穴式石室)
2. 井辺 32 号墳 (横穴式石室又は堅穴式石室)
3. 寺内 118 号墳 (横穴式石室)
4. 寺内 118 号墳 (横穴式石室)
5. 寺内 112 号墳 (横穴式石室)
6. 寺内 119 号墳 (横穴式石室)
7. 寺内 122 号墳 (横穴式石室)
8. 寺内 146 号墳 (堅穴式石室か)

## 図版目次

### 写真図版 1 (分布調査 大日山地区)

1. 大日山 20 号墳
2. 大日山 22 号墳・28 号墳
3. 大日山 30 号墳
4. 大日山 31 号墳
5. 大日山 32 号墳
6. 大日山 36 号墳
7. 大日山 37 号墳・34 号墳
8. 大日山 38 号墳

### 写真図版 2 (分布調査 大日山地区)

1. 大日山 39 号墳
2. 大日山 40 号墳
3. 大日山 41 号墳
4. 大日山 42 号墳
5. 大日山 44 号墳
6. 大日山 45 号墳
7. 大日山 46 号墳
8. 大日山 47 号墳

### 写真図版 3 (分布調査 大日山地区)

1. 大日山 48 号墳
2. 大日山 49 号墳

3. 大日山 50 号墳

4. 大日山 51 号墳
5. 大日山 52 号墳
6. 大日山 57 号墳
7. 大日山 59 号墳
8. 大日山 60 号墳

### 写真図版 4 (分布調査 大日山地区 / 井辺地区)

1. 大日山 61 号墳
2. 大日山 72 号墳
3. 大日山 73 号墳
4. 大日山 74 号墳
5. 大日山 77 号墳
6. 井辺 2 号墳
7. 井辺 3 号墳
8. 井辺 4 号墳

### 写真図版 5 (分布調査 井辺地区)

1. 井辺 5 号墳
2. 井辺 6 号墳
3. 井辺 7 号墳
4. 井辺 8 号墳
5. 井辺 9 号墳

6. 井辺 10 号墳
7. 井辺 11 号墳
8. 井辺 12 号墳

**写真図版 6 (分布調査 井辺地区)**

1. 井辺 13 号墳
2. 井辺 14 号墳
3. 井辺 15 号墳
4. 井辺 16 号墳・19 号墳
5. 井辺 17 号墳
6. 井辺 18 号墳
7. 井辺 20 号墳
8. 井辺 21 号墳

**写真図版 7 (分布調査 井辺地区)**

1. 井辺 22 号墳
2. 井辺 23 号墳
3. 井辺 24 号墳・38 号墳
4. 井辺 25 号墳
5. 井辺 26 号墳
6. 井辺 27 号墳
7. 井辺 29 号墳
8. 井辺 30 号墳

**写真図版 8 (分布調査 井辺地区)**

1. 井辺 31 号墳
2. 井辺 32 号墳
3. 井辺 33 号墳
4. 井辺 34 号墳
5. 井辺 35 号墳
6. 井辺 36 号墳
7. 井辺 37 号墳
8. 井辺 39 号墳

**写真図版 9 (分布調査 井辺地区 / 寺内地区)**

1. 井辺 40 号墳
2. 寺内 7 号墳
3. 寺内 8 号墳
4. 寺内 13 号墳
5. 寺内 14 号墳
6. 寺内 16 号墳
7. 寺内 17 号墳
8. 寺内 24 号墳

**写真図版 10 (分布調査 寺内地区)**

1. 寺内 25 号墳
2. 寺内 26 号墳

3. 寺内 27 号墳
4. 寺内 29 号墳
5. 寺内 30 号墳
6. 寺内 31 号墳
7. 寺内 33 号墳
8. 寺内 39 号墳

**写真図版 11 (分布調査 寺内地区)**

1. 寺内 40 号墳
2. 寺内 42 号墳
3. 寺内 44 号墳
4. 寺内 58 号墳
5. 寺内 65 号墳
6. 寺内 66 号墳
7. 寺内 67 号墳
8. 寺内 68 号墳

**写真図版 12 (分布調査 寺内地区)**

1. 寺内 69 号墳
2. 寺内 70 号墳
3. 寺内 71 号墳
4. 寺内 72 号墳
5. 寺内 76 号墳
6. 寺内 77 号墳
7. 寺内 78 号墳
8. 寺内 94 号墳

**写真図版 13 (分布調査 寺内地区)**

1. 寺内 98 号墳
2. 寺内 99 号墳
3. 寺内 100 号墳
4. 寺内 101 号墳
5. 寺内 102 号墳
6. 寺内 103 号墳
7. 寺内 104 号墳
8. 寺内 105 号墳

**写真図版 14 (分布調査 寺内地区)**

1. 寺内 106 号墳
2. 寺内 107 号墳
3. 寺内 108 号墳
4. 寺内 109 号墳
5. 寺内 110 号墳
6. 寺内 111 号墳
7. 寺内 112 号墳
8. 寺内 113 号墳・114 号墳

**写真図版 15 (分布調査 寺内地区)**

1. 寺内 115 号墳
2. 寺内 116 号墳
3. 寺内 117 号墳
4. 寺内 118 号墳
5. 寺内 119 号墳
6. 寺内 120 号墳
7. 寺内 121 号墳
8. 寺内 122 号墳

**写真図版 16 (分布調査 寺内地区)**

1. 寺内 123 号墳
2. 寺内 124 号墳
3. 寺内 125 号墳
4. 寺内 126 号墳・127 号墳
5. 寺内 128 号墳
6. 寺内 129 号墳
7. 寺内 130 号墳
8. 寺内 131 号墳

**写真図版 17 (分布調査 寺内地区)**

1. 寺内 132 号墳
2. 寺内 133 号墳
3. 寺内 135 号墳・134 号墳
4. 寺内 136 号墳
5. 寺内 137 号墳
6. 寺内 138 号墳
7. 寺内 139 号墳
8. 寺内 140 号墳

**写真図版 18 (分布調査 寺内地区)**

1. 寺内 141 号墳
2. 寺内 142 号墳
3. 寺内 143 号墳
4. 寺内 144 号墳
5. 寺内 146 号墳
6. 寺内 147 号墳
7. 寺内 148 号墳
8. 寺内 149 号墳

**写真図版 19 (分布調査 寺内地区/前山A地区/前山B地区)**

1. 寺内 150 号墳
2. 寺内 151 号墳
3. 寺内 152 号墳
4. 寺内 153 号墳
5. 前山 A10 号墳

6. 前山 A14 号墳
7. 前山 A15 号墳
8. 前山 B192 号墳

**写真図版 20 (分布調査 前山 B 地区)**

1. 前山 B193 号墳
2. 前山 B194 号墳
3. 前山 B195 号墳
4. 前山 B196 号墳
5. 前山 B197 号墳
6. 前山 B198 号墳
7. 前山 B259 号墳
8. 前山 B260 号墳

**写真図版 21 (分布調査 表面採集遺物)**

1. 大日山 35 号墳南東側平坦地 採集遺物 (1～10・12・13)

**写真図版 22 (分布調査 表面採集遺物)**

1. 分布調査採集遺物 大日山 35 号墳南東側平坦地 (11・14～17)・寺内 63 号墳 (18)・寺内 119 号墳 (19)・寺内 90 号墳 (20～22)

**写真図版 23 (井辺 1 号墳 現況)**

1. 墳丘 (南西から)
2. 墳丘前面の基壇上面 (西から)
3. 基壇と墳丘 (南西から)

**写真図版 24 (井辺 1 号墳 1 トレンチ)**

1. 掘削前の状況 (南東から)
2. 周溝部検出の焼土及び石 (西から)
3. 墳裾及び基壇上面 (東から)
4. 基壇部断ち割り (南東から)
5. 墳丘南東隅部分検出状況 (南東から)

**写真図版 25 (井辺 1 号墳 1 トレンチ)**

1. 墳丘部北東部断ち割り 1 (東から)
2. 墳丘部北東部断ち割り 2 (東から)
3. 北壁土層断面 1 (南から)
4. 北壁土層断面 2 (南から)
5. 北壁土層断面 3 (南から)

**写真図版 26 (井辺 1 号墳 1 トレンチ)**

1. 墳丘部西部断ち割り (南から)
2. 墳丘部西部断ち割り北側土層断面 (南から)
3. 西壁土層断面 1 (東から)
4. 西壁土層断面 2 (東から)
5. 西壁土層断面 3 (東から)
6. 南北アゼ基壇側土層断面 (東から)
7. 中央東側断ち割り部土層断面 (南から)



**写真図版 27 (井辺 1号墳 2トレンチ)**

1. 墳丘南西隅部分検出状況 (南西から)
2. 南北アゼ墳裾側土層断面 (南東から)
3. 西壁基壇側土層断面 (東から)
4. 南東部基壇部断ち割り (南西から)
5. 3層遺物出土状況 (北から)

**写真図版 28 (井辺 1号墳 3-1トレンチ)**

1. 掘削前の状況 (南から)
2. 墳丘部掘削状況 (南西から)
3. 墳丘部掘削状況 (南から)
4. 石室前面部掘削状況 (北東から)
5. 1段目テラス検出状況 (南東から)
6. 2段目テラス及び西壁土層断面 (東から)
7. 基壇検出状況 (東から)

**写真図版 29 (井辺 1号墳 3-2トレンチ)**

1. 基壇斜面検出状況 (南から)
2. 基壇斜面検出状況 (南西から)
3. 基壇斜面検出状況 (北から)
4. 基壇斜面北側断ち割り (東から)
5. 西壁土層断面 (南東から)

**写真図版 30 (井辺 1号墳 4トレンチ)**

1. 掘削前の状況 (北東から)
2. 掘削状況 (南東から)
3. 墳丘背後の丘陵部の掘削状況 (南西から)
4. 墳丘背面 (北から)
5. 墳丘側東壁土層断面 (南西から)
6. 墳丘部断ち割り (西から)
7. 周溝部土層断面 (西から)

**写真図版 31 (井辺 1号墳 5トレンチ)**

1. 墳丘北東隅部分検出状況 (東から)
2. 掘削状況 (南東から)
3. 周溝部分岩盤削り出し状況 (南から)
4. 南壁周溝部土層断面 (北から)
5. 周溝部遺物出土状況 (南から)

**写真図版 32 (井辺 1号墳 6トレンチ)**

1. 墳丘北西隅部分検出状況 (北西から)
2. 周溝部アゼ土層断面 (南西から)
3. 西壁土層断面 (東から)
4. 墳丘部断ち割り (西から)
5. 墳丘部断ち割り土層断面 (北から)

**写真図版 33 (井辺 1号墳 7トレンチ)**

1. 掘削前の状況 (南から)

2. 周溝部掘削状況 (南西から)
3. 周溝部掘削状況 (南から)
4. 墳丘部掘削状況 (南から)
5. 墳丘部掘削状況 (南東から)

**写真図版 34 (井辺 1号墳 7トレンチ)**

1. 北壁墳丘側土層断面 1 (南から)
2. 北壁墳丘側土層断面 2 (南から)
3. 北壁墳丘側土層断面 3 (南から)
4. 北壁墳丘側土層断面 4 (南から)
5. 北壁墳丘側土層断面 5 (南から)
6. 北壁墳丘側土層断面 6 (南から)
7. 2段目テラス及び3段目テラス (南東から)
8. 1段目テラス (南東から)

**写真図版 35 (井辺 1号墳 出土遺物)**

1. 井辺 1号墳 出土遺物 (1～10)

**写真図版 36 (井辺 1号墳及び井辺地区 出土遺物)**

1. 井辺 1号墳及び井辺地区 出土遺物 (11～18)

**写真図版 37 (寺内 18号墳 現況)**

1. 遠景 (岩橋山塊南側から)
2. 前方部北東から後円部を望む
3. 前方部横穴式石室開口部 (西から)
4. 前方部横穴式石室 (左・中央: 前室から前室前道のぞむ 右: 前室及び玄室前道北側壁)

**写真図版 38 (寺内 18号墳 1トレンチ)**

1. 掘削前の状況 (南から)
2. 墳頂側 完掘状況 (北西から)
3. 東壁土層断面 1 墳頂 (西から)
4. 完掘状況 (南から)
5. 東壁土層断面 2 墳頂から墳丘斜面 (西から)
6. 墳丘斜面及び基壇平坦面 (南西から)
7. 東壁土層断面 3 墳裾付近 (西から)

**写真図版 39 (寺内 18号墳 2・3トレンチ)**

1. 2トレンチ完掘状況 (東から)
2. 2トレンチ墳頂部南壁土層断面 (北東から)
3. 3トレンチ完掘状況 (東から)
4. 3トレンチ墳頂側完掘状況 (西から)
5. 3トレンチ墳裾付近南壁土層断面 1 (北東から)

**写真図版 40 (寺内 18号墳 3トレンチ)**

1. 墳裾付近南壁土層断面 2 (北東から)
2. 北壁土層断面 箱式石棺東側掘方 (南から)
3. 箱式石棺西側掘方検出状況 (北から)
4. 箱式石棺蓋石及び粘土検出状況 (南から)

5. 箱式石棺検出状況(東から)
6. 箱式石棺 粘土断ち割り後西側板石検出状況(西から)
7. 3-2トレンチ 全景(西から)
8. 3-2トレンチ 北壁土層断面(南から)

#### 写真図版 41 (寺内 18 号墳 4 トレンチ)

1. 墳丘・基壇面・埴輪ハ 検出状況(北から)
2. 墳丘盛土断割り部南壁土層断面(北から)
3. 4・5トレンチ間アゼ撤去後 埴輪ニ検出状況(西から)
4. 4・5トレンチ 基壇端付近(西から)
5. 墳裾付近東壁土層断面(西から)
6. 埴輪ハ 検出状況(北から)
7. 埴輪ニ 基部検出状況(北西から)

#### 写真図版 42 (寺内 18 号墳 5 トレンチ)

1. 前方部北西隅部 墳丘・基壇面・埴輪列検出状況(北西から)
2. 土器埋納遺構検出状況(北西から)
3. 土器埋納遺構 埋土除去後1(西から)
4. 土器埋納遺構 埋土除去後2(南から)

#### 写真図版 43 (寺内 18 号墳 5 トレンチ)

1. 前方部北側基壇面及び埴輪列検出状況(北東から)
2. 前方部北西側 墳丘及び基壇検出状況(西から)
3. 前方部北側 墳裾及び東壁土層断面(西から)
4. 前方部北側 埴輪列及び須恵器大甕検出状況(北西から)
5. 須恵器大甕底部検出状況(北から)
6. 須恵器大甕据え付け痕(北から)
7. 南西断ち割り部完掘状況(左:全景 中央:墳裾付近南壁土層断面 右:基壇裾付近南壁土層断面)

#### 写真図版 44 (寺内 18 号墳 5 トレンチ)

1. 埴輪ホ 検出状況(北から)
2. 埴輪ヘ 検出状況1(北から)
3. 埴輪ヘ 検出状況2(北から)
4. 埴輪ト 左:半裁状況 右:基部検出状況(北から)
5. 埴輪チ 検出状況(北から)
6. 埴輪リ 検出状況(北から)
7. 埴輪ヌ 基部検出状況(西から)
8. 埴輪ル 基部検出状況(西から)

#### 写真図版 45 (寺内 18 号墳 6 トレンチ)

1. 墳丘及び基壇面検出状況(北から)
2. 礫混じり墳丘盛土検出状況(北から)
3. 墳丘盛土断ち割り部土層断面(北から)

4. 基壇上面 埴輪イ・埴輪ロ検出状況(北から)

#### 写真図版 46 (寺内 18 号墳 6 トレンチ・その他)

1. 埴輪イ 半裁状況(北から)
2. 埴輪イ 基部検出状況(北から)
3. 埴輪ロ 基部検出状況(北から)
4. 埴輪イ・埴輪ロ 検出状況(北西から)
5. 6トレンチ墳頂側断ち割り(東から)
6. 6トレンチ墳頂側断ち割り部西壁土層断面(東から)
7. 前方部東側埴輪露出地点 完掘状況(南東から)
8. 前方部墳頂埴輪露出地点 埴輪出土状況(北から)

#### 写真図版 47 (寺内 18 号墳 出土遺物)

1. 1トレンチ 出土埴輪(1~4)
2. 2トレンチ 出土埴輪(5~12)

#### 写真図版 48 (寺内 18 号墳 出土遺物)

1. 2トレンチ 出土埴輪(13~21)

#### 写真図版 49 (寺内 18 号墳 出土埴輪)

1. 3トレンチ 出土埴輪(22~33)

#### 写真図版 50 (寺内 18 号墳 出土埴輪)

1. 4トレンチ 出土埴輪(34~42)

#### 写真図版 51 (寺内 18 号墳 出土遺物)

1. 5トレンチ 出土埴輪(43~48・53~55)

#### 写真図版 52 (寺内 18 号墳 出土遺物)

1. 5トレンチ 出土埴輪(49~52・56・57)

#### 写真図版 53 (寺内 18 号墳 出土遺物)

1. 4・5トレンチ出土埴輪 4・5トレンチ間(58・59・62)・5トレンチ(60・61)

#### 写真図版 54 (寺内 18 号墳 出土遺物)

1. 6トレンチ 出土埴輪(63~75)

#### 写真図版 55 (寺内 18 号墳 出土遺物)

1. その他出土埴輪 前方部墳頂埴輪露出地点(76~79)・前方部墳頂(横穴式石室周辺)(80)・前方部墳頂(81・82)・前方部墳頂(横穴式石室羨道部南側)(83・84)・前方部東斜面埴輪露出地点 出土埴輪(85・86)

#### 写真図版 56 (寺内 18 号墳 出土遺物)

1. その他出土埴輪 前方部北東(87~89)・前方部西(90・91)・前方部横穴式石室前庭(92)・墳丘外(東くびれ部下北側)(93~95)・後円部南西墳裾付近(96)・墳丘外(西側斜面下)(97)

#### 写真図版 57 (寺内 18 号墳 出土遺物)

1. その他出土埴輪 寺内 18 号墳(98~104)・伝寺内 18 号墳前方部(105~107)

#### 写真図版 58 (寺内 18 号墳 出土遺物)

1. 5トレンチ 土器埋納遺構出土土器 (108～115)

**写真図版 59 (寺内 18号墳 出土遺物)**

1. 5トレンチ 土器埋納遺構出土土器 (116～125)

**写真図版 60 (寺内 18号墳 出土遺物)**

1. その他出土土器 5トレンチ (126)・3トレンチ前方部横穴式石室埋戻し土 (127)・墳丘南西 (128)・墳丘外西斜面下 (129)・5トレンチ (130)・前方部東斜面埴輪露出地点 (131)・4トレンチ埴輪付近 (132)・4トレンチ 埴輪ハ周辺 (133・134)・5トレンチ 埴輪ホ・ヘ間 (135)・5トレンチ埴輪ト 内部 (136)・5トレンチ須恵器大甕周辺 出土土器 (137)

**写真図版 61 前山 B370号墳 (4-2トレンチ)**

1. 横穴式石室全景 (東から)
2. 横穴式石室全景 (西から)
3. 玄室全景 (北東から)
4. 羨道及び玄室全景 (東から)

**写真図版 62 前山 B370号墳 (4-2トレンチ)**

1. 玄室床面東半全景 (南西から)
2. 玄室右側壁石積み (北から)
3. 玄室床面東半全景 (西から)
4. 奥壁・左側壁取り合い状況 (西から)
5. 羨道・玄室前道全景 (北から)

**写真図版 63 前山 B370号墳 (4-2トレンチ)**

1. 羨道・玄室前道全景 (南から)
2. 羨道仕切石 (東から)
3. 羨道・墓道全景 (北から)
4. 前庭部及び東端墳丘裾 (東から)
5. 墓道断ち割り状況 (東から)

**写真図版 64 前山 B370号墳 (4-2トレンチ)**

1. 玄室床面雲珠 (67) 出土状況 (西から)
2. 玄室床面雲珠 (67) 出土状況 (東から)
3. 玄室床面鹿角装刀子 (47) 出土状況 (東から)
4. 玄室床面鉄鑿・鉄鉈 (50) 出土状況 (西から)
5. 玄室床面耳環 (71・72) 出土状況 (南東から)
6. 玄室床面鉄刀 (35) 出土状況 (東から)
7. 玄室床面耳環 (74)、刀装具 (37) 出土状況 (西から)
8. 玄室床面刀装具 (36) 出土状況 (東から)

**写真図版 65 前山 B370号墳 (4-17トレンチ)**

1. 4-17トレンチ全景 (東から)
2. 西端墳丘裾付近土層断面 (北から)
3. 周辺埋葬施設付近土層断面 (北から)
4. 周辺埋葬施設土器 (5) 出土状況 (北から)

5. 周辺埋葬施設土層断面 (西から)

6. 周辺埋葬施設完掘状況 (西から)

7. 周辺埋葬施設完掘状況 (北から)

**写真図版 66 前山 B369号墳 (4-3トレンチ)**

1. 横穴式石室全景 (東から)
2. 横穴式石室全景 (北西から)
3. 羨道・框石付近 (東から)
4. 前壁・左側壁取り合い状況 (北東から)
5. 玄室床面全景 (北東から)

**写真図版 67 前山 B368号墳 (4-3トレンチ)、周辺 (4-10トレンチ)**

1. 横穴式石室全景 (北から)
2. 玄室内礫堆積状況 (西から)
3. 玄室内礫堆積状況 (北から)
4. 奥壁・左側壁取り合い状況 (西から)
5. 奥壁石積み (西から)
6. 4-10トレンチ遺構1 礫検出状況 (南から)
7. 4-10トレンチ遺構1 全景 (北から)

**写真図版 68 前山 B371号墳 (4-11トレンチ)、花木園東部地区隣接地 (4-12トレンチ)**

1. 4-11トレンチ全景 (北から)
2. 墳丘盛土検出状況 (南西から)
3. 墳丘盛土検出状況 (南西から)
4. 4-12トレンチ全景 (北から)
5. 4-12トレンチ東壁土層断面

**写真図版 69 前山 B368号墳 (4-15トレンチ)**

1. 4-15トレンチ全景 (北から)
2. 埋葬施設全景 (西から)
3. 埋葬施設全景 (南から)
4. 埋葬施設全景 (北東から)
5. 埋葬施設検出前石積み (北西から)

**写真図版 70 花木園東部地区隣接地 (4-13・4-14トレンチ)**

1. 4-13トレンチ全景 (南から)
2. 4-13トレンチ全景 (北西から)
3. 4-13トレンチ遺構1 土層断面 (南から)
4. 4-14トレンチ全景 (南から)
5. 4-14トレンチ遺構1 検出状況 (南から)
6. 4-14トレンチ遺構1 土層断面 (東から)
7. 4-14トレンチ遺構1 土層断面 (南東から)

**写真図版 71 前山 B地区出土遺物**

1. 土器・埴輪 前山 B370号墳 (1～5)・前山 B369

号墳 (6～24)・前山 B371 号墳 (25)・前山 B368

号墳 (26～28)・花木園東部地区周辺 (29～34)

写真図版 72 前山 B 地区 (前山 B370 号墳) 出土遺物

1. 武器 鉄刀 (35)・刀装具 (36～39)・鉄鏃 (40～46)

写真図版 73 前山 B 地区 (前山 B370 号墳) 出土遺物

1. 工具 鹿角装刀子 (47)・鉄鉋・鉄鑿 (48～50)

その他鉄製品 (51～54) 馬具 縁金具 (55～46)・

鞍金具 (63)

写真図版 74 前山 B 地区 (前山 B370 号墳) 出土遺物

1. 馬具 覆輪 (61・62)・鞍金具 (64)・辻金具

(65・66)・雲珠 (67・68)・花形飾 (69・70)

装身具 耳環 (73)・空玉 (75)・滑石白玉 (76)

# 第1章 経緯と経過

## 第1節 調査の経緯

岩橋千塚古墳群は、和歌山市の岩橋山塊に所在する約900基からなる国内最大規模の古墳群である。そのうち総面積629,944㎡の範囲については、国の特別史跡に指定され県立紀伊風土記の丘として整備と活用がなされているが、現在も指定地外に数多くの古墳が存在し、特別史跡周辺では大規模開発計画により、未指定の古墳の保存が危ぶまれていることから、追加指定による保護が急務とされる。こうした状況をうけ、和歌山県教育委員会では、令和2年度(2020)より、未指定範囲における詳細測量調査や分布調査、主要古墳の範囲確認調査を実施し、未指定範囲を特別史跡への追加指定することを目的とした特別史跡岩橋千塚古墳群第4次追加指定事業を開始した。

また、この事業と併行して、和歌山県では平成29年に策定した和歌山県長期総合計画において和歌山県立紀伊風土記の丘の資料館を再編整備することを記載し、平成31年3月には、『和歌山県立考古民俗博物館(仮称)基本構想』を策定した。この新館の建設にあたり、現在の資料館の西側及び南側で事前に埋蔵文化財の試掘確認調査を実施した結果、前山B370号墳など古墳4基をあらたに発見し、有識者の指導を得ながら保存のための調査を実施した。

本書では、令和2年度に実施した井辺地区の詳細測量調査、井辺1号墳の発掘調査、令和3年度に実施した寺内地区の詳細測量調査、寺内18号墳の発掘調査、令和4・5年度に実施した大谷山地区・大日山地区・井辺地区・寺内地区・前山A地区・前山B地区の分布調査及び、令和3年度に実施した前山B368号墳・B369号墳・B370号墳・B371号墳の発掘調査の内容を収録した。

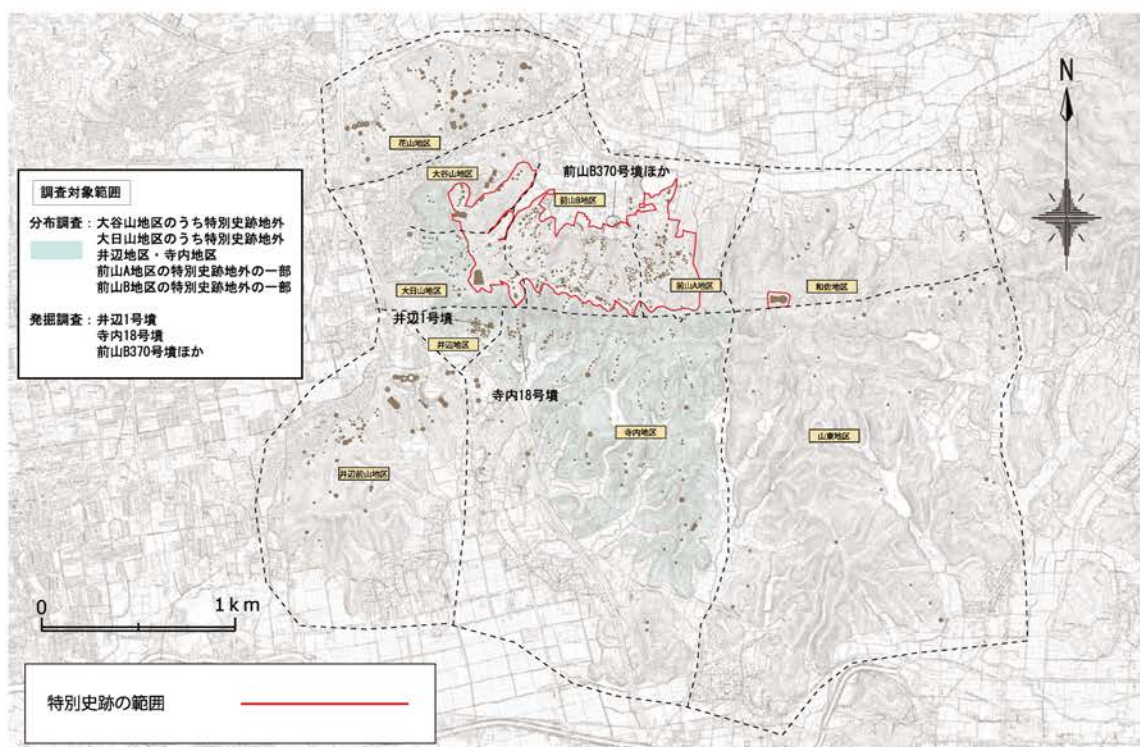


図1 岩橋千塚古墳群の地区割と調査対象範囲

## 第2節 調査の経過

### (1) 令和2年度(2020)

第4次追加指定事業において、井辺地区の詳細測量調査(基準点測量及び地上レーザ測量)及び井辺1号墳の範囲確認調査を実施した。

測量調査は株式会社NAC総建に委託し実施した。発掘調査は公益財団法人和歌山県文化財センターに発掘調査支援事業として委託し、調査支援を受けながら県教育委員会文化遺産課が直接実施した。

調査は、令和2年8月から令和3年3月までの期間で測量調査を、令和2年11月から令和3年3月に1～7トレンチを設定して約119㎡の発掘調査を行った。

調査成果の公開のため、現地説明会を令和3年2月27日に開催した。開催時はコロナ禍であったため、1回につき定員30名(事前申し込み制)で、3回に分けて実施した。

調査終了後は、トレンチに不織布を敷設した後、人力により埋め戻した。

### (2) 令和3年度(2021)

第4次追加指定事業において、寺内地区の詳細測量調査(基準点測量及び地上レーザ測量)及び寺内18号墳の範囲確認調査を実施した。

測量調査は株式会社NAC総建に委託し実施し、発掘調査は公益財団法人和歌山県文化財センターに発掘調査支援事業として委託し、調査支援を受けながら県教育委員会文化遺産課が直接実施した。

調査は、令和3年6月から令和4年3月に測量調査を、令和3年7月から令和4年3月に1～6トレンチを設定して約63㎡の発掘調査を行った。また、前方部のトレンチ(5トレンチ)においては、写真測量による3次元オルソフォト(3次元モデル)の作成を株式会社NAC総建に委託し実施した。

現地説明会はコロナ禍のため、令和4年3



写真1 墳丘検出作業(井辺1号墳)



写真2 現地説明会(井辺1号墳)



写真3 埴輪列検出作業(寺内18号墳)

月に、1回につき定員30名（事前申し込み制）で、3回に分けて実施した。

調査終了後は、埴輪露出部分及び遺構部分に川砂を充填し保護したうえで、トレンチ全面に不織布を敷設した後、人力により埋め戻した。

また、和歌山県立考古民俗博物館（仮称）建設に伴う第4次試掘確認調査においては、調査時に前山B370号墳など古墳4基を発見したため、有識者の指導を得ながら保存のための調査を実施した。

発掘調査は公益財団法人和歌山県文化財センターに発掘調査支援事業として委託し、調査支援を受けながら、県立紀伊風土記の丘が実施した。

調査成果の公開は、現地説明会を令和4年3月に開催したほか、現地説明会の動画配信も行った。

調査終了後は、トレンチに不織布を敷設した後、人力で埋め戻した。



写真4 現地説明会（前山B370号墳）



写真5 分布調査の様子（井辺12号墳）

### （3）令和4・5年度（2022・2023）

第4次追加指定事業において、岩橋千塚古墳群の未指定範囲のうち、大谷山地区の一部・大日山地区の一部・井辺地区・寺内地区・前山A地区の一部・前山B地区の一部の分布調査及び井辺1号墳及び寺内18号墳の出土遺物整理作業を実施した。分布調査及び整理作業は、公益財団法人和歌山県文化財センターに分布調査支援事業として委託し、作業支援を受けながら県教育委員会文化遺産課が実施した。

分布調査は、対象面積約950,000㎡の範囲を、令和4年度に43日間、令和5年度に4日間にかけて実施した。

整理作業においては、出土遺物の水洗、登録、接合、実測、写真撮影に加え、寺内18号墳の調査において良好な状態で取り上げた土器について、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所の指導・協力のもと、土器内部の土壌サンプルを採取し、分析を行った。

和歌山県立考古民俗博物館（仮称）建設に伴う調査においては、前山B370号墳の出土遺物整理作業及び出土した金属製品の保存処理事業を実施した。

出土遺物整理作業の残りは、公益財団法人和歌山県文化財センターに支援事業として委託し、作業支援を受けながら県立紀伊風土記の丘が実施した。金属製品の保存処理は、株式会社吉田生物研究所に委託して実施した。



写真6 寺内18号墳出土土器内部の土壌サンプル採取作業

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

岩橋千塚古墳群が所在する和歌山市は、和歌山県の北西部に位置し、北は大阪府岬町と阪南市、東は岩出市、紀の川市、南は海南市に隣接し、西は紀伊水道に面している。岩橋千塚古墳群周辺の地形は、中央構造線が東西に横断し、これによって地質構造上で北側の西南日本内帯と南側の西南日本外帯に分けられる。この中央構造線の南に紀ノ川が西流しており、和歌山市を紀ノ川北岸と南岸に二分している。紀ノ川は、奈良県と三重県の県境に位置する大台ヶ原を源流とし、紀伊水道に注ぐ延長136kmの一級河川であり、運ばれてきた土砂により和歌山平野が形成されている。北岸には内帯に属する和泉山脈があり、領家変成帯の西南端にあたる。和泉山脈は堆積岩である礫岩・砂岩・泥岩の互層をなす和泉層群で構成される。南岸には外帯に属する龍門山脈があり、変成岩である結晶片岩を主体とする三波川変成帯（長瀬変成帯）にあたる。龍門山脈は結晶片岩中に貫入した蛇紋岩からなる龍門山（756m）が主峰となり、西側へ標高を減じながら、途中紀ノ川支流に分断されるが岩橋山塊まで続く。岩橋山塊は和歌山市市街地の東にある丘陵で、標高140～155mの結晶片岩類で構成される山塊である。東から天王塚山（155m）・大日山（142m）と連なり、北端の花山（77m）や西端の福飯ヶ峯（101m）へと小山塊が続く。この岩橋山塊に岩橋千塚古墳群は位置する。



図2 岩橋千塚古墳群の位置

### 第2節 歴史的環境

#### (1) 周辺の歴史的環境

旧石器時代の遺跡は、紀ノ川北岸の西庄Ⅱ遺跡や園部遺跡、鳴滝遺跡など和泉山脈の山間部や山麓でナイフ形石器の出土が確認されている他、紀ノ川南岸の山東地区の大池遺跡ではナイフ形石器をはじめ各種の石器が多数採集されている。

縄文時代の遺跡は、明治28年（1895）に近畿地方で初めて発見された縄文貝塚として国史跡に指定され、抜歯した若い女性を伸展葬で埋葬した土坑墓などが検出された鳴神貝塚、イノシシの牙を利用したナイフが出土した欄宜貝塚のほか、吉礼貝塚、岡崎遺跡、井辺遺跡、津秦Ⅱ遺跡などが岩橋山塊周辺で確認されている。

弥生時代の遺跡は、紀ノ川南岸では前期末の環濠の可能性も指摘されている大溝を伴う集落が確認された太田・黒田遺跡、紀ノ川北岸では後期の竪穴建物内から蛇紋岩製の勾玉・管玉の原石・



未成品・完成品が出土した吉田遺跡や、田屋遺跡、西田井遺跡、北田井遺跡、宇田森遺跡、川辺遺跡などの集落が紀ノ川沿いの沖積低地に立地する。岩橋山塊南西側の菖蒲谷遺跡では中期の台状墓が検出されている。中期末から後期前半には平野部の集落が激減し、岩橋山塊の天王塚山遺跡や滝ヶ峯遺跡、紀ノ川北岸では橋谷遺跡などの高地性集落が出現する。再び平野部に集落が移るのは後期後半以降で、岩橋山塊南西部の井辺遺跡で竪穴建物などの遺構が確認され、庄内式併行期から古墳時代前期には、井辺遺跡や秋月遺跡周辺では前方後円形あるいは前方後方形墳丘墓を伴う墓域が形成される。また、紀ノ川下流域では、太田・黒田遺跡、橋谷Ⅰ～Ⅲ遺跡、宇田森遺跡、有本銅鐸出土地、砂山銅鐸出土地、吉里銅鐸出土地で、県内で40点発見されている銅鐸のうち6口が発見されている。

古墳時代の遺跡は、岩橋山塊周辺では前期末に岩橋山塊西側で旧谷川から滑石製模造品や鳥形土器などが出土し水辺の祭祀跡と考えられる大日山Ⅰ遺跡や、中期には灌漑用水と考えられる大溝が確認される鳴神Ⅱ遺跡や鳴神地区遺跡が形成される。紀ノ川北岸では、中期から後期にかけての大規模製塩遺跡である西庄遺跡、古墳時代の大型倉庫7棟が並んで確認された鳴滝遺跡や、陶質土器が多数出土した楠見遺跡、埴輪窯が2基確認された平井遺跡が知られている。

次に岩橋千塚古墳群周辺の古墳について概観する。まず、紀ノ川下流域南岸では、岩橋山塊西側に県内最古の前方後円墳と考えられる秋月1号墳が築造され、中期から後期には秋月、鳴神地区遺跡などで円墳・方墳が造られる。

岩橋山塊東側では、鳩羽山（明楽山）の北斜面に、明楽、小倉、小倉神社、モント塚、宮山、東国山、寺山、奥山田古墳群、南斜面には具束壺、七ツ塚古墳群など後期から終末期にかけての古墳群が形成される。明楽古墳群は14基の円墳で構成され、4・5号墳は岩橋型横穴式石室に類似した玄室前道が確認されているが、玄門部に立柱石を立てるなど相違点がみられ別形態の石室と考えられる。小倉古墳群は9基の円墳で構成され、1・8号墳は横穴式石室で、1号墳は玄門に立柱石を用いている。8号墳は石棚を持つ岩橋型横穴式石室である。東国山古墳群は5基の円墳で構成され、1号墳では未盗掘の竪穴式石室が調査され、男女2体の人骨と鉄刀、鉄鏃、刀子、玉類と多量の須恵器が検出された。宮山古墳群では、6号墳などが横穴式石室である。奥山田古墳群では、6世紀後半の小竪穴式石室（6号墳）、7世紀の無袖式横穴式石室（8号墳）が確認された。具束壺1～3号墳は7世紀の横穴式石室である。七ツ塚古墳群は主に7世紀代に横穴式石室が構築され、2号墳は板石を組み合わせた横穴式石室である。寺山古墳群は方墳3基を含む27基程度の6世紀後半から7世紀の古墳群で、蛇紋岩を用いた穹窿式横穴式石室が構築されている。

岩橋山塊南東側の貴志川流域の平野部では、古墳時代中期～後期にかけて円墳である籾子塚古墳、丸山古墳、三味塚古墳や前方後円墳である双子三味塚古墳、平池1号墳が築造される。丸山古墳は、副室を持つ箱式石棺から鉄鋌・鉄鉢等の鉄製品、玉類、琴柱形石製品などが発見された。平池1号墳は、東側くびれ部に陸橋が付設された6世紀前半の前方後円墳である。紀ノ川と貴志川の合流地点付近の丘陵上には、船戸山古墳群、船戸箱山古墳が形成される。船戸山1～3・6号墳は岩橋型横穴式石室で、このうち2・3号墳は石棚を有する。船戸山古墳群は6世紀前半から中頃に構築され、墳丘には埴輪列が確認された。なお、船戸山3号墳では横穴式石室2基と竪穴式石室1基、6号墳では横穴式石室と箱式石棺が1基ずつ、船戸箱山古墳では5つの石室（横穴式石室2基、竪穴式石室3基）が築かれ、1つの古墳に複数の埋葬施設が構築されているのが特徴的である。紀ノ川南岸には、一墳丘多葬の古墳が少なくなく、また多様な埋葬施設を用いる点も特徴として挙げられる。この特徴は岩橋千塚古墳群の中・小型前方後円墳や小型円墳とも共

通する。

岩橋山塊南側から海南市にかけても多数の古墳が造営されている。伊太祈曾神社1号墳は石棚・石梁をもつ6世紀中頃の岩橋型横穴式石室である。城ノ前1号墳は玄室側壁を小口積みで構成するが、奥壁に巨石を使用するなど岩橋型横穴式石室とは相違点がある。薬勝寺南山古墳群では1号墳が6世紀後半の箱式石棺、2号墳が横穴式石室である。室山古墳群は、6世紀中葉から7世紀前半の7基からなる古墳群で、1・2号墳は石棚・石梁を持つ岩橋型横穴式石室である。山崎山古墳群は16基の古墳で構成され、5世紀前半には造り出しを有する墳長45mの前方後円墳で、主体部が礫床をもつ割竹形木棺である5号墳、箱式石棺をもつ2号墳が築造された。6世紀初頭には、木棺直葬の15号墳、竪穴式石室をもつ6世紀の3・11・13・14号墳、6世紀後半から7世紀初頭の石棚を持つ岩橋型横穴式石室が確認された1号墳がある。

紀ノ川北岸では、釜山古墳群にある車駕之古址古墳が調査の結果、段築、盾形周濠、造り出しを備えた5世紀中頃の全長100m以上の前方後円墳と判明し、国内唯一の金製勾玉などが出土した。高芝1号墳は7世紀の和泉砂岩を用いた横穴式石室をもつ円墳で、2号墳は全長約40mの前方後円墳である。晒山古墳群は10基の古墳から構成され、5世紀前半の晒山1号墳は主体部が粘土礫で直刀や玉類が出土した。6世紀前半の晒山4号墳や墳長35mの前方後円墳である10号墳（背見山古墳）は横穴式石室を持つ。5世紀末に築かれた墳長70mの前方後円墳である大谷古墳は、組合式家形石棺をもち、鉄製馬冑・馬甲などの豊富な副葬品が出土している。雨が谷古墳群は、5世紀後半から6世紀前半の木棺直葬（1号墳）、T字型横穴式石室（2号墳）が調査された。6世紀から7世紀に築造された鳴滝古墳群は10基の古墳から構成され、1号墳は石棚を有する岩橋型横穴式石室で、金銅製飾履などが出土している。2号墳・10号墳では和泉砂岩を用いた横穴式石室、6号墳では木棺直葬が確認された。奥出古墳、園部円山古墳は、ともに和泉砂岩の巨石を用いた横穴式石室で、園部山古墳からは金銅装大刀や馬具が出土している。六十谷1・2号墳はともに5世紀代の埴輪が出土し、2号墳は全長27mの前方後円墳で埴輪列・葺石が確認されている。六十谷古墳群の東側には北山、直川八幡山、八王子山、別所、上野古墳群が続くが、発掘調査はほとんど実施されていない。八王子山古墳群は、前方後円墳3基を含む約20基の古墳群で、木棺直葬（8号墳）、横穴式石室（16号墳）が確認されている。奈良時代以降には、紀国一宮の日前・国懸神宮に隣接する秋月遺跡で、奈良時代～室町時代の官衙的な施設と考えられる掘立柱建物が検出された。太田・黒田遺跡では奈良時代の大型井戸から斎串や和同開珎が出土し、神宮周辺には条理地割が残るなど、神宮を中心とした開発が行われている。

平安時代半ば過ぎからは、岩橋千塚古墳群の東端にあたる矢田峠が熊野参詣道である紀路（紀伊路）とされ、和泉山脈の雄ノ山峠から紀ノ川を越えた後、伊太祈曾神社へ向かう道として多くの参詣者が利用した。

鎌倉時代には、神前遺跡で溝及び耕作痕が確認された他、宮井用水の水路の肩やそれに伴う屋敷地の区画溝も確認されており、田畑の開墾が一層進んだ。16世紀後半には、羽柴秀吉による水攻めのため岩橋千塚の北西に位置する雑賀衆の居城である太田城が陥落し、その後、羽柴秀長によって西方の丘陵上に和歌山城が築城される。関ヶ原の戦いの後は、桑山一晴、浅野幸長と城主が代わり、徳川頼宣が入城して御三家である紀州徳川家を創設し、約250年にわたり紀州藩により統治された。江戸時代の岩橋千塚古墳群周辺は、紀州藩附家老安藤家の領地であり、初代田辺藩主である安藤帯刀直次の業績をたたえる石碑が紀伊風土記の丘園内の安藤塚に建てられている。

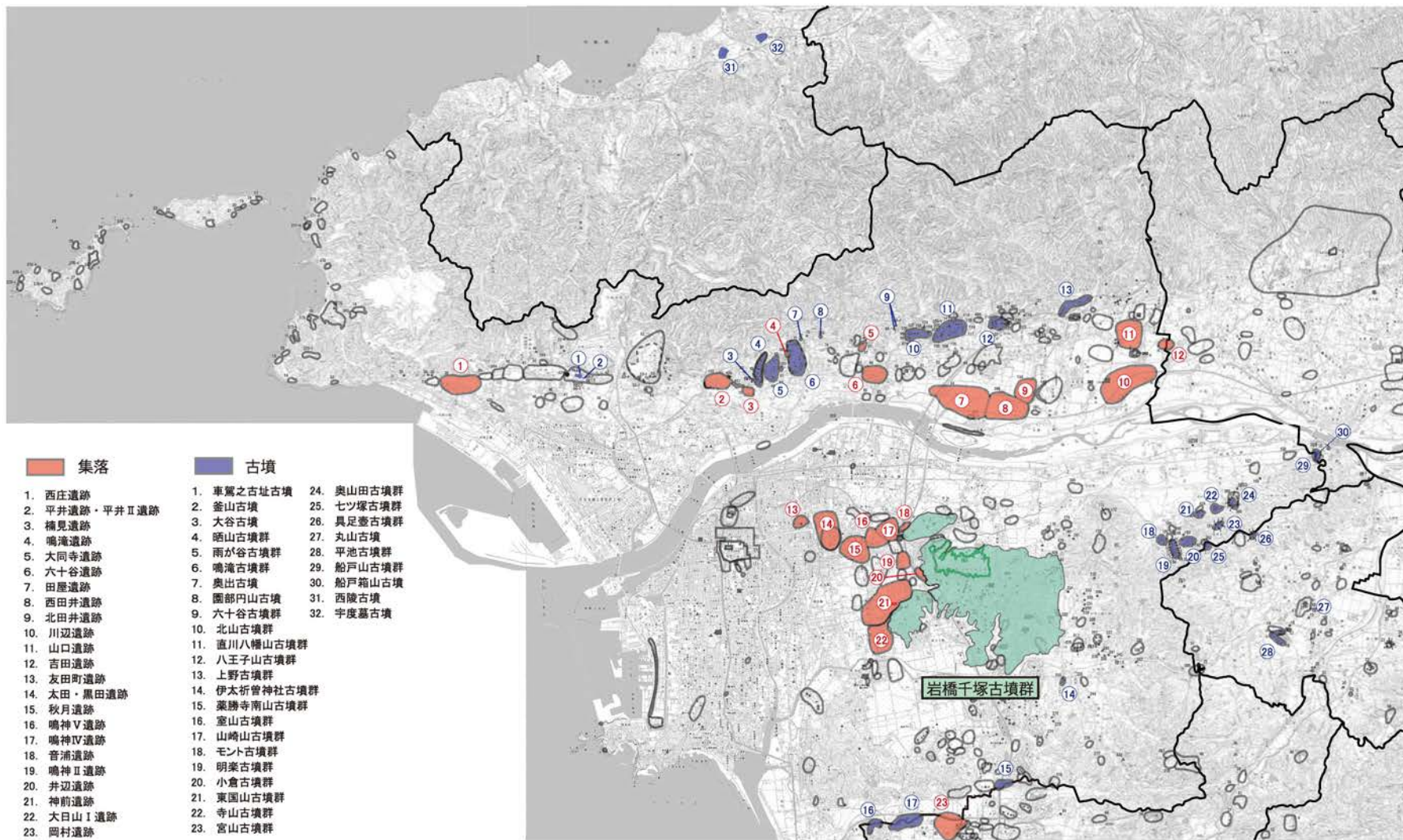


図3 岩橋千塚古墳群と周辺の主要遺跡

### (3) 岩橋千塚古墳群

#### 岩橋千塚古墳群の概要

岩橋千塚古墳群は、明治時代以降複数の調査が行われてきており、古墳群の範囲についてはそのつど認識が変化してきた。和歌山県教育委員会が発行している『和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図』並びに『特別史跡岩橋千塚古墳群保存活用計画』では、岩橋千塚古墳群は、和歌山平野の東側、紀ノ川下流南岸にある岩橋山塊一帯の東西約 3km、南北約 2.5km の範囲に広がる 4 世紀末から 7 世紀後半にかけて造られた総数約 900 基に及ぶ古墳群である。古墳群は便宜上、花山地区、大谷山地区、大日山地区、前山 A 地区、前山 B 地区、寺内地区、井辺地区、井辺前山地区、和佐地区、山東地区の 10 地区に分けられる。このうち、特別史跡岩橋千塚古墳群の指定範囲は、前山 A 地区、前山 B 地区、大日山地区、大谷山地区の一部と、和佐地区と山東地区の境界に位置する天王塚古墳周辺の総面積 629,944㎡で、約 500 基の古墳が分布している（図 2）。

岩橋山塊北側の平野部の地名が「岩橋」であり、この地域に面した山塊北斜面を前山とし、大正 7 年（1918）から和歌山県によって調査された範囲を前山 A 地区、その西を前山 B 地区と呼称している。前山 A 地区では、小型の前方後円墳や大型円墳、小型円墳や方墳が多数確認されている。前山 B 地区は、岩橋千塚古墳群の中で古墳の密度が最も高い地区である。岩橋山塊主稜線上に将軍塚・知事塚・郡長塚といった大型の前方後円墳が並び、尾根と標高 20～150m の緩斜面に円墳が群集する。

岩橋千塚古墳群における古墳の築造は 4 世紀末までには始まり、標高約 77m の花山山頂に墳長 52m の前方後円墳の花山 8 号墳が築かれ、後円部の粘土槨と推定される埋葬施設からは鏡が出土したと伝わる。その後、花山地区では、5 世紀前半の前方後円墳である花山 10 号墳、花山 44 号墳と円墳が築造され、6 世紀初頭までは花山地区が古墳群の中心であった。その他の地区では、5 世紀前半の円墳である大谷山 39 号墳や寺内 63 号墳などの円墳、前期から中期にかけて井辺前山 24 号墳が築造され、5 世紀中頃に前山 A 地区で小型の方墳が築造されるが、各地区の造墓活動は停滞するとみられる。この時期の岩橋千塚古墳群における首長墓は、中型の前方後円墳の採用や副葬品の内容から、ヤマト政権との関係をもちえた紀ノ川流域の在地勢力の存在を示すが、必ずしも他地域に比して卓越した規模ではない。

6 世紀初頭には、竪穴式石室、箱式石棺、粘土槨に加えて、結晶片岩を用い、玄室に石棚や石梁が懸架され、玄室前道を備え、その入口を扉石で閉塞する等の特徴をもつ岩橋型横穴式石室が導入される。6 世紀に入ると、紀ノ川北岸で築造される前方後円墳の規模が縮小し、これと対照的に紀ノ川南岸の岩橋山塊で前方後円墳の築造が増加する。6 世紀初頭に、初期の岩橋型横穴式石室を備えた花山 6 号墳が造られた後、花山地区の南方に連なる大谷山地区の大谷山山頂には南側に造り出しを持つ全長 80m、墳長 68m の前方後円墳の大谷山 22 号墳が、大日山地区には標高 141m の大日山山頂に全長 105m、墳長 86m の前方後円墳である大日山 35 号墳が造られ、さらにその周辺に前方後円墳、円墳が分布し、東に隣接する前山 B 地区とは谷筋などで区切られる。大日山 35 号墳は東西の造り出しから出土した多くの埴輪の中に両面人物埴輪や翼を広げた鳥形埴輪など独自性の強い埴輪が認められる。さらに、井辺前山地区には墳長 67m の井辺八幡山古墳といった紀ノ川下流域の首長墓である大型前方後円墳が岩橋千塚古墳群に築造される。その後は、6 世紀中頃に標高 155m の天王塚山山頂に築かれた墳長 88m、大型の岩橋型横穴式石室を備えた天王塚古墳をピークにして古墳の規模は縮小する。6 世紀中頃に山塊主稜線上に築かれた将軍塚古墳は、墳長 42m の前方後円墳であるが、前方後円墳の築造が停止した後の 6 世紀後半の

首長墓とみられる寺内 57 号墳は、大型の横穴式石室をもつが、直径 40m 前後の円墳である。

一方、6 世紀の首長墓の築造とともに大型前方後円墳の周辺には中・小型の前方後円墳、円墳、方墳が混在して築かれて群集墳が形成される。岩橋千塚古墳群では岩橋山塊の最高所と東西の主稜線上に大型の前方後円墳が築かれ、そこから派生する南北方向の尾根から裾部にかけて中・小型の前方後円墳や円墳が造られている。6 世紀中頃には、前山 A・B 地区においても中・小型古墳が密集して築造される。

6 世紀末から 7 世紀初頭に、首長墓は方墳へと変化し、大日山南斜面には岩橋型横穴式石室を持つ 7 世紀初頭の大型方墳である井辺 1 号墳が築造される。岩橋千塚古墳群における最後の墓域は、井辺地区と寺内地区に主体が移り、寺内地区では 6 世紀後半から 7 世紀代と推定される小型の円墳が複数築造される。その後、7 世紀後半前後まで追葬が続けられたと考えられるが、遅くも 8 世紀初頭には岩橋千塚古墳群はその機能を停止したと推定される。

このように岩橋千塚古墳群は長期間にわたり、岩橋山塊という同一墓域に大型の前方後円墳から中・小型の前方後円墳、円墳、方墳まで、多様な墳丘規模と形態の古墳が築造されるという特徴がある。埋葬施設も、粘土槨、箱式石棺、竪穴式石室、横穴式石室など多様な埋葬施設が用いられている。特に結晶片岩の板石を積み上げて石室を構築し、石棚・石梁をもつ岩橋型横穴式石室は岩橋千塚古墳群を中心に分布する特徴的な石室で、6 世紀前半～後半には周辺地域にも影響を与えている。また、一墳丘多葬が中・小型古墳に認められることも特徴といえる。

岩橋千塚古墳群は、その独自性から紀ノ川下流域の在地勢力により築かれた古墳群であると考えられる。大型古墳の被葬者は、地域首長に比定される。中・小型古墳の被葬者は、地域首長の支配体制に組み込まれた有力家族層と考えられ、大日山 70 号墳のように渡来系集団と密接に関わりをもつ被葬者も含まれる。これらの古墳の被葬者たちは、地域首長を頂点とした強い結びつきをもった同族集団と考えられ、文献の記述における豪族「紀氏」との密接な関わりが想定される。

## 岩橋千塚古墳群の調査

岩橋山塊は古墳群の造営後、近年まで土地利用の痕跡は顕著ではない。その中で、日前・国懸神社に近い花山地区は、花山古墓と仮称されている平安時代の蔵骨器の出土が確認されている。また、盗掘によるものか信仰に伴うものか判断できないが、大日山 35 号墳や將軍塚古墳等の石室内からは鎌倉時代の瓦器片が出土した記録がある。

江戸時代には、岩橋千塚古墳群の周辺は紀州藩附家老安藤家の領地となっており、盗掘はあまり進まなかったと推定される。天保 10 年(1839)に編纂された『紀伊続風土記』の岩橋村の項に「村の南山に古墳の跡多し誰の墳なるや詳ならず」と記載されている。また、『紀伊国名所図会』の姻山の項に「此山において往々陶器ほり出すことあり…上古の墳墓にもあらんか。その既に荒廢の跡、土人まれ、にその埋葬の具をひろひ得るをもて、はじめは陶器山ともいひしなるを、後世離してトツキ山とよべるにや」と記載があり、花山地区の古墳に関する記述が遺されている。なお、花山は、姻山・陶器山のほかにハニ山・埴輪山と呼ばれており、昔から埴輪が見つかったことによる名称であろう。

明治時代になると、藩は解体されて県へと変わり、岩橋千塚古墳群周辺は明治時代のはじめに西和佐村の共有地となったが、そのころの状況は伝わっていない。

明治 39 年(1906)には、東京帝国大学の坪井正五郎と交友のあった紀州徳川家の当主・徳川頼倫が古墳群の踏査を行っており、この翌年の明治 40 年(1907)には、東京帝国大学人類学教

室の大野運雲外が岩橋千塚古墳群で出土した装飾付須恵器や天王塚古墳・將軍塚古墳・前山 A17 号墳の石室構造について報告している。前山 A17 号墳では発掘調査が実施され、箱式石棺の副室から衝角付冑が出土した。明治 44 年（1911）には、イギリス人の N.G. マンローが『Prehistoric Japan』で岩橋千塚古墳群の石室を海外に紹介している。この頃、岩橋千塚古墳群の石室や副葬品が広く知られるようになるとともに、盗掘も行われるようになっていった。

大正 7 年（1918）からは、和歌山県が岩橋千塚第一期調査を行っている。東京帝国大学の黒板勝美の指導のもと岩井武俊・田澤金吾らが前山 A 地区を調査し、大正 10 年（1921）に『和歌山県史蹟名勝天然記念物調査会報告書第一輯』として報告している。この報告には、前山 A 地区の古墳分布図のほか、古墳の図面と写真が多数掲載されている。報告された古墳は前山 A46 号墳や前山 A67 号墳など 27 基にのぼり、このうち 11 基の古墳は、現在紀伊風土記の丘の石室公開古墳として活用されている。

岩橋千塚古墳群は、当時の西和佐村の共有地で現在の前山 A・B 地区にあたる範囲が昭和 6 年（1931）7 月 31 日、内務省告示第 275 号をもって史跡指定を受けた。昭和 7（1932）に刊行された『和歌山県史蹟名勝天然記念物調査会報告第十二輯』には、大日山 35 号墳の石室に大日如来が祀られ、多くの参拝者が出入りしていたことが記述されている。また東方隣接地の整地中に石室が発見され、石室内から鏡などが出土したと報告されているが、大日山 35 号墳との関係は判然としない。

第二次世界大戦の終わる昭和 20 年頃には防空壕の掘削などにより古墳の破壊が進行している。戦後間もない昭和 23 年頃には食料難による岩橋千塚古墳群の開墾計画が持ち上がったが、田中敬忠・宮田啓二氏らの尽力により古墳群は保存された。古墳群の保存運動として全国でも初期の例として知られ、昭和 27 年（1952）3 月 29 日に特別史跡指定に結実した。しかし、昭和 30～40 年代になると、岩橋千塚古墳群周辺では市街化が進み、古墳群は存亡の危機に立たされた。市街地に近い花山・大谷山・井辺前山等の地区では、開発と文化財保護の折り合いが付かず、花山 10 号墳や花山 44 号墳、井辺前山 6 号墳など岩橋千塚古墳群の主要な前方後円墳までもが消滅していった。

このような中で、和歌山市教育委員会は関西大学・同志社大学の協力を得て、古墳群の実態調査に乗り出した。調査成果は『岩橋千塚』や『井辺八幡山古墳』の報告書にまとめられ、古墳の分布や、主要古墳の規模・形状や石室、出土遺物等が紹介された。また、和歌山県教育委員会では昭和 44 年（1969）に特別史跡岩橋千塚古墳群の県有地化を進め、昭和 46 年（1971）8 月に和歌山県立紀伊風土記の丘として開園した。紀伊風土記の丘開園後の昭和 47～48 年（1972～1973）には、隣接する大谷山地区において粘土槨をもつ大谷山 39 号墳の調査や初期の横穴式石室をもつ大谷山 6 号墳などの調査を実施した。また、昭和 50 年度には紀伊風土記の丘園内にて、花木園・花木園東地区の発掘調査と墳丘の復元整備を行っている。昭和 63 年（1988）には、特別史跡の追加指定が行われ、周辺地の古墳の保存が図られた。

平成 7～10 年度には、特別史跡岩橋千塚古墳群の周辺部において古墳の分布踏査と発掘調査が行われ、岩橋千塚全体の把握が進み、大谷山 12～17・38 号墳の周辺は平成 12 年度に特別史跡に追加指定された。

和歌山県では、平成 15 年から岩橋千塚古墳群の保存と活用をより充実させるために特別史跡岩橋千塚古墳群整備計画を策定し、保存修理事業を開始した。平成 15 年度から平成 26 年度までの第 1 期整備では、大日山 35 号墳の調査及び修景工事を核とした整備事業を実施した。同古墳からは、両面人物埴輪など特徴的な埴輪群が出土し、平成 28 年に重要文化財に指定された。ま

た、前山 A2 号墳、前山 B41 号墳、前山 A67 号墳、前山 A13 号墳、前山 A17 号墳、前山 A9 号墳、前山 A58 号墳の発掘調査及び整備と、知事塚古墳を含む 9 基の古墳の測量を実施した。また、崩壊が著しい石室の埋戻し及び修景、支障木の伐採、統一したサインの設置、石室照明の設置、排水路の改修等を実施した。

平成 27 年度から令和 2 年度までの第 2 期整備では、岩橋千塚古墳群の多様性を示すため、小規模前方後円墳である前山 A58 号墳の整備を中心に事業を進め、さらに、第 1 期整備に引き続き崩壊が激しい石室の埋戻し及び修景、支障木の伐採、排水路の改修等を実施している。

平成 26 年度からは内容確認調査を実施し、平成 28 年 10 月には首長墓である大谷山 22 号墳の一部及び天王塚古墳が特別史跡に追加指定された。天王塚古墳については、今後の整備方針策定のための情報収集を目的として、平成 29・30 年度に横穴式石室の再発掘調査と墳丘の発掘調査を実施した。

令和 3 年度からは第 3 期整備を開始した。また、未指定範囲においては、特別史跡への追加指定を目的に令和 2 年度から特別史跡岩橋千塚古墳群第 4 次追加指定事業を実施している。

### 【引用・参考文献】

高市志友 1812『紀伊国名所図会』巻ノ四（文化 9 年（1812）年出版）  
 仁井田好古編 1889『紀伊続風土記』（天保 10 年（1839）年 3 月 15 日謹上）  
 金谷克己 1955『紀伊の古墳 1』紀伊考古学研究会、  
 金谷克己 1956『紀伊の古墳 2』綜藝舎、  
 金谷克己 1960『紀伊の古墳 3』日本考古学研究会  
 関西大学文学部考古学研究室 1967『岩橋千塚』  
 関西大学考古学研究室編 1967『花山西部地区古墳』  
 和歌山県文化財研究会 1967「和歌山市鳴滝古墳群の調査」『和歌山県文化財学術調査報告第二冊』  
 和歌山市教育委員会・関西大学考古学研究室 1968『和歌山市東部地区埋蔵文化財（古墳）第一次分布調査概報』  
 大野嶺夫 1971「明楽山山塊の古墳群について」『古代学研究』62  
 関西大学考古学研究室編 1972『和歌山市における古墳文化』  
 同志社大学考古学研究室編 1972『井辺八幡山古墳』  
 和歌山県教育委員会 1972『近畿自動車道和歌山線埋蔵文化財調査報告』  
 同志社大学文学部文化学科考古学研究室 1973『和歌山市楠見雨が谷古墳群調査報告』  
 和歌山県教育委員会 1978『山崎山古墳群緊急発掘調査報告書』  
 紀伊風土記の丘管理事務所 1981『岩橋千塚とその周辺』  
 和歌山県史編纂委員会 1983『和歌山県史』考古資料、原始・古代  
 和歌山県教育委員会 1984『鳴滝遺跡発掘調査報告書』  
 和歌山県教育委員会 1984『鳴神地区遺跡発掘調査報告書』  
 和歌山県教育委員会 1987『広域遺跡群詳細分布調査 1 井辺前山古墳群とその関連遺跡』  
 園部円山古墳保存会 1989『和歌山市指定文化財（史跡）園部円山古墳調査概報』  
 財団法人和歌山県文化財センター 1990『田屋遺跡』  
 和歌山市教育委員会 1991『六十谷古墳群発掘調査報告書』  
 和歌山市教育委員会 1993『車駕之古址古墳発掘調査概報』  
 財団法人和歌山県文化財センター 1994『秋月遺跡』  
 和歌山県教育委員会 2000『岩橋千塚周辺古墳緊急確認調査報告書』  
 大野嶺夫 2003『岩橋千塚とてころ・どてころ』  
 和歌山県教育委員会 2005『緊急雇用対策特別基金事業に係る発掘調査資料整理概報』  
 財団法人和歌山県文化財センター 2006『楠見遺跡』  
 和歌山県立紀伊風土記の丘 2008『岩橋千塚』  
 和歌山県教育委員会 2010『特別史跡岩橋千塚古墳群発掘調査・保存整備事業報告書 1』  
 和歌山県教育委員会 2013『大日山 35 号墳発掘調査報告書 - 特別史跡岩橋千塚古墳群発掘調査・保存整備事業報告書 2-』  
 和歌山県教育委員会 2015『特別史跡岩橋千塚古墳群発掘調査・保存整備事業報告書 3- 大日山 35 号墳・前山 A13 号墳・前山 A58 号墳発掘調査報告書 -』  
 和歌山県教育委員会 2016『大谷山 22 号墳、天王塚古墳 - 特別史跡岩橋千塚古墳群追加指定に伴う発掘調査報告書 -』  
 和歌山県立紀伊風土記の丘 2016『岩橋千塚とその時代 - 紀ノ川流域の古墳文化 -』  
 和歌山県教育委員会 2017『特別史跡岩橋千塚古墳群 - 大谷山 4・5・6・39 号墳発掘調査報告書 -』  
 和歌山県教育委員会 2018『岩橋千塚古墳群 - 大谷山 27 号墳・28 号墳 発掘調査報告書 -』  
 和歌山県教育委員会 2019『特別史跡岩橋千塚古墳群保存活用計画』  
 和歌山市 2020『岩橋千塚古墳群寺内地区確認調査報告書』  
 和歌山県教育委員会 2020『特別史跡岩橋千塚古墳群 - 天王塚古墳 2 次・3 次発掘調査報告書 -』  
 和歌山県教育委員会 2021『特別史跡岩橋千塚古墳群発掘調査・保存整備事業報告 4』

## 第3章 分布調査の成果

### 第1節 調査の目的と方法

#### (1) 調査の目的

岩橋千塚古墳群は、明治期の徳川頼倫や大野雲外らによる調査にはじまり、和歌山市教育委員会、関西大学、在野の研究者、和歌山県教育委員会による分布調査によって、古墳の把握に努めてきたが、現地での古墳の特定や新規発見古墳の取り扱いについて、少なからず混乱が生じていた。

そこで、古墳群内の古墳の分布及び古墳の可能性のある地形の把握に努めることを目的に、樹木が繁茂した広範囲においても地形の凹凸を把握し可視化が可能な航空レーザ測量による DEM (数値標高モデル) に基づく測量図及び赤色立体地図の作成を行うとともに、これに基づく現地踏査を実施した。

#### (2) 航空レーザ測量及び詳細地形レーザ測量の経過

和歌山県教育委員会では、平成 23 年度に特別史跡地を対象に、平成 29・30 年度に古墳群全域を対象に航空レーザ測量により測量図と赤色立体地図 (図 4) を作成するとともに、赤色立体地図を活用した分布調査を実施し、特別史跡地内で約 40 基の古墳の新規発見をした。(和歌山県教育委員会 2019)

令和 2 年度からは、株式会社 NAC 総建に委託し、井辺地区及び寺内地区の基準的測量及び詳細地形測量図の作成を行った。令和 2 年度は井辺地区で対象面積 21,000㎡、令和 3 年度は寺内地区の寺内 18 号墳周辺で対象面積 19,977㎡である。基準点測量では、3 級基準点 5 箇所及び 4 級基準点 23 箇所を新たに設置した。詳細地形測量は、地上レーザ測量により実施し、縮尺 100 分の 1 で 10cm コンターの測量図を作成した (図 5・6)。

表 1 3 級基準点一覧

年度	基準点	級数	X	Y	H (m)	緯度	経度	設置業者	設置日
令和 2 年度	3K-1	3 級	-196,897.378	-72,118.278	9.347	34° 13' 21.2073"	135° 13' 2.1154"	株式会社 NAC 総建	令和 2 年 9 月 5 日
令和 2 年度	3K-2	3 級	-197,008.605	-71,932.454	14.453	34° 13' 17.6438"	135° 13' 9.4088"	株式会社 NAC 総建	令和 2 年 9 月 5 日
令和 2 年度	3K-3	3 級	-197,070.813	-71,828.57	11.195	34° 13' 15.6507"	135° 13' 13.4861"	株式会社 NAC 総建	令和 2 年 9 月 5 日
令和 3 年度	3K-4	3 級	-196,997.684	-71,567.329	48.949	34° 13' 18.0888"	135° 13' 23.6708"	株式会社 NAC 総建	令和 3 年 8 月 3 日
令和 3 年度	3K-5	3 級	-197,009.567	-71,566.736	47.756	34° 13' 17.7033"	135° 13' 23.6975"	株式会社 NAC 総建	令和 3 年 8 月 3 日

※世界測地系

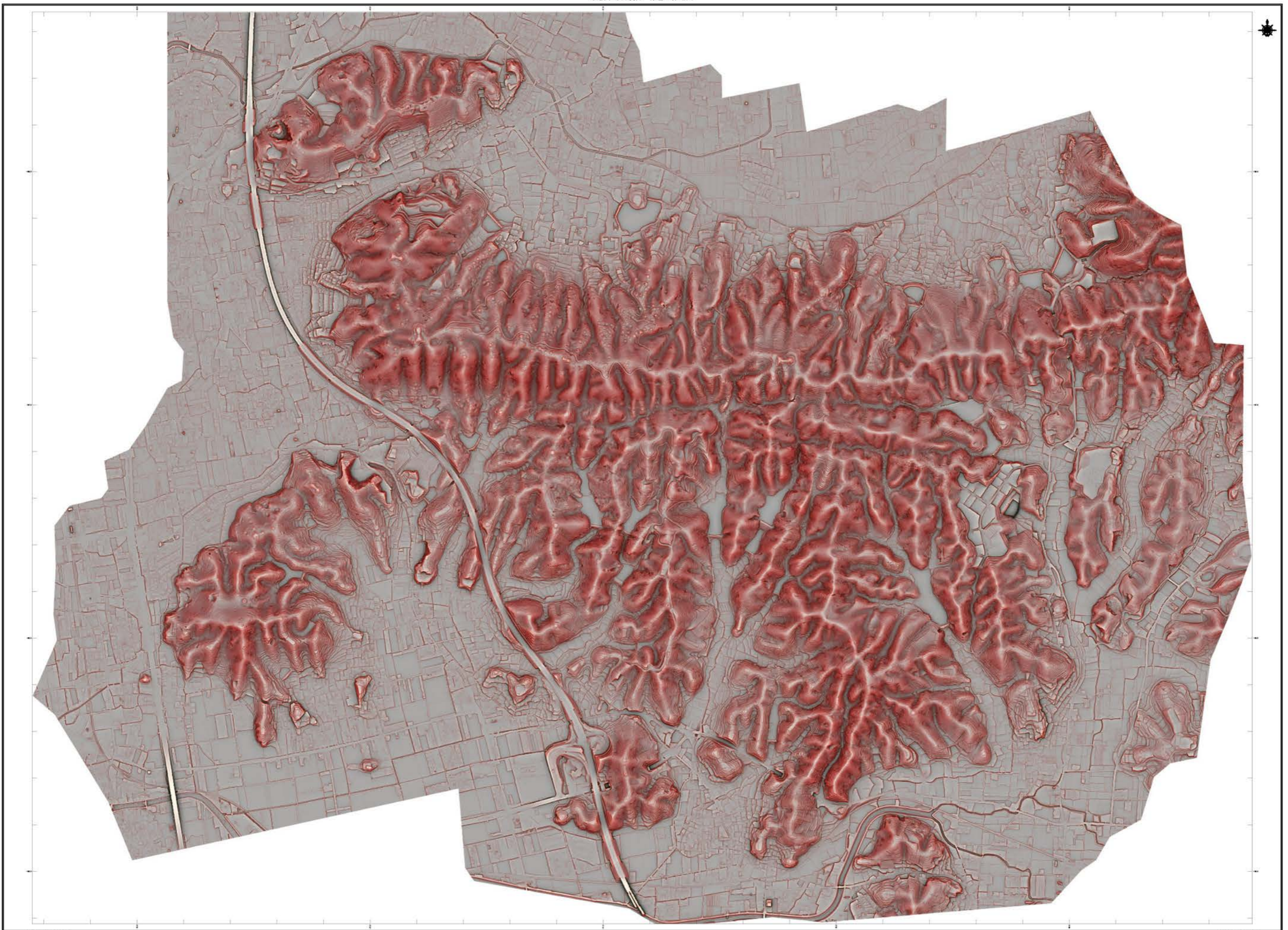
#### (3) 調査の方法

古墳の分布状況及び現況の確認のため、対象範囲の現地踏査を実施した。対象範囲は、岩橋千塚古墳群の大谷山地区の一部、大日山地区の一部、井辺地区、寺内地区、前山 A 地区の一部、前山 B 地区の一部で、対象面積は約 950,000㎡である (図 7)。現地踏査は、令和 4 年度及び令和 5 年度に実施した。

対象地の多くは雑木林又は竹林で、一部は放棄された果樹園であった。樹木に加えて、斜面にはシダ類が多く繁茂し見通しが悪いことから、事前に赤色立体地図又は詳細地形測量図において墳丘の可能性のある箇所を全て抽出し、現地では抽出した全地点において、清掃、写真撮影、地形観察、記録 (カルテの作成)、遺物の表面採集を実施することで、古墳群全域の調査を効率的に行った。

調査によって、新規発見した古墳には新規古墳番号を付与したほか、これまでの古墳番号において重複がみられるものについても整理を行い、重複があるものについては、片方の番号を新たな番号に変更した。尚、古墳番号については、欠番となっていた番号を埋めた後に新規番号を付与した (表 2)。



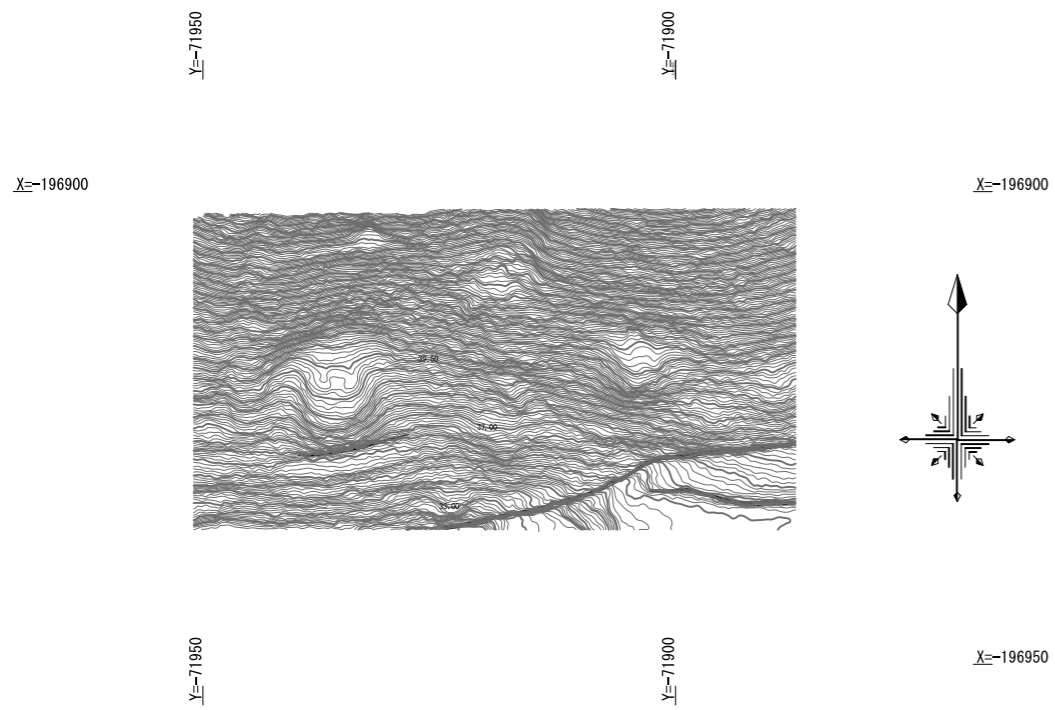


測量日：平成25年 7月31日  
平成30年11月29日

中国国土院 製作

0 200 400 600 800 1,000 (m)

図4 岩橋千塚古墳群赤色立体地図 (S=1/15,000)



•3K-2

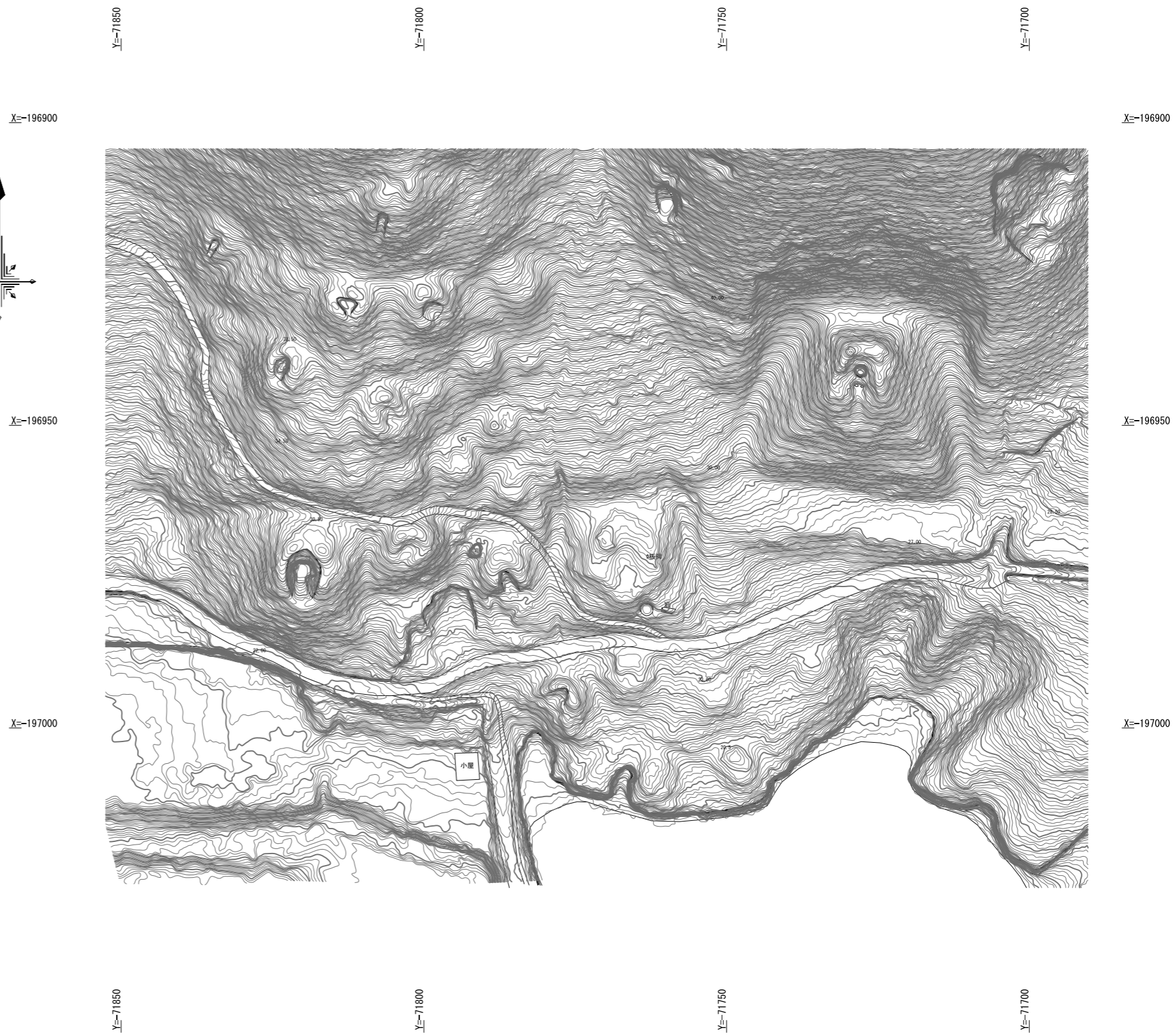


図5 井边地区詳細測量図 (S=1/800)

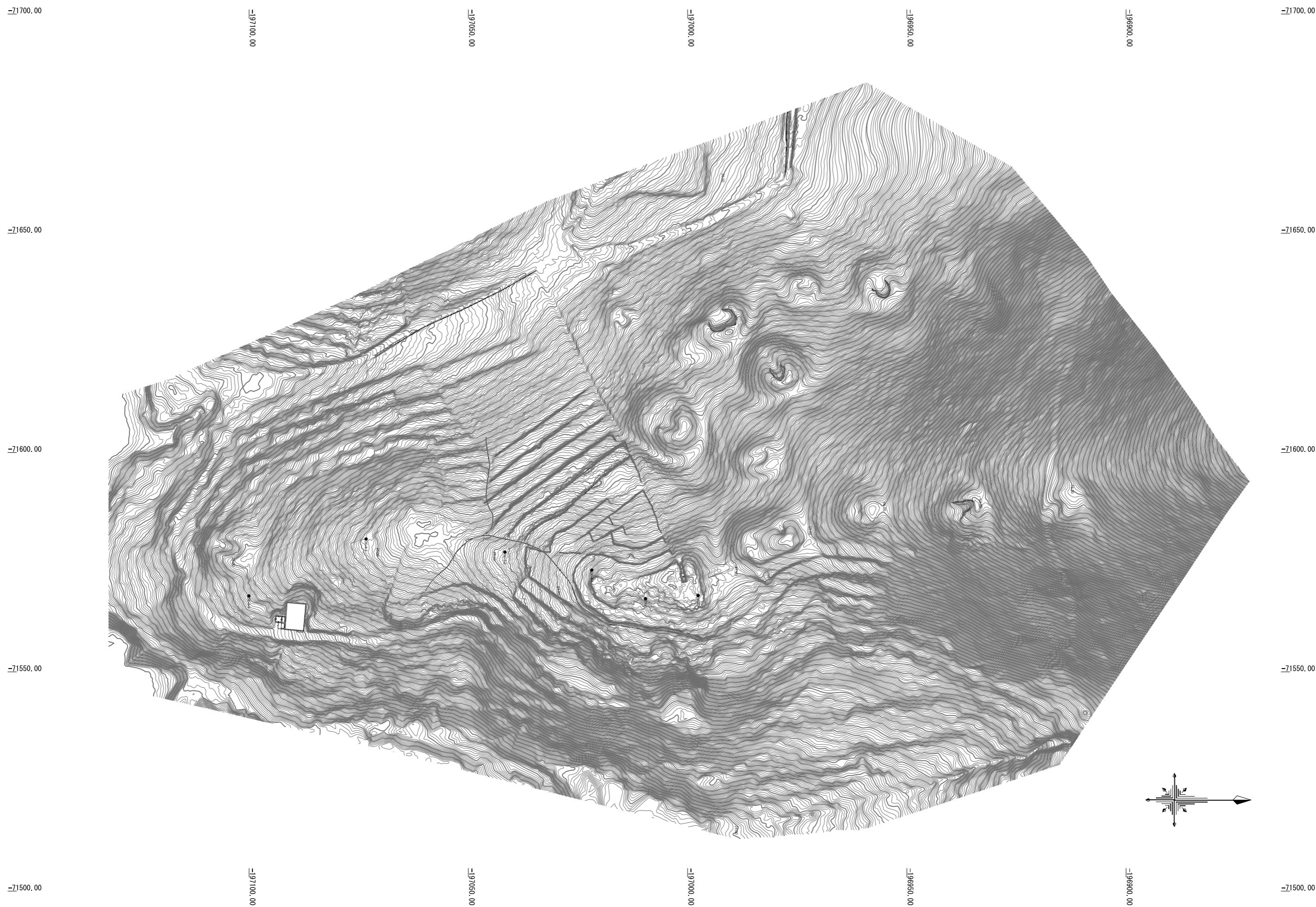


図6 寺内地区詳細測量図 (S=1/800)

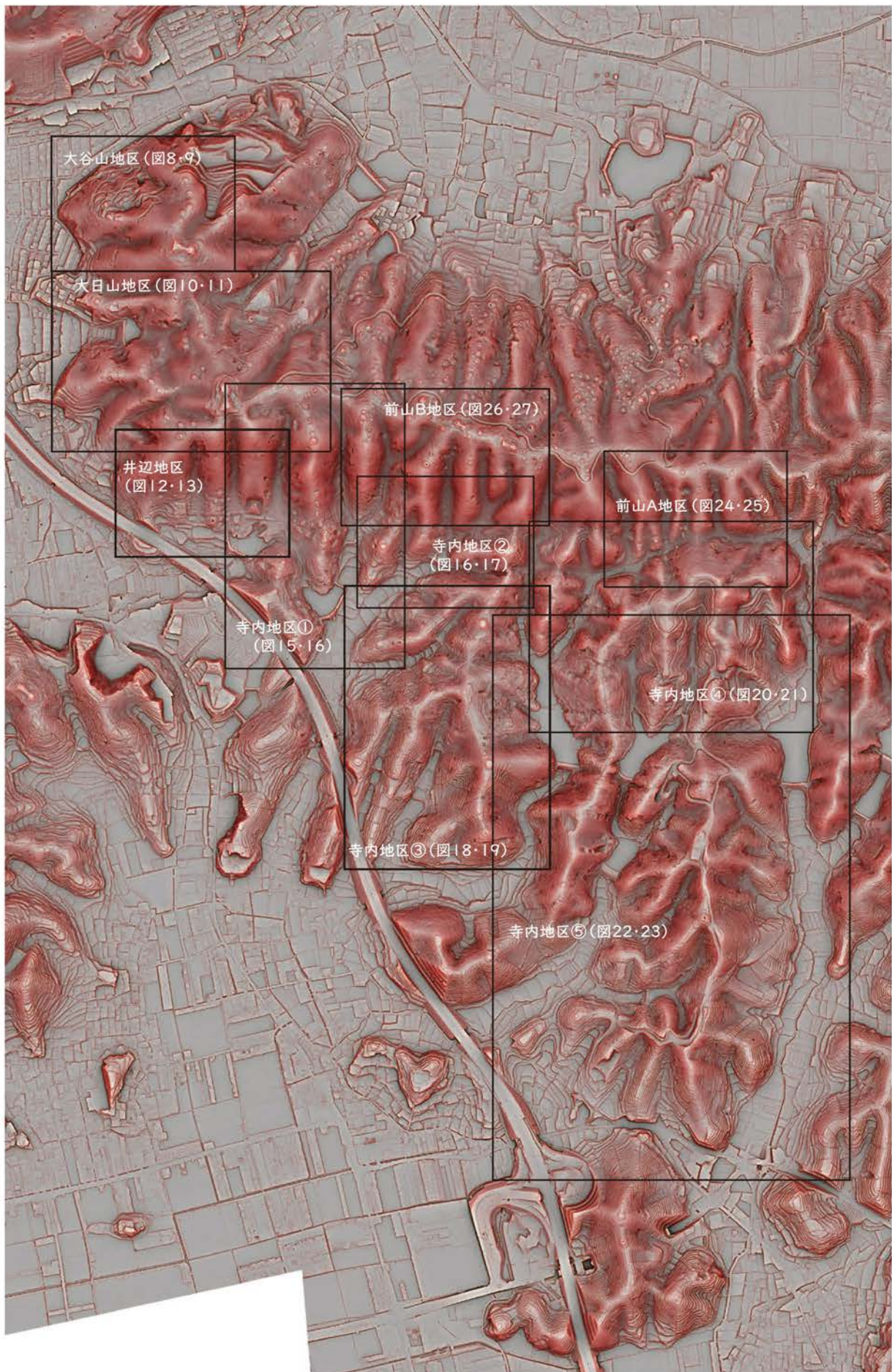


图7 踏查对象地理位置图

表2 分布調査古墳一覧 1

地区	図No.	古墳No.	墳丘		埋葬施設	古墳の概要	旧古墳番号		参考文献
			外形	墳長 径(m)			関大 報告書	H18 遺跡地図	
大谷山地区	図8・図9	大谷山35号墳	円墳	11	横穴式石室	墳丘北側1/3程度道路により削平、H31保存活用計画では消滅との認識だが踏査により墳丘の高まりを確認	大谷山35	大谷山35	①⑤⑦
		大谷山36号墳	円墳	13	-	墳丘周囲1/3程度削平、円筒埴輪列、H31保存活用計画では消滅との認識だが踏査により墳丘の高まりを確認	大谷山36	大谷山36	①⑤⑦
		大谷山37号墳	円墳	9	-	H31保存活用計画では消滅との認識だが踏査により墳丘の高まりを確認、墳丘上部削平、円形の輪郭残る	大谷山37	大谷山37	①⑤⑦
大日山地区	図10・図11	大日山20号墳	円墳	19	横穴式石室	東側に岩盤掘り込み大きな穴、造出付か?、石室両袖式か・天井石なし・石室上部崩れあり	大日山20(25?)	大日山20	①⑤
		大日山22号墳	円墳	9	-	中央に浅い盗掘坑2×3m2ヶ所(竪穴か)	大日山22	大日山22	⑤
		大日山25号墳	円墳	12	-	中央に2×4mの盗掘坑、半分は指定地内	大日山25	大日山25	①③
		大日山28号墳	円墳	5	-	低墳丘	-	大日山28	⑤
		大日山30号墳	円墳	3.5	-	低墳丘、42号墳の造出しの可能性あり	新規(欠番から補充)		
		大日山31号墳	円墳	10	-	墳丘中央の盗掘坑から横穴式石室があったか可能性	新規(欠番から補充)		
		大日山32号墳	円墳	12	-	墳丘中央の盗掘坑から横穴式石室があったか可能性	大日山32	大日山32	⑤
		大日山33号墳	円墳	15	-	消滅(現況は住宅地)	大日山33	大日山33	⑤
		大日山34号墳	-	-	-	1.6×1.3mの掘り込みあり	新規(欠番から補充)		
		大日山36号墳	円墳	12	-	盗掘坑に片岩2石、横穴式石室の可能性	新規(欠番から補充)		
		大日山37号墳	円墳	17	横穴式石室	中央に深い盗掘坑	-	大日山X4	④
		大日山38号墳	双円墳?	14	-	東側に周溝、埋葬施設が2基存在する可能性	大日山38	大日山38	①③
		大日山39号墳	円墳	14	横穴式石室?	浅い凹み3ヶ所	大日山39	大日山39	①③⑤
		大日山40号墳	円墳	14.5	-	中央わずかに凹む	大日山40	大日山40	①③
		大日山41号墳	円墳	4	-	低墳丘	新規(欠番から補充)		
		大日山42号墳	双円墳又は前方後円墳	21	横穴式石室か	中央に2×3mの盗掘坑、天井石露出(内部に空間あり)、造り出し付の可能性(排土かも)、周辺に樹密	大日山42	大日山42	①⑤
		大日山43号墳	円墳	15	横穴式石室	H8調査/採集:須恵器、中央に浅い凹み、尾根先端、右片袖傾向、仕切り石、排水溝、上部石材欠失	大日山43	大日山43	①③
		大日山44号墳	円墳	13	-	整塚排土の可能性	大日山44	大日山44	①③
		大日山45号墳	円墳	14	横穴式石室か	盗掘坑から石積み確認(羨道部か)	大日山45	大日山45	①③⑤
		大日山46号墳	円墳	3.5	-	低墳丘	新規(欠番から補充)		
		大日山47号墳	円墳	18	-	埴輪採集、中央に浅い盗掘坑、備考墳丘一部削り取られ西側に崖(石切場?)	大日山47	大日山47	①③⑤
		大日山48号墳	円墳	17	-	中央に浅い盗掘坑	大日山48	大日山48	①③⑤
		大日山49号墳	円墳	3.5	-	低墳丘	新規(欠番から補充)		
		大日山50号墳	円墳	22	横穴式石室	南側墳丘裾及び中央に盗掘坑、石室両袖式・石柵1・石梁1・羨道部あり・支室天井石欠失	大日山50	大日山50	①③⑤
		大日山51号墳	円墳	14	-	中央に浅い盗掘坑	大日山51	大日山51	⑤
		大日山52号墳	円墳	14	横穴式石室	東側に周溝、中央に整塚(石室跡か)	大日山52	大日山52	①③⑤
		大日山57号墳	円墳	8	-	59号墳とともに双円墳又は59号墳の造り出しの可能性あり、盗掘坑の規模から横穴式石室の可能性あり	新規(欠番から補充)		
		大日山58号墳	円墳	18	竪穴系横穴式石室	H8年調査/須恵器出土	大日山58	大日山58	①③⑤
		大日山59号墳	円墳	9	横穴式石室?	57号墳とともに双円墳の可能性あり、盗掘坑の規模から横穴式石室の可能性あり	大日山60か61	大日山59	①③⑤
		大日山60号墳	円墳	22	-	中央にL字状の整塚、周囲に片岩礫散乱、整塚排土の可能性もあり	大日山59か60	大日山60	①③⑤
		大日山61号墳	円墳	8	横穴式石室	南東開口の横穴式石室、天井石欠失、支室袖から羨道部埋没	大日山61か59	大日山61	①③⑤
		大日山70号墳	円墳	14	横穴式石室	H8年確認調査/鍛冶具・陶質土器・須恵器出土、埋戻し済、墳丘削平、左片袖式、排水溝、谷部に立地	-	大日山70	⑤
		大日山71号墳	円墳	14	竪穴式石室	H8年確認調査/須恵器・砥石出土、埋戻し済、低墳丘、石積みの一部露出	-	大日山71	⑤
大日山72号墳	円墳	15	横穴式石室	東側に周溝、石室はほぼ正方形・石室露出、側壁孕み、天井石欠失	大日山28?	大日山X1	⑤		
大日山73号墳	円墳	18×14	横穴式石室	東側に周溝、支室は正方形又はT字形、上半部欠失・石室露出、側壁孕み大	大日山28?	大日山X2	⑤		
大日山74号墳	円墳	5	-	低墳丘、天井石欠失、周石に天井石の可能性のある石材散乱	-	大日山X3	⑤		
大日山75号墳	円墳	11	-	墳頂に玉石・壺状の穴2カ所、土地改変の盛土の可能性、東半分指定地内	大日山20?	大日山X5	⑤		
大日山76号墳	円墳	11	-	墳丘裾東側少し削平、半分は指定地内	大日山69	大日山X6	⑤		
大日山77号墳	円墳	6	-	低墳丘	新規				
大日山35号墳南東側平坦部					多数の埴輪が散乱(円筒埴輪底部多数)、古墳ではない			新規	
井辺地区	図12・図13	井辺1号墳	方墳	北辺16m 南辺35m 側辺30m	横穴式石室	S40・R2発掘調査 石柵1・石梁1 両袖式、支室天井石欠失、現在支室天井石付近まで埋まる、支室奥に棺台あり/墳丘は四段築成で前面に基壇を有する/北・西・東に周溝	井辺1	井辺1	①
		井辺2号墳	方墳	25	-	H10平板測量、北・西・東に周溝、墳丘南東側に長さ2.1mの片岩あり	井辺2	井辺2	①③⑤
		井辺3号墳	円墳	11	-	H10平板測量、低墳丘	井辺3	井辺3	①③⑤
		井辺4号墳	円墳	11	-	H10平板測量、墳丘中央が大きく凹む	井辺4	井辺4	①③⑤
		井辺5号墳	円墳	9~13	-	H10平板測量、墳丘南東側に張り出しあり(造り出しか)	井辺5	井辺5	①③⑤
		井辺6号墳	円墳	10	-	H10平板測量、低墳丘	井辺6	井辺6	①③⑤
		井辺7号墳	円墳	12	-	H10平板測量、北側墳裾は道で削平	井辺7	井辺7	①③⑤
		井辺8号墳	円墳	8	-	H10平板測量、低墳丘	井辺8	井辺8	①③⑤
		井辺9号墳	方墳	7×7	-	H10平板測量、北側に周溝	井辺9	井辺9	①③⑤
		井辺10号墳	円墳又は方墳	12	-	H10平板測量、墳丘南東側が大きく削平	井辺10	井辺10	①③⑤
		井辺11号墳	円墳	9~12	-	H10平板測量、盗掘坑の規模から横穴式石室の可能性	井辺11	井辺11	①③⑤
		井辺12号墳	方墳	20	横穴式石室	H10平板測量、南に開口の石室、石柵あり、北~東側に周溝	井辺12	井辺12	①③⑤
		井辺13号墳	方墳	15×15	-	H10平板測量、北側に周溝	井辺13	井辺13	①③⑤
		井辺14号墳	円墳	10	-	H10平板測量、墳裾が広がることから方墳の可能性あり	井辺14	井辺14	①③⑤
		井辺15号墳	円墳	10	-	H10平板測量、墳裾が広がることから方墳の可能性あり、西・北・東に周溝	井辺15	井辺15	①③⑤
		井辺16号墳	円墳	4	-	低墳丘	新規(欠番から補充)		
		井辺17号墳	円墳	5	-	H10平板測量、低墳丘	井辺17	井辺17	①③⑤
		井辺18号墳	円墳	12	横穴式石室	H10平板測量、北~東に周溝、南開口の横穴式石室、天井石欠失、羨道埋没	井辺18	井辺18	①③⑤

表2 分布調査古墳一覧 2

地区	図 No.	古墳 No.	墳丘		埋葬施設	古墳の概要	旧古墳番号			参考文献
			外形	墳長 (m)			関大報告書	H18 遺跡地図		
井辺地区	図 12・図 13	井辺 19 号墳	円墳	4	-	H10 平板測量、低墳丘	井辺 19	井辺 19	①⑤	
		井辺 20 号墳	円墳	8	-	H10 平板測量、墳丘裾が広がることから方墳の可能性あり、西～北側に周溝	井辺 20	井辺 20	①⑤	
		井辺 21 号墳	円墳	5	-	H10 平板測量、低墳丘	井辺 21	井辺 21	①⑤	
		井辺 22 号墳	円墳	11	-	H10 平板測量、東・北・西に周溝	井辺 22	井辺 22	①⑤	
		井辺 23 号墳	円墳	12～14	-	H10 平板測量、北側に周溝、盗掘坑の規模から横穴式石室の可能性	井辺 23	井辺 23	①⑤	
		井辺 24 号墳	円墳	20	-	H10 平板測量、北側に周溝、急傾斜地に立地	井辺 24	井辺 24	①⑤	
		井辺 25 号墳	円墳	11	-	H10 平板測量、周囲より高く盛土	井辺 25	井辺 25	①⑤	
		井辺 26 号墳	円墳	12	-	H10 平板測量、北側に周溝、盗掘坑の規模から横穴式石室の可能性	井辺 26	井辺 26	①⑤	
		井辺 27 号墳	円墳	15	-	H10 平板測量、北側に周溝、盗掘坑の規模から横穴式石室の可能性	井辺 27	井辺 27	①⑤	
		井辺 28 号墳	円墳	5	-	H10 平板測量、低墳丘	井辺 28	井辺 28	①⑤	
		井辺 29 号墳	円墳	5	-	H10 平板測量、低墳丘	井辺 29	井辺 29	①⑤	
		井辺 30 号墳	方墳	9×7	-	道造成時の盛土の可能性もある			新規	
		井辺 31 号墳	方墳	8×9	-	北側に周溝			新規	
		井辺 32 号墳	円墳	5	-	小型横穴式石室又は竪穴式石室 (天井石欠失、石材一部確認)			新規	
		井辺 33 号墳	円墳	3	-	低墳丘			新規	
		井辺 34 号墳	円墳	4.5	-	低墳丘			新規	
		井辺 35 号墳	円墳	5	-	低墳丘			新規	
		井辺 36 号墳	円墳	4	-	低墳丘			新規	
		井辺 37 号墳	円墳	3	-	低墳丘			新規	
		井辺 38 号墳	円墳	4	-	24 号墳に接するが、24 号墳の墳丘より高い盛土のため別古墳とみる			新規	
		井辺 39 号墳	円墳	3	-	低墳丘			新規	
		井辺 40 号墳	円墳	4	-	低墳丘、26 号墳東側に接することから造り出しの可能性もあり			新規	
井辺 41 号墳	円墳	6	-	低墳丘			新規			
井辺 42 号墳	円墳	6	-	低墳丘			新規			
井辺 43 号墳	円墳	4	-	低墳丘			新規			
寺内地区	図 14	寺内 1 号墳	円墳	14	-	H10 平板測量、鉄塔で北半墳丘削平	寺内 1	寺内 1	⑤	
		寺内 2 号墳	円墳	7	-	H10 平板測量、墳丘西半削平	寺内 2	寺内 2	⑤	
		寺内 3 号墳	円墳	-	-	尾根頂部、現況では墳丘視認できず	寺内 3	寺内 3	⑤	
	図 16	寺内 4 号墳	円墳	6.5	-	北側に周溝、墳丘西半部は削平	寺内 4	寺内 4	①	
		寺内 6 号墳	円墳	15	横穴式石室	S43 調査 / 須恵器・土師器出土 (7 世紀前半から中頃)、支室平面羽子板状	寺内 6	寺内 6	③	
		寺内 7 号墳	円墳	12	-	墳丘中央に畑造成時の溝縦断	寺内 7	寺内 7	①	
	図 14	寺内 8 号墳	円墳	10.5	-	墳丘西側削平	寺内 8	寺内 8	①	
		寺内 13 号墳	円墳	10～12	横穴式石室か	H10 平板測量、墳頂部の盗掘坑から南開口の横穴式石室の可能性	寺内 13	寺内 13	①	
		寺内 14 号墳	円墳	13	横穴式石室か	H10 平板測量、北側に周溝、盗掘坑から南開口の横穴式石室の可能性	寺内 14	寺内 14	①	
		寺内 15 号墳	円墳	9	-	H10 平板測量、現況では古墳の所在を確認できず、開墾で消滅か	寺内 15	寺内 15	①	
		寺内 16 号墳	円墳	14	横穴式石室	H10 平板測量、墳裾南東側に高まりあり (造出しの可能性)	寺内 16	寺内 16	①	
		寺内 17 号墳	円墳	20	横穴式石室	H10 平板測量、支室完存の可能性	寺内 17	寺内 17	①	
		寺内 18 号墳	前方後円墳	31	横穴式石室 2 基 箱式石棺 1 基	S39・R3 発掘調査、後円部墳頂に方形埴輪列、基壇上に埴輪列、前方部墳裾に須恵器大甕・土器埋納遺構、後円部に T 字形横穴式石室、前方部・後円部ともに天井石欠失・西に開口、前方部東側に小型箱式石棺	寺内 18	寺内 18	①	
		寺内 22 号墳	円墳	12	竪穴式石室 箱式石棺	H10 発掘調査、周溝あり、低墳丘、須恵器出土	寺内 22	寺内 22	⑤	
		寺内 23 号墳	円墳	13	竪穴式石室	墳丘は造成時に削平、H10 発掘調査 (23 号墳) で鉄釘出土	-	寺内 23	⑤	
		寺内 24 号墳	円墳	13.5	-	番号重複のため新規番号付与、北側に周溝、盗掘坑規模から横穴式石室の可能性	寺内 23	寺内 23	①	
		寺内 25 号墳	円墳	12	-	墳丘上部は削平又は流失			新規 (欠番補充)	
		寺内 26 号墳	円墳	12	-	墳丘上部は削平又は流失			新規 (欠番補充)	
		寺内 27 号墳	円墳	12	横穴式石室又は 竪穴式石室か	墳裾北側に造出しの可能性、南側に周溝、開口方向北向き横穴式石室又は南北主軸の竪穴式石室の可能性			新規 (欠番補充)	
		図 16	寺内 28 号墳	円墳	8	横穴式石室	S43 調査 (6 世紀末～7 世紀前半)、調査後に畑造成で墳丘削平か	寺内 28	寺内 28	②
	寺内 29 号墳		円墳	9	-	墳丘西半削平			新規 (欠番補充)	
	寺内 30 号墳		円墳	6	-	低墳丘、畑造成で墳丘削平か	寺内 30	寺内 30	①	
	寺内 31 号墳		円墳	11	-	墳丘中央に盗掘坑か	寺内 31	寺内 31	①	
	寺内 32 号墳		円墳	8	横穴式石室	S43 調査 (7 世紀中頃から後半)、石室両袖式、現況で墳丘確認できず	寺内 32	寺内 32	③	
	寺内 33 号墳		円墳	17	-	H10 平板測量、墳丘の遺存状況良好	寺内 33	寺内 33	⑤	
	寺内 34 号墳		円墳	11	-	S40 調査 (7 世紀初頭)、石室両袖式、開墾により現況では墳丘確認できず	寺内 34	寺内 34	①	
	寺内 35 号墳		円墳	12	横穴式石室 箱式石棺	S41 年 10 月和歌山県文化財研究会調査、7 世紀初頭から中頃	寺内 35	寺内 35	①	
	寺内 38 号墳		円墳	-	-	S40 調査時点で墳丘削平、奈良時代の須恵器破片出土	寺内 38	寺内 38	①	
	寺内 39 号墳		円墳	10	-	40 号墳とあわせて双円墳又は前方後円墳の可能性もあり	寺内 39	寺内 39	①	
	寺内 40 号墳		円墳	20	-	墳丘の遺存状況良好、39 号墳とあわせて双円墳又は前方後円墳の可能性あり	寺内 40	寺内 40	①	
図 18	寺内 41 号墳		円墳	11	-	墳丘の遺存状況良好	寺内 41	寺内 41	①	
	寺内 42 号墳		円墳	30	-	大型円墳、墳丘の遺存状況良好	寺内 41	寺内 42	①	
	寺内 43 号墳	円墳	14	-	墳丘の遺存状況良好	寺内 43	寺内 43	①		
	寺内 44 号墳	円墳	31	-	大型円墳、墳裾北側に造り出しの可能性あり	寺内 44	寺内 44	①		
	寺内 45 号墳	円墳	15	-	盗掘坑なし	寺内 45	寺内 45	①		
図 22	寺内 46 号墳	円墳	15	-	墳丘頂部削平か	寺内 46	寺内 46	①		
	寺内 47 号墳	円墳	14	-	現況で墳丘確認できず	寺内 47	寺内 47	①		
	寺内 48 号墳	円墳	10～12	横穴式石室	H5 和歌山市調査、支室・支室前道の一部残存、墳丘上部は削平	寺内 48	寺内 48	①⑥		
	寺内 49 号墳	円墳	12	横穴式石室	H5 和歌山市調査新規発見古墳、石室プランから 6 世紀後半か、石積みの一部が残る	-	寺内 49	①⑥		

表2 分布調査古墳一覧 3

地区	図No.	古墳 No.	墳丘		埋葬施設	古墳の概要	旧古墳番号		参考文献
			外形	墳長 径 (m)			関大 報告書	H18 遺跡地図	
寺内地区	図25	寺内50号墳	円墳	18	横穴式石室	S40分布調査で報告されるが、現況で墳丘及び石室の所在を確認できず	寺内50	寺内50	①
		寺内51号墳	円墳	7	-	積石塚? 壘塚排土の可能性あり	寺内51	寺内51	①
		寺内52号墳	円墳	5	-	積石塚? 壘塚排土の可能性あり	寺内52	寺内52	①
		寺内53号墳	円墳	11	-	積石塚? 壘塚排土の可能性あり	寺内53	寺内53	①
		寺内54号墳	円墳	11	-	積石塚? 壘塚排土の可能性あり	寺内54	寺内54	①
	図20	寺内55号墳	円墳	12	-	積石塚? 壘塚排土の可能性あり	寺内55	寺内55	①
		寺内56号墳	円墳	10~11	横穴式石室	H5/25和歌山市調査、石室細長い平面プラン、須恵器出土	寺内56	寺内56	⑥
	図22	寺内57号墳	円墳	35~40	横穴式石室	H5和歌山市調査/須恵器器台出土、玄室天井石落込み、玄室前道・前室・羨道部良好に遺存	寺内57	寺内57	⑥
	図16	寺内58号墳	円墳	8	-	低墳丘	寺内58	寺内58	①
	図22	寺内59号墳	円墳	12	横穴式石室	S42調査(6世紀末から7世紀前半)、奥壁と側壁の一部以外はほぼ消滅	寺内59	寺内59	⑥
		寺内60号墳	円墳	17	横穴式石室	S42調査(6世紀末から7世紀前半)、調査後畑造成で削平か	寺内60	寺内60	⑥
	図16	寺内63号墳	円墳	21.5	粘土葺木棺直葬	S42調査(5世紀中葉)、短甲・剣・埴輪等出土、墳頂に記念碑建立	寺内63	寺内63	③
	図14	寺内64号墳	円墳	12	横穴式石室	H10発掘調査/埴輪・土師器出土、痕跡から石室は南に開口	寺内64	寺内64	⑤
		寺内65号墳	円墳	14	-	H10平板測量、墳丘上部削平	寺内65	寺内65	⑤
		寺内66号墳	円墳	12	横穴式石室か	H10平板測量、墳丘上部削平、盗掘坑内に片岩4枚確認	寺内66	寺内66	⑤
		寺内67号墳	円墳	16~19	-	H10平板測量、盗掘坑から横穴式石室であった可能性	寺内67	寺内67	⑤
		寺内68号墳	円墳	13~16	-	H10平板測量、盗掘坑規模から横穴式石室であった可能性、152号の造り出しの可能性	寺内68	寺内68	⑤
		寺内69号墳	円墳	12	-	北東に周溝、盗掘坑の規模から横穴式石室であった可能性	寺内69	寺内69	⑤
		寺内70号墳	円墳	15~19	-	H10平板測量、盗掘坑の規模から横穴式石室であった可能性	寺内70	寺内70	⑤
	図18	寺内71号墳	円墳	10	-	H10平板測量、盗掘坑の規模から横穴式石室であった可能性	寺内71	寺内71	⑤
		寺内72号墳	円墳	12	-	墳丘遺存状況良好	寺内72	寺内72	①
		寺内73号墳	円墳	13	-	H3和歌山市分布調査で須恵器を採集	寺内72	寺内73	⑥
	図20	寺内74号墳	-	-	-	現況畑、墳丘確認できず、H3和歌山市分布調査で蛇紋岩製勾玉採集	寺内74	寺内74	⑥
		寺内75号墳	円墳	8?	-	墳丘は畑造成で削平か、一部痕跡残る	寺内75	寺内75	①
		寺内76号墳	円墳	14	-	墳丘東・南側は畑で削平	寺内76	寺内76	①
		寺内77号墳	円墳	14	-	墳頂部に片岩の石積み確認	寺内77	寺内77	①
	図22	寺内78号墳	円墳	10	-	壘塚排土の可能性あり	寺内78	寺内78	①
		寺内79号墳	円墳	-	-	H3和歌山市分布調査で須恵器高杯採集	寺内79	寺内79	⑥
		寺内80号墳	円墳	13	縦穴式石室か	円墳と判断される、盗掘坑の形状から縦穴式石室の可能性あり	寺内80	寺内80	⑥
		寺内81号墳	円墳	14	縦穴式石室か	円墳と判断される、盗掘坑の形状から縦穴式石室の可能性あり	寺内81	寺内81	⑥
		寺内82号墳	円墳	10	横穴式石室	H5和歌山市調査で新規発見、両袖式、玄室のみ残存	-	寺内82	⑥
		寺内83号墳	円墳	9	横穴式石室	H5和歌山市調査、平安時代に石室を再利用か、奥壁・側壁の一部が残存	寺内83	寺内83	⑥
		寺内84号墳	円墳	9	横穴式石室	H5和歌山市調査、玄室高さ1.2m程度残存、土師器出土	寺内84	寺内84	⑥
		寺内85号墳	円墳	20	横穴式石室	H5/25和歌山市調査、両袖式、玄室のみ残存、平安時代土師器出土	寺内85	寺内85	⑥
	図20	寺内86号墳	円墳	10	横穴式石室	H5/25和歌山市調査、小型の横穴式石室、基底石を検出、石積みは2段のみ	寺内86	寺内86	⑥
		寺内87号墳	円墳	12	小型横穴式石室	H5/25和歌山市調査、石室縦長プラン、玄室・玄室前道・羨道の一部残る、平安時代の土師器皿出土	寺内87	寺内87	⑥
		寺内88号墳	円墳?	不明	-	H5和歌山市調査で周溝のみ確認	寺内88	寺内88	⑥
		寺内89号墳	-	-	-	H5和歌山市分布調査、須恵器器・版と地形より古墳が存在すると判断される	寺内89	寺内89	⑥
	図22	寺内90号墳	-	-	-	H5和歌山市調査/須恵器器4点の散布と周溝検出により、古墳が存在すると判断される	寺内90	寺内90	⑥
		寺内91号墳	円墳	12	-	H7和歌山市調査、周溝、須恵器大甕出土	寺内91	寺内91	⑥
		寺内92号墳	円墳	10	縦穴式石室か?	H7/24和歌山市調査/玉石、石材散乱、須恵器出土	寺内92	寺内92	⑥
		寺内93号墳	円墳?	6	-	H5/25和歌山市調査、石材が散乱、平安時代の溝検出	-	寺内69	⑥
		寺内94号墳	円墳?	7	-	墳丘上部は削平又は流失	新規(欠番補充)		
		寺内95号墳	円墳	15	-	番号重複の為変更・欠番補充、H5和歌山市調査、周溝検出、平安時代土師器出土	-	寺内65	⑥
		寺内96号墳	-	-	-	番号重複の為変更・欠番補充、H5和歌山市調査、造成により古墳削平か	-	寺内65	⑥
		寺内97号墳	-	-	横穴式石室	和歌山市2020報告書では市30地点と記載、横穴式石室排水溝検出	新規		
		寺内98号墳	円墳	7	-	畑造成により墳丘が大きく削平か	新規		
		寺内99号墳	円墳	9	-	番号重複の為変更・欠番補充、わずかな高まりを残すのみ	-	寺内66	
		図18	寺内100号墳	円墳	6	-	番号重複の為変更、低墳丘、和歌山市2020報告書では101号墳と記載	-	寺内71
	寺内101号墳		円墳	7	-	番号重複のため変更、低墳丘、和歌山市2020報告書では100号墳と記載	-	寺内70	⑥
	寺内102号墳		円墳	7	-	低墳丘	新規		
	寺内103号墳		円墳	10	-	低墳丘、和歌山市2020報告書では70地点と記載	新規		
	寺内103号墳		円墳	10	-	低墳丘	新規		
	寺内104号墳		円墳	7	-	低墳丘	新規		
	寺内105号墳		円墳	12	-	墳丘東側は畑により削平	新規		
	寺内106号墳		円墳	8	-	墳丘は削平	新規		
	寺内107号墳		円墳	20	-	墳丘西側は壘塚により削平	新規		
	寺内108号墳		円墳	17	-	墳丘南半は壘塚により削平	新規		
	寺内109号墳		円墳	22	-	墳丘北半で壘塚掘削	新規		
	図20	寺内110号墳	円墳	10	-	墳丘周辺で石室石材とみられる片岩集積	新規		
		寺内111号墳	円墳	12	-	墳丘周辺で石室石材とみられる片岩散乱	新規		
		寺内112号墳	円墳	8	横穴式石室	横穴式石室奥壁又は側壁の一部とみられる石積み確認	新規		
		寺内113号墳	円墳	8	-	盗掘坑から西向き開口の横穴式石室の可能性、未調査であるが市分布図に75号墳と記載	(新規) / ⑥		
	図18	寺内114号墳	円墳	14	-	盗掘坑から西向き開口の横穴式石室の可能性、未調査であるが市分布図に76号墳と記載	(新規) / ⑥		
		寺内115号墳	円墳	12	-	石室及び盗掘坑未確認	新規		
		寺内116号墳	円墳	16	-	盗掘坑の規模から横穴式石室の可能性	新規		

表2 分布調査古墳一覧 4

地区	図No.	古墳 No.	墳丘		埋葬施設	古墳の概要	旧古墳番号		参考文献
			外形	墳長径 (m)			関大報告書	H18遺跡地図	
寺内地区	図25	寺内 117 号墳	円墳	19	-	北側に周溝、盗掘坑の規模から南開口の横穴式石室の可能性	-	新規	
		寺内 118 号墳	円墳又は方墳	16	横穴式石室	北側に周溝、玄室天井石残存、場所は異なるがS40 関大調査時の寺内 50 号墳か	-	新規	
		寺内 119 号墳	円墳	12	横穴式石室	北側に周溝、南開口の横穴式石室、古代の須恵器皿を採集	-	新規	
	図20	寺内 120 号墳	円墳	15	-	墳丘上部は削平	-	新規	
		寺内 121 号墳	円墳	7	-	墳丘上部は削平	-	新規	
		寺内 122 号墳	円墳	8	横穴式石室	低墳丘、南東開口の横穴式石室奥壁及び側壁を確認	-	新規	
		寺内 123 号墳	円墳	8	-	低墳丘	-	新規	
		寺内 124 号墳	円墳	11	-	低墳丘	-	新規	
		寺内 125 号墳	円墳	9	-	低墳丘	-	新規	
		寺内 126 号墳	円墳	7	-	低墳丘	-	新規	
		寺内 127 号墳	円墳	8	-	低墳丘	-	新規	
		寺内 128 号墳	円墳	14	-	墳丘上部削平	-	新規	
		寺内 129 号墳	円墳	10	-	番号重複のため新規番号付与、墳丘上部削平	-	寺内 64 号	①
		寺内 130 号墳	円墳	14	-	墳頂に浅い盗掘坑あり	-	新規	
		寺内 131 号墳	円墳	8	-	低墳丘	-	新規	
		寺内 132 号墳	円墳	9	-	低墳丘	-	新規	
		寺内 133 号墳	円墳	7	-	低墳丘	-	新規	
	図22	寺内 134 号墳	円墳	6	-	低墳丘	-	新規	
		寺内 135 号墳	円墳	8	-	低墳丘	-	新規	
		寺内 136 号墳	円墳	12	-	低墳丘	-	新規	
		寺内 137 号墳	円墳	15	-	畑造成で墳丘はほぼ削平、痕跡あり	-	新規	
		寺内 138 号墳	円墳	14	-	墳丘上に五輪塔（火輪）	-	新規	
	図20	寺内 139 号墳	円墳	9	-	墳頂中央に盗掘坑あり	-	新規	
		寺内 140 号墳	円墳	5	-	畑造成時に周辺改変、蛇紋岩の石材散乱	-	新規	
		寺内 141 号墳	円墳	10	-	墳丘上部は削平又は流失	-	新規	
		寺内 142 号墳	円墳	15	-	墳丘上部は削平又は流失	-	新規	
		寺内 143 号墳	円墳	11	-	墳丘上部は削平又は流失	-	新規	
		寺内 144 号墳	円墳	13	-	墳丘上部は削平又は流失	-	新規	
	図16	寺内 145 号墳	円墳	5	-	H25 和歌山市調査 32 地点、周溝検出、低墳丘	-	新規	
		寺内 146 号墳	円墳	5.5	竪穴式石室か	低墳丘、墳頂中央部の凹みに石積みあり（竪穴式石室の可能性）	-	新規	
寺内 147 号墳		円墳	6	-	低墳丘、畑造成時に溝状に削平	-	新規		
寺内 148 号墳		円墳	3.5	-	低墳丘	-	新規		
図14	寺内 149 号墳	円墳	15	-	畑造成時に墳丘大半削平	-	新規		
	寺内 150 号墳	円墳	3.5	-	低墳丘	-	新規		
	寺内 151 号墳	円墳	4	-	低墳丘	-	新規		
	寺内 152 号墳	円墳	7	-	低墳丘、68 号墳の造り出しの可能性あり	-	新規		
	寺内 153 号墳	円墳	6	-	低墳丘、70 号墳の造り出しの可能性あり	-	新規		
前山A地区	図24・図25	前山 A10 号墳	円墳又は方墳	北辺 10 南辺 13 南北 13	横穴式石室	石室露出、片岩、玉石散乱、正方形、両袖式、主軸は南北方向、天井石欠失、石室袖部崩れる	前山 A10	前山 A 10	①
		前山 A14 号墳	円墳	11	-	浅い盗掘坑 2 ヶ所、周囲に錆密あり	前山 A14	前山 A 14	①
		前山 A15 号墳	円墳	7	-	盗掘坑（石材なし）	前山 A15	前山 A 15	①
前山B地区	図26・図27	前山 B192 号墳	円墳	11	横穴式石室	石室露出、天井石欠失、側壁露出、尾根上に立地	前山 B192	前山 B192	①
		前山 B193 号墳	円墳	7	竪穴式石室	石室露出、低墳丘、石室主軸：南-北、天井石欠失、石積みかなり崩れる	前山 B193	前山 B193	①
		前山 B194 号墳	円墳	17.5	横穴式石室	石室露出、両袖式、南西に開口、4 壁残存、前壁少し崩れる、天井石欠失	前山 B194	前山 B194	①
		前山 B195 号墳	円墳	13	横穴式石室	石室露出、両袖式、北西に開口、天井石欠失、奥壁と右側壁崩れる、左側壁張り出す	前山 B195	前山 B195	①
		前山 B196 号墳	円墳	10.5	横穴式石室	石室露出、北西に開口、3 壁残存、天井石欠失、義道部埋没	前山 B196	前山 B196	①
		前山 B197 号墳	円墳	9	横穴式石室	雑混じりの墳丘、積石塚？と言われていたが、石材採掘の排土の可能性もあり	前山 B197	前山 B197	①
		前山 B198 号墳	円墳？	9	-	盗掘坑から石室空間見える、低墳丘、南に開口、天井石欠失、側壁少し内側に張り出す、B199 号墳とほぼ接する	前山 B198	前山 B198	①
		前山 B259 号墳	円墳	10.5	横穴式石室	石室露出、東に開口、天井石欠失、玄門部崩れ、両側壁内側に張り出す	-	前山 BX7	④
		前山 B260 号墳	円墳	10	横穴式石室	石室露出、両袖式、南東に開口、天井石欠失両側壁内側に張り出す	-	前山 BX8	④

【参考文献】

- ① 関西大学考古学研究室 1967 『岩橋千塚』
- ② 関西大学考古学研究会 1968 『関西大学考古学研究年報』
- ③ 和歌山市教育委員会 1972 『和歌山市における古墳文化』
- ④ 和歌山県教育委員会 2019 『特別史跡 岩橋千塚古墳群保存活用計画』
- ⑤ 和歌山県教育委員会 2000 『岩橋千塚周辺古墳群 緊急確認調査報告書』
- ⑥ 和歌山市 2020 『岩橋千塚古墳群寺内地区確認調査報告書』
- ⑦ 和歌山県教育委員会 2020 『和歌山県埋蔵文化財調査年報—平成 30 年度—』



## 第2節 現地調査の成果（図7～27・表2）

### （1）大谷山地区（図8・9）

大谷山地区は岩橋山塊の北西に位置する地区で、地区の東半分は特別史跡の指定範囲となる。大谷山は、大日山から北に連なる標高132.6mの小山塊で、最高所には墳長約68mの前方後円墳である大谷山22号墳が位置するほか、大谷山の山頂と山頂から派生する尾根上に各々小支群が分布する。これまで多くの発掘調査が実施されている。尚、地区北西側の一部の古墳については過去の造成工事等により消滅している。踏査範囲は地区の西半分で、現況は雑木林で、一部は造成により削平されている。

**大谷山35号墳** 大谷山から西に派生する尾根筋上に位置する。平成7年度の県教育委員会による分布調査では、直径約11m、高さ約2mの円墳で、横穴式石室を埋蔵施設に持つとされる（和歌山県教育委員会2000）。現況は、35号墳の西側にも墳丘状の張り出しが認められるが、近接しており本来の尾根筋の一部と考えられる。遺物等の出土は認められなかった。

**大谷山36号墳** 大谷山35号墳の西へ10mにあり、同一尾根筋上の端部に位置する。古墳の周囲は開墾が進んでおり、平成8年には作業道建設に伴い墳丘の一部が削平されている。現況は、現状で直径13m、高さ2.5m以上の墳丘が確認される円墳である。墳頂部は平坦面をなし、平成30年度の県教育委員会の分布調査で7本の円筒埴輪基部が列状に樹立されていることを確認した（和歌山県教育委員会2020）。円筒埴輪の樹立間隔は、中心距離で0.7～0.9mをはかる。墳丘の周辺からも、円筒埴輪基部が採集されることから、墳丘裾部にも埴輪列が存在した可能性が考えられる。採集した円筒埴輪基部は、底径約19cmで、外面にタテハケが施される。埴輪列の位置と削平された墳丘から、本来の墳丘は直径16m以上であった可能性が高い。

**大谷山37号墳** 大谷山36号墳から北に約10mの地点に位置する。直径約9m、高さ2mの円墳とされる。平成8年に作業道建設に伴い削平され、墳丘の大部分が失われ、現況ではかろうじて円墳の墳丘裾部を確認することができる。現地では、墳丘裾付近で円筒埴輪が採集されている（和歌山県教育委員会2020）。

**その他** 大谷山22号墳の西に位置する谷に、第二次大戦時の本土決戦準備遺構である塹壕とみられる空堀及び土塁数条が認められるほか、岩盤を削り抜いた防空壕や、1人用の塹壕である蛸壺状の土坑を確認した。

### （2）大日山地区（図10・11）

大日山地区は、岩橋山塊の西に位置する地区である。全長105m（墳長86m）の前方後円墳である大日山35号墳が所在する大日山を最高峰として、主として尾根上に古墳が分布するが、一部、谷部分にも古墳が所在している。地区の東半分が昭和63年に特別史跡に追加指定された範囲に含まれている。踏査範囲は、地区の西半分で、現況は雑木林である。尚、西側丘陵裾の一部は宅地造成により削平されており、裾部に位置していた大日山33号墳はその際に消滅した。

**大日山20号墳** 大日山35号墳から北へ伸びる尾根上の緩斜面に位置する径19m、高さ4mの円墳で、南側に周溝がある。墳裾東側は園路で削平される。墳丘東側に戦時中の防空壕や1人用の塹壕の可能性のある穴が掘り込まれている（幅2.5×奥行4.0m）。埋葬施設は、開口方向が西向きの横穴式石室（玄室長2.3m以上×幅1.5m）で、玄室の天井石は取り去られ、玄室袖部から羨道部は埋没する。もう一つ北向きの盗掘坑があり、横穴式石室がもう1基あった可能性がある。

**大日山22号墳** 大日山35号墳から北へ伸びる尾根上の緩斜面に位置する径9m、高さ1.5mの円墳（低墳丘）で、墳裾東側は園路で削平される。墳頂部中央に東西主軸の浅い盗掘坑があり、その規模から竪穴式石室又は、小型横穴式石室の可能性はある。



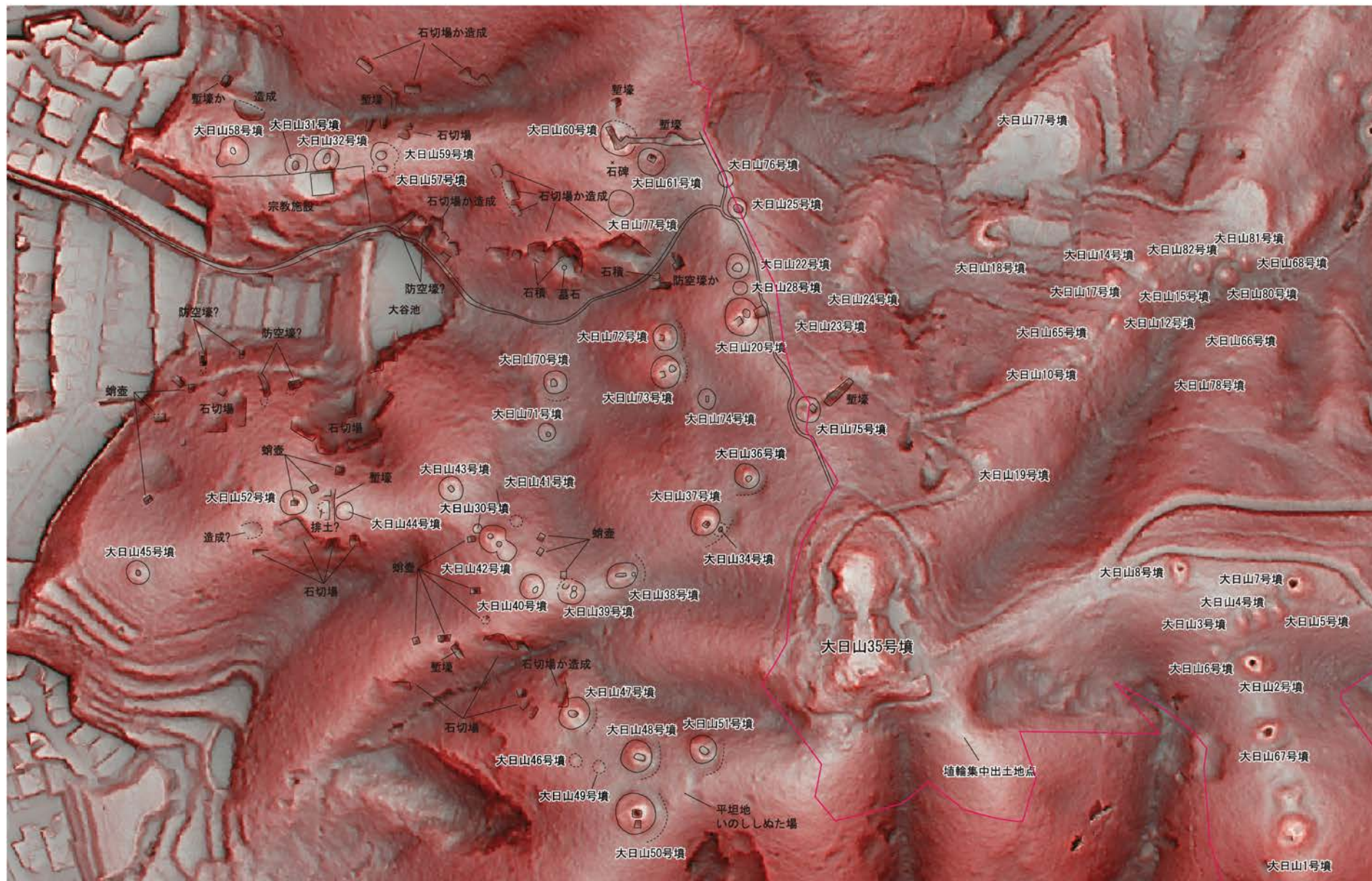


图 10 大目山地区踏查対象範囲 赤色立体地図 (S= 1/2,500)

**大日山 25 号墳** 大日山 35 号墳と大谷山 22 号墳の間の尾根鞍部に位置する径 12m、高さ 1.5m の円墳で、東半分は指定地内である。鳴神団地へ下る園路との分岐点で、墳裾西側は園路で削平されている。墳頂部中央に大きな盗掘坑があり、その規模から横穴式石室であった可能性がある。

**大日山 28 号墳** 大日山 35 号墳から北へ伸びる尾根上の緩斜面に位置する径 5m、高さ 1.2m の円墳（低墳丘）で、大日山 20 号墳と 22 号墳の間に位置する。石室や盗掘坑は確認できない。

**大日山 30 号墳** 新規確認古墳である。大日山 35 号墳から西へ伸びる尾根中腹に位置する径 3.5m、高さ 1m の円墳で、大日山 42 号墳に近接する。低墳丘で石室や盗掘坑は確認できない。42 号墳の造出の可能性もあるが、南側に戦時中の掘削と考えられる 1 人用の塹壕があり、塹壕掘削時の排土の可能性もある。

**大日山 31 号墳** 新規確認古墳である。大日山 60 号墳から西へ伸びる尾根上の平坦面に位置する径 10m、高さ 0.7m の円墳で、墳丘上部は削平されている。墳裾南側は施設の敷地内にあたる。墳頂部中央に浅く大きな盗掘坑があり、その規模から横穴式石室であった可能性がある。

**大日山 32 号墳** 大日山 60 号墳から西へ伸びる尾根上の平坦面に位置する径 12m、高さ 1m の円墳である。墳丘上部は削平される。墳頂部中央に浅く大きな盗掘坑があり、その規模から横穴式石室であった可能性がある。

**大日山 34 号墳** 新規確認古墳である。大日山 35 号墳から北西へ伸びる幅広い尾根中腹の斜面地に位置し、大日山 37 号墳の東側に接する。墳丘は確認できず、長 1.6 × 幅 1.3 × 深 0.6m の掘り込みがあるのみである。37 号墳の周溝部分にあたり、37 号墳に伴う埋葬施設の盗掘坑あるいは戦時中の 1 人用の塹壕の可能性もある。

**大日山 36 号墳** 新規確認古墳である。大日山 35 号墳から北西へ伸びる幅広い尾根中腹の斜面地に位置する径 12m、高さ 3m の円墳で、東側に周溝がある。墳頂部中央に大きく深い盗掘坑があり、北東側壁面には石室の石積みの可能性がある片岩が 2 石確認できる。盗掘坑の形状から南西向きに開口する横穴式石室であった可能性がある。

**大日山 37 号墳** 大日山 35 号墳から北西へ伸びる幅広い尾根中腹の斜面地に位置する径 17m、高さ 3m の円墳で、東側に周溝がある。墳頂部中央に大きく深い盗掘坑があり、北西側壁面に長さ 1m、高さ 0.55m 分の石積みが確認できる。横穴式石室の右側壁と推定される。盗掘坑の形状から、玄室長約 2.0m × 幅約 1.6m の南西向きに開口する横穴式石室であった可能性がある。

**大日山 38 号墳** 大日山 35 号墳から西へ伸びる尾根中腹の平坦地に位置する長径 14m・短径 10m、高さ 1.5m の楕円形を呈する古墳である。東側に周溝がある。墳頂部中央やや西寄りに長方形の盗掘坑、墳頂部東側に浅い盗掘坑があり、埋葬施設が 2 基あった可能性がある。墳丘の形状や盗掘坑などから双円墳であった可能性もある。

**大日山 39 号墳** 大日山 35 号墳から西へ伸びる尾根中腹の平坦地に位置する径 14m、高さ 1m の円墳で、墳丘上部は削平される。盗掘坑が 3 箇所あるが、いずれも石積みは確認できない。

**大日山 40 号墳** 大日山 35 号墳から西へ伸びる尾根中腹の平坦地に位置する径 14.5m、高さ 1.5m の円墳である。墳頂部中央に浅く大きな盗掘坑があるが、石積みは確認できない。

**大日山 41 号墳** 新規確認古墳である。大日山 35 号墳から西へ伸びる尾根中腹の北側斜面地に位置する径 4m、高さ 0.8m の高まりがあり、小型円墳（低墳丘）の可能性もある。石室や盗掘坑は確認できない。

**大日山 42 号墳** 大日山 35 号墳から西へ伸びる尾根中腹の緩斜面に位置する古墳で、双円墳又は前方後円墳の可能性もある。西側の墳丘は径 17.5m、高さ 2.0m、東側は径 9.0m、高さ 1.0m を測る。盗掘坑は、東側墳丘にはないが、西側には中央に 1 基と中央西寄りに 1 基確認できる。西寄りの盗掘坑壁面には天井石と推測される長さ 1m の片岩 1 石が確認でき、盗掘坑の形状から開口方向が北西向きの横穴式石室であった可能性がある。

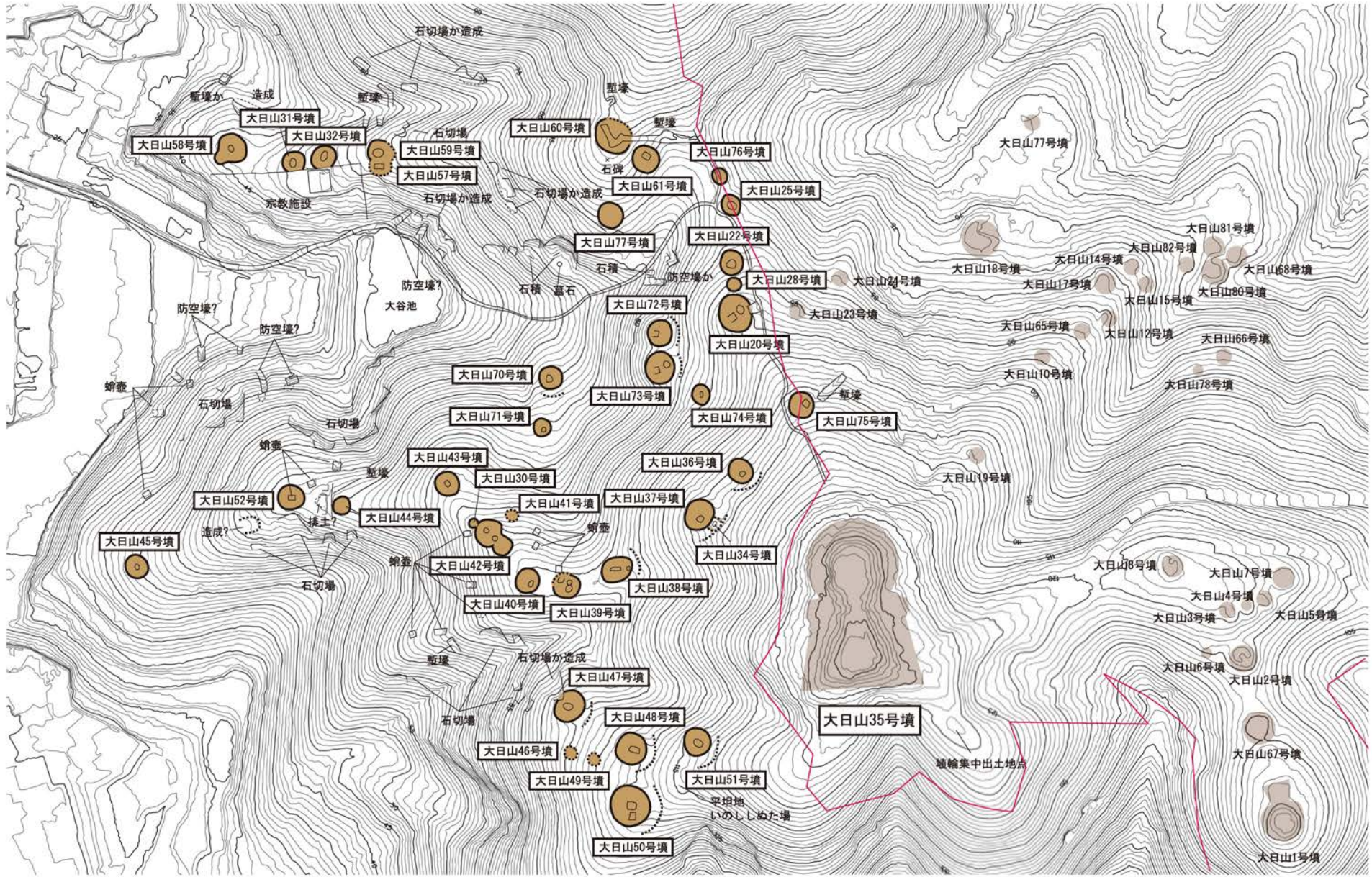


図 11 大日山地区踏査対象範囲 地形測量図 (S= 1 /2,500)

**大日山 43 号墳** 大日山 35 号墳から西へ伸びる尾根中腹の緩斜面に位置する径 15m、高さ 3m の円墳である。南側に周溝がある。平成 8 年度の県教育委員会の発掘調査において、横穴式石室（玄室長 2.2 × 幅 1.8m）が確認されたほか、石室から須恵器、鉄製品（鉄刀・鉞・馬具・U 字形鋤先）、墳丘から円筒埴輪・形象埴輪が出土している（和歌山県教育委員会 2000）。

**大日山 44 号墳** 大日山 35 号墳から西へ伸びる尾根中腹の平坦地に位置する径 13m、高さ 1.5m の円墳である。墳頂部中央がわずかに凹むが、石積みなどは確認できない。墳裾西側は戦時中の塹壕により削平され、塹壕の排土は塹壕西側に積まれている。

**大日山 45 号墳** 大日山 35 号墳から西へ伸びる尾根裾部付近の平坦地に位置する径 14m、高さ 2m の円墳である。墳頂部中央に浅く大きな盗掘坑があり、長さ 0.75m（高さ 0.15m）の石積み確認できる。盗掘坑の形状から石積みは羨道部側壁と推測され、開口方向が西向きの横穴式石室の可能性はある。

**大日山 46 号墳** 新規確認古墳である。大日山 35 号墳から南西へ伸びる尾根中腹の緩斜面に位置する径 3.5m、高さ 0.5m の高まりがあり、小型の円墳（低墳丘）の可能性はある。石室や盗掘坑は確認できない。

**大日山 47 号墳** 大日山 35 号墳から南西へ伸びる尾根中腹の緩斜面に位置する径 18m、高さ 3m の円墳で、東～南側に周溝がある。墳頂部中央に深く大きな盗掘坑があり、片岩が 2 石確認できるが、積まれた状況ではない。墳裾北西側は石切場又は造成により削平される。

**大日山 48 号墳** 大日山 35 号墳から南西へ伸びる尾根中腹の緩斜面に位置する径 17m、高さ 3m の円墳である。東～南側に周溝がある。墳頂部中央に浅く大きな盗掘坑があるが、石積みは確認できない。

**大日山 49 号墳** 新規確認古墳である。大日山 35 号墳から南西へ伸びる尾根中腹の緩斜面に位置する径 3.5m、高さ 0.5m の高まりがあり、小型の円墳（低墳丘）の可能性はある。石室や盗掘坑は確認できない。

**大日山 50 号墳** 大日山 35 号墳から南西へ伸びる尾根中腹の平坦面に位置する径 22m、高さ 4m の円墳で、東側に周溝がある。埋葬施設は、開口方向が西向きの横穴式石室（玄室長 2.2 × 幅 1.5m）で、羨道部は埋没している。玄室の天井石は取り去られているが、玄室前道の天井石は残存している。奥壁側に石棚が確認できる。墳頂部南側にも盗掘坑がある。

**大日山 51 号墳** 大日山 35 号墳から南西へ伸びる尾根中腹の緩斜面に位置する径 14m、高さ 2m の円墳である。東～南側に周溝がある。墳頂部中央に浅く大きな盗掘坑があるが、石積みは確認できない。

**大日山 52 号墳** 大日山 35 号墳から西へ伸びる尾根中腹の平坦面に位置する径 14m、高さ 3m の円墳で、東側に周溝がある。墳頂部中央に深く大きな盗掘坑があるが、石積みは確認できない。周辺に戦時中に掘削された同規模の 1 人用の塹壕があり、石室や盗掘坑を利用した可能性がある。

**大日山 57 号墳** 新規確認古墳である。大日山 60 号墳から西へ伸びる尾根上の緩斜面に位置する径 8m、高さ 1m の円墳である。大日山 59 号墳と接することから、59 号墳とともに双円墳をなす、あるいは 59 号墳の造り出しの可能性もある。墳丘上部は大きく削平されている。墳頂部中央に大きな盗掘坑があるが、石積みは確認できない。盗掘坑の規模から横穴式石室であった可能性がある。

**大日山 58 号墳** 大日山 60 号墳から西へ伸びる尾根裾部の平坦面に位置する径 18m、高さ 2m の円墳である。平成 8 年度の県教育委員会の発掘調査において、竪穴系横穴式石室（玄室長 1.9m × 幅 0.8m）が確認され、石室から須恵器が出土した。調査後に石室は埋め戻されている。

**大日山 59 号墳** 大日山 60 号墳から西へ伸びる尾根上の緩斜面に位置する径 9m、高さ 0.5m の円墳で、墳丘上部は大きく削平されている。大日山 57 号墳が南側に接しており、双円墳または

造り出し付円墳の可能性もある。墳頂部中央に大きな盗掘坑があるが、石積みは確認できない。盗掘坑の規模から横穴式石室であった可能性がある。

**大日山 60 号墳** 大谷山南側から西へ伸びる尾根上の緩斜面に位置する長径 22m・短径 12m、高さ 3.5m の楕円形を呈する古墳である。墳丘中央に戦時中の L 字状の塹壕が掘削され、墳丘の改変が大きい。塹壕内には石積みなどは確認できないが、塹壕の墳丘西寄り部分が少し広がっており、周囲に片岩礫が散乱していることから、もとは石室があった可能性がある。墳形は楕円形となっており、双円墳の可能性もあるが、東半部は塹壕の排土により盛られた可能性がある。

**大日山 61 号墳** 大谷山南側から西へ伸びる尾根の南斜面に位置する径 8m、高さ 2m の円墳である。埋葬施設は、開口方向が南東向きの横穴式石室（玄室長 2.15 以上×幅 1.8m）で、玄室の天井石は取り去られ、玄室袖部から羨道部にかけて埋没している。

**大日山 70 号墳** 大日山 35 号墳から北西及び西へ伸びる尾根間の谷部の緩斜面に位置する径 14m、高さ 3.5m の円墳で、大日山 71 号墳北側にあたる。平成 8 年度の県教育委員会の発掘調査で、左片袖式の横穴式石室（玄室長 1.9 × 幅 1.3m）が確認されている。石室から須恵器、陶質土器、鍛冶工具等の鉄製品が出土した。調査後に石室は埋め戻され、現状は墳頂部が少し凹む。

**大日山 71 号墳** 大日山 35 号墳から北西及び西へ伸びる尾根間の谷部の緩斜面に位置する径 14m、高さ 2.5m の円墳で、大日山 70 号墳南側にあたる。平成 8 年度の県教育委員会の発掘調査から埋葬施設は南北主軸の竪穴式石室（長 2.2 × 幅 0.85m）とされる。石室内埋土から砥石、石室外攪乱土から須恵器が出土した。調査後に埋め戻されたが、現状は石室の一部が露出している。

**大日山 72 号墳** 大日山 35 号墳から北西へ伸びる尾根の西斜面に位置する径 15m、高さ 2.5m の円墳で、東側に周溝がある。開口方向が西向きの横穴式石室（玄室長 1.65 × 幅 1.8m）で、玄室は正方形、又は T 字形の平面形である。玄室の天井石は取り去られ、羨道部は埋没している。

**大日山 73 号墳** 大日山 35 号墳から北西へ伸びる尾根の西斜面に位置する長径 18m・短径 14m、高さ 3m の円墳で、東側に周溝がある。墳頂部西寄りに開口方向が西向きの横穴式石室（玄室長 1.78m 以上×幅 1.74m）があり、玄室袖部から羨道部は埋没している。玄室の天井石は取り去られている。墳頂部東寄りにも大きな盗掘坑があり、石積みは確認できないが、石室がもう 1 基あった可能性がある。

**大日山 74 号墳** 大日山 35 号墳から北西へ伸びる尾根の西斜面に位置する長径 6m・短径 5m、高さ 0.8m の円墳である。墳頂部中央に小さな盗掘坑があり、その規模から竪穴式石室の可能性もある。天井石はないが、周囲に天井石の可能性のある片岩が散乱している。

**大日山 75 号墳** 大日山 35 号墳から北西へ伸びる尾根上の斜面地に位置する径 11m、高さ 2m の円墳（低墳丘）で、裾部西側は園路で削平される。裾部南側も戦時中の塹壕で削平される。墳頂部中央に深く大きな盗掘坑があるが、1 人用の塹壕の可能性もある。墳丘東半は指定地内である。

**大日山 76 号墳** 大日山 35 号墳から北西へ伸びる尾根と大谷山 22 号墳から南へ伸びる尾根の鞍部に位置する径 11m、高さ 1.5m の円墳で、低墳丘もしくは墳丘上部が削平されている。大谷山 22 号墳へ続く園路が墳頂部を通っている。墳裾東側は畑造成により削平されている。墳丘の東半分は指定地内である。石室及び盗掘坑は確認できず、墳丘上に小さい片岩が散乱している。

**大日山 77 号墳** 新規確認古墳である。大谷山南側から西へ伸びる尾根の南斜面に位置する径 6m、高さ 0.5m の円墳（低墳丘）で、墳頂部中央に小さな凹みがあり、盗掘坑の可能性もある。

**大日山 35 号墳南東側平坦部埴輪集中部** 大日山 35 号墳前方部から南東側へ伸びる尾根の平坦部は墳丘状の盛り上がり確認されないことから古墳とは認識されていないものの、埴輪が集中して散布する。踏査時には 8m 四方で 60 点余りの埴輪片を採集し、このうち 17 点を図化した（図 28）。採集した埴輪片は、普通円筒埴輪、朝顔形埴輪のほか家形埴輪の可能性のある破片があった。普通円筒埴輪では、胎土が明赤褐色を呈し、外面二次調整にヨコハケを施す IV 群系（紀伊型 / 大

和南部型)と、胎土がにぶい黄橙色を呈し外面の二次調整を省略するV群系(畿内型)の2種類が確認された。また、採集した破片は、底部片とみられる破片を多数確認することができることから、古墳以外の場所に埴輪が置かれていた可能性も考えられる。

**その他** 大日山35号墳西側谷には、石切場の可能性がある痕跡が複数認められた。また、地区の北西の丘陵斜面及び裾付近には、岩盤を削り抜いた防空壕や1人用の塹壕である蛸壺状の土坑を複数確認した。

### (3) 井辺地区 (図12・13)

井辺地区は、岩橋山塊の南西に位置する地区である。大日山から南側は急傾斜地となることから、古墳の分布は緩斜面となる丘陵南側裾付近に集中している。7世紀初頭前後に築造された県内最大規模の方墳である井辺1号墳をはじめとして、大型・小型の方墳と小型円墳が密集して分布するが、井辺1号墳を除いて発掘調査履歴がないため、その詳細については不明な点が多い。踏査範囲は井辺地区全域で、現況は雑木林及び竹林である。南側丘陵裾は造成のため削平され、現在、一部は畑として利用されている。

**井辺2号墳** 井辺1号墳がある尾根裾部の緩斜面に位置する一辺25m、高さ4mの方墳である。北・西・東側に明瞭な周溝がある。墳裾南側は道に面している。墳頂部には浅い凹みがあるが、石材の露出はない。墳丘南側にも凹みがあり、羨道部分にあたる可能性がある。墳丘南東側に長さ2.1mの片岩があり、天井石や扉石の可能性もある。

**井辺3号墳** 井辺1号墳がある尾根裾部の平坦面に位置する径11m、高さ1.5mの円墳(低墳丘)で、墳丘南側は池に面している。石室や盗掘坑は確認できない。

**井辺4号墳** 井辺2号墳南側の尾根裾部の平坦面に位置する径11m、高さ1.5mの円墳で、墳丘南側は池に面している。墳頂部中央及び墳丘南側が大きく削平される。中央の掘削坑が盗掘坑であればやや大型の円墳となるが、掘削坑東側の高まりのみが墳丘である小型円墳の可能性もある。

**井辺5号墳** 井辺2号墳南側の尾根裾部の平坦面に位置する径13m、高さ1mの円墳で、墳裾西側は大きく削平される。墳丘南側は池に面している。墳頂部中央に浅く大きな盗掘坑があるが、石積みは確認できない。墳裾南東側が張り出すので造り出しの可能性もある。

**井辺6号墳** 井辺2号墳南側の尾根裾部の平坦面に位置する径10m、高さ1mの円墳である。低墳丘もしくは墳丘上部が削平されて墳丘が低い。石室や盗掘坑は確認できない。

**井辺7号墳** 井辺2号墳南側の尾根裾部の平坦面に位置する径12m、高さ2mの円墳で、墳裾北側は道で削平される。墳頂部中央に凹みがあり盗掘坑の可能性もある。石積みは確認できない。

**井辺8号墳** 井辺1号墳がある尾根裾部の平坦面に位置する径8m、高さ1mの円墳(低墳丘)である。墳丘南東側は池に面している。石室や盗掘坑は確認できない。

**井辺9号墳** 井辺2号墳の位置する尾根の西側にある別尾根の中腹の斜面地に位置する一辺7m、高さ1.5mの方墳で、井辺31号墳の東側にあたる。この古墳より南側下方は畑造成地となっている。北側には周溝がある。墳頂部は平坦で、石室や盗掘坑は確認できない。

**井辺10号墳** 井辺12号墳がある尾根裾部の平坦面に位置する径12m、高さ2mの円墳、又は、方墳で、墳丘南東側は大きく削平される。墳頂部中央が凹んでおり、盗掘坑の可能性もある。

**井辺11号墳** 井辺12号墳がある尾根裾部の緩斜面に位置する径9~12m、高さ2.5mの円墳である。墳頂部中央に盗掘坑があり、石積みは確認できないが、その規模から横穴式石室であった可能性がある。

**井辺12号墳** 尾根裾部の斜面地に位置する一辺20m、高さ6.5mの方墳で、北~東側に周溝がある。墳裾南側は道に接する。埋葬施設は、開口方向が南向きの横穴式石室(玄室長2.9m以上



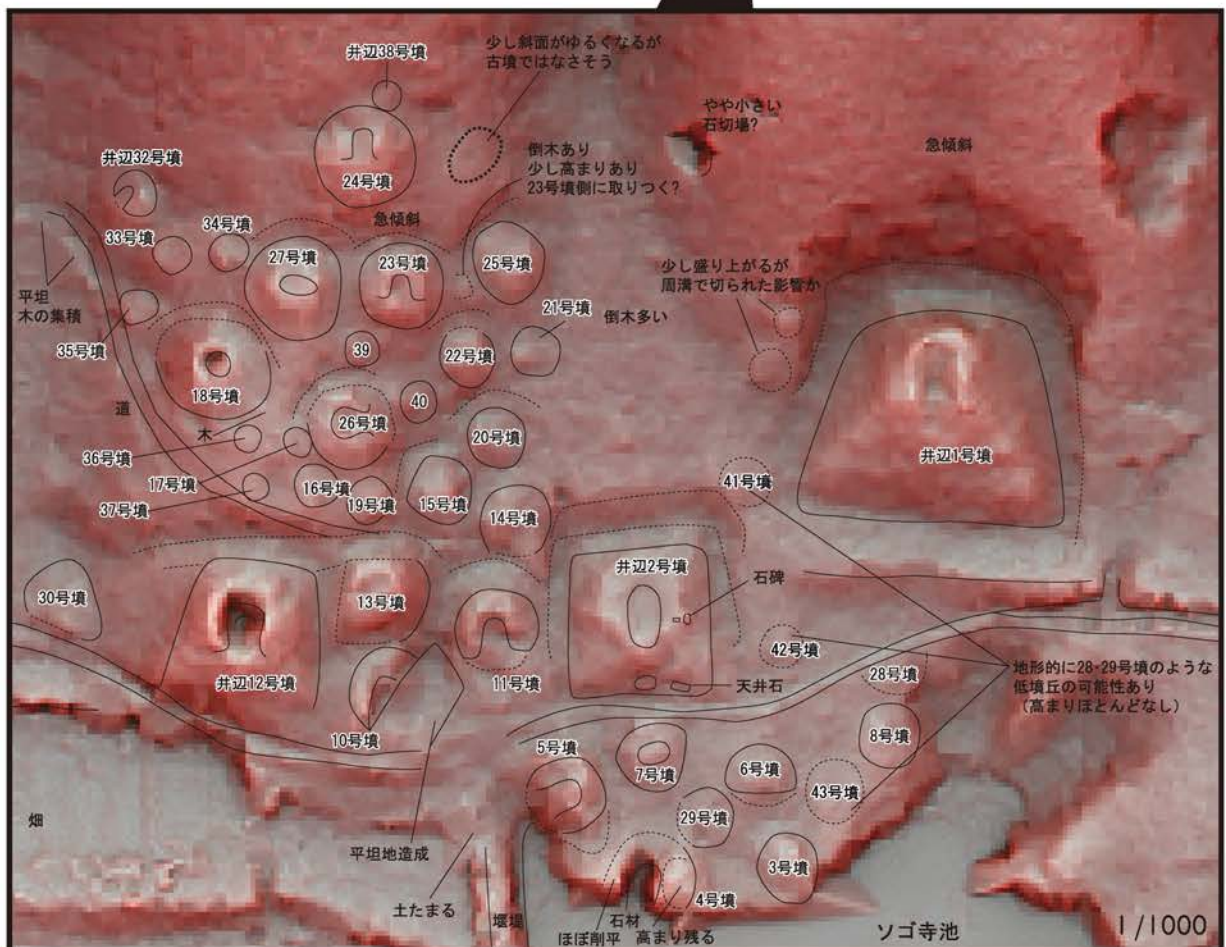
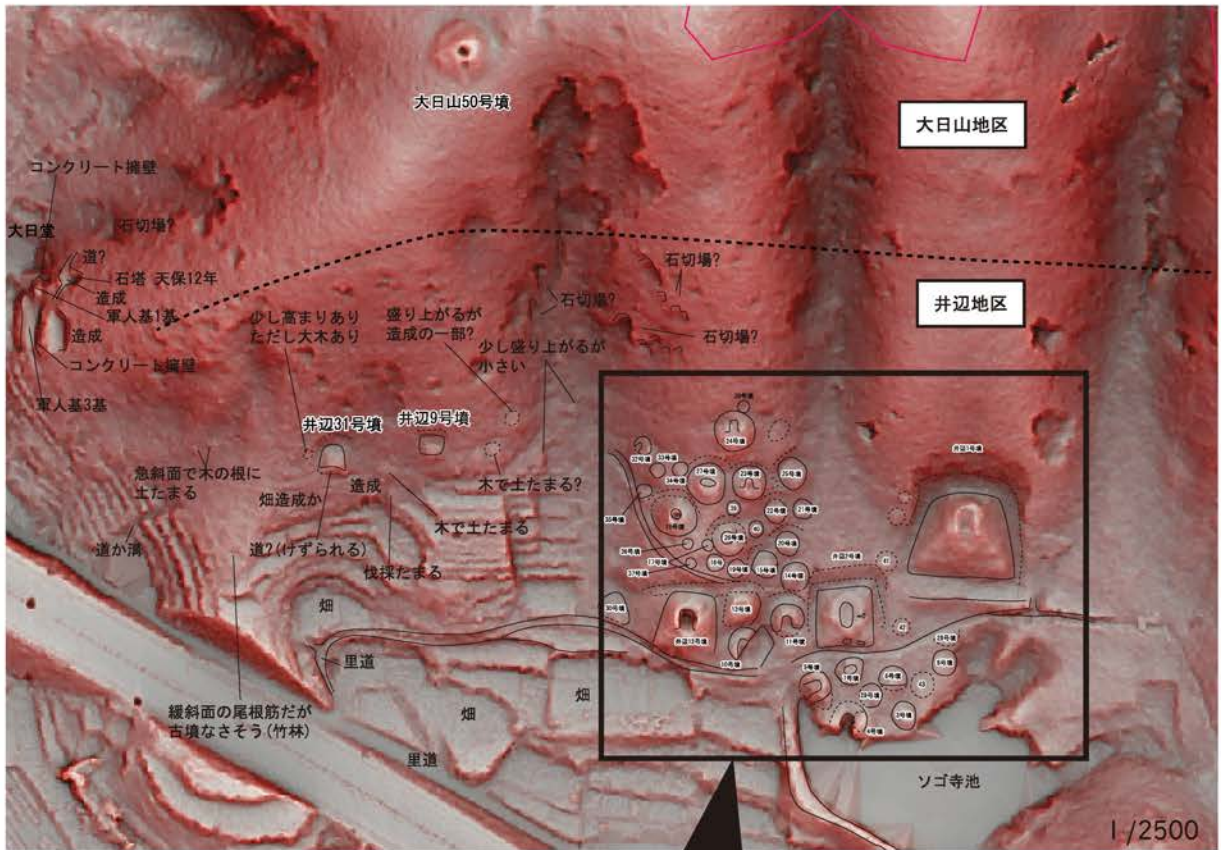


図 12 井辺地区踏査対象範囲 赤色立体地図 (上段 S=1/2,500、下段 S=1/1,000)

×幅 1.8m) で、玄室袖部から羨道部は埋没する。奥壁部分に石棚があり、天井石は確認できない。

**井辺 13 号墳** 井辺 12 号墳がある尾根裾部の斜面地に位置する一辺 15m、高さ 4m の方墳で、北側には周溝がある。墳頂部中央には浅く大きな盗掘坑があるが、石材は確認できない。

**井辺 14 号墳** 井辺 12 号墳がある尾根裾部の南東斜面側の緩斜面に位置する径 10m、高さ 2m の円墳で、南側裾部が若干広がるため方墳の可能性もある。石室や盗掘坑は確認できない。

**井辺 15 号墳** 井辺 12 号墳がある尾根裾部の南東斜面側の緩斜面に位置する径 10m、高さ 2.5m の円墳である。南側裾部が若干広がるため方墳の可能性もある。西・北・東側に周溝がある。墳頂部中央が若干凹むので、盗掘坑の可能性はある。井辺 15 号墳の墳丘西では、須恵器の甕体部片を採集した。

**井辺 16 号墳** 新規確認古墳である。井辺 12 号墳がある尾根裾部の緩斜面に位置する長径 4m・短径 3m、高さ 0.5m の円墳（低墳丘）である。周辺の井辺 19 号墳や 37 号墳と同規模で、石室や盗掘坑は確認できない。

**井辺 17 号墳** 井辺 12 号墳がある尾根裾部の緩斜面に位置する径 5m、高さ 1m の円墳（低墳丘）で、26 号墳の周溝の西側にあたる。西側の井辺 36 号墳と同規模で、石室や盗掘坑は確認できない。

**井辺 18 号墳** 井辺 12 号墳がある尾根裾部中央西寄りの緩斜面に位置する径 12m、高さ 3m の円墳で、井辺 27 号墳の南西側にあたる。北～東側に周溝がある。埋葬施設は、開口方向が南向きの横穴式石室（玄室長 2.0 × 幅 1.55m）で、羨道部は埋没している。玄室の天井石は取り去られている。石室の石材は比較的薄く小さな片岩が使用されている。玄室内に竹が密生している。

**井辺 19 号墳** 井辺 12 号墳の尾根裾部の緩斜面に位置する径 4m、高さ 1m の円墳（低墳丘）で、26 号墳の墳裾南東側にあたる。西側の井辺 16・37 号墳と同規模で、石室や盗掘坑は確認できない。

**井辺 20 号墳** 井辺 12 号墳がある尾根裾部の南東斜面側の緩斜面に位置する径 8m、高さ 2m の円墳である。南側裾部が若干広がるため方墳の可能性もある。西～北側に周溝がある。墳頂部東半は盗掘などにより削平されているが、石室は確認できない。

**井辺 21 号墳** 井辺 12 号墳がある尾根裾部の南東斜面側の谷部付近に位置する径 5m、高さ 1m の円墳（低墳丘）である。墳頂部中央が若干凹み、盗掘坑の可能性はある。石室は確認できない。

**井辺 22 号墳** 井辺 12 号墳がある尾根裾部の南東斜面側の斜面地に位置する径 11m、高さ 3m の円墳である。東・北・西側に周溝がある。墳頂部中央が若干凹み、盗掘坑の可能性はある。石室は確認できない。

**井辺 23 号墳** 井辺 12 号墳がある尾根中央の斜面地に位置する径 12～14m、高さ 3.5m の円墳で、井辺 25 号墳と 27 号墳の間に所在する。北側に周溝がある。墳頂部中央に浅く大きな盗掘坑があり、石積みは確認できないが、その規模から横穴式石室であった可能性がある。

**井辺 24 号墳** 井辺 12 号墳がある尾根中央の急斜面地に位置する径 20m、高さ 7.5m の円墳で、井辺地区の古墳の分布範囲の北端にあたる。この古墳より北側は急斜面で古墳は存在しない。北側に周溝がある。墳頂部中央南寄りに盗掘坑があるが、石室は確認できない。

**井辺 25 号墳** 井辺 12 号墳がある尾根の東斜面側の谷部付近に位置する径 11m、高さ 3m の円墳である。周囲より明らかに高く盛土されているが、石室や盗掘坑は確認できない。

**井辺 26 号墳** 井辺 12 号墳がある尾根中央の緩斜面に位置する径 12m、高さ 3m の円墳である。北側に周溝がある。墳頂部中央に浅く大きな盗掘坑があり、石積みは確認できないが、その規模から横穴式石室であった可能性がある。

**井辺 27 号墳** 井辺 12 号墳がある尾根中央の緩斜面に位置する径 15m、高さ 4m の円墳である。北側に周溝がある。墳頂部中央に浅く大きな盗掘坑があり、石積みは確認できないが、その規模から横穴式石室であった可能性がある。

**井辺 28 号墳** 井辺 1 号墳がある尾根裾部の平坦面に位置する径 5m、高さ 0.5m の円墳（低墳丘）

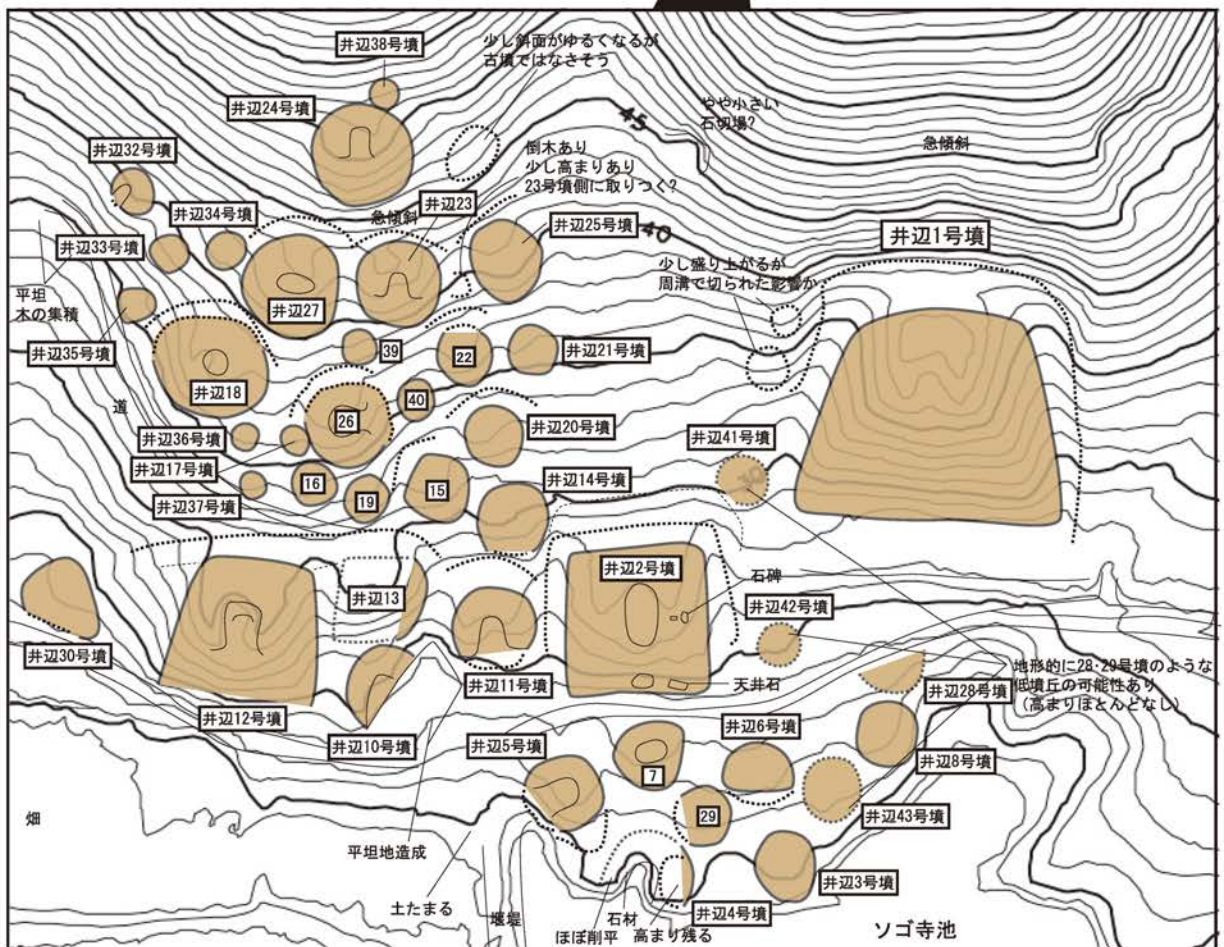
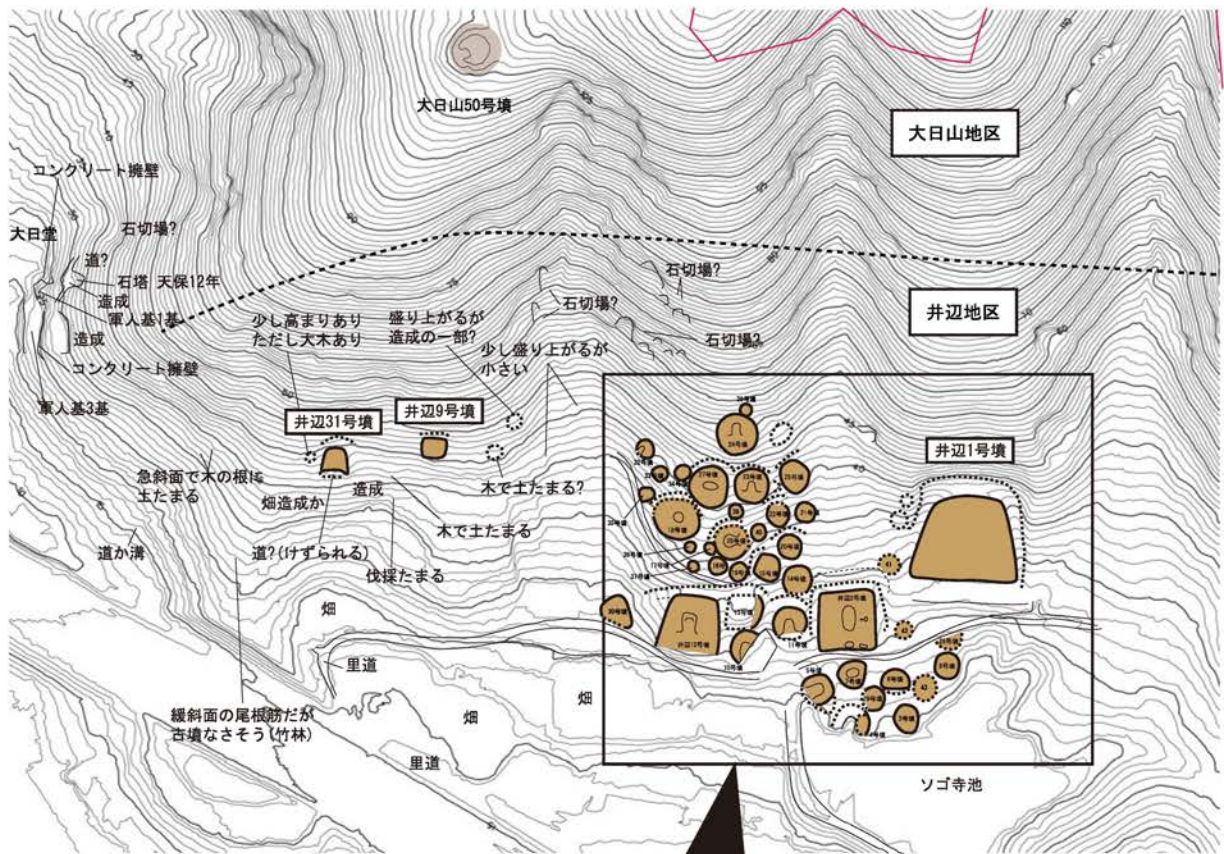


図 13 井辺地区踏査対象範囲 地形測量図 (上段 S=1/2,500、下段 S=1/1,000)

である。踏査時は伐採木が集積していたため墳丘は確認できなかった。

**井辺 29 号墳** 井辺 2 号墳南側の尾根裾部の平坦面に位置する径 5m、高さ 0.5m の円墳（低墳丘）である。石室や盗掘坑は確認できない。

**井辺 30 号墳** 新規確認古墳である。井辺 12 号墳がある尾根の南西側斜面から谷部付近の平坦面に位置する東西長 9m・南北長 7m、高さ 1m の方墳である。墳裾南側は道に接しているため、道造成時の盛土の可能性もある。石室や盗掘坑は確認できない。

**井辺 31 号墳** 新規確認古墳である。井辺 2 号墳の位置する尾根の西側にある別尾根の中腹の斜面地に位置する東西長 8m・南北長 9m、高さ 2m の方墳で、井辺 9 号墳の西側にあたる。墳裾南側は畑造成により削平されている。北側には周溝がある。墳頂部はわずかに凹むが、石室や盗掘坑は確認できない。

**井辺 32 号墳** 新規確認古墳である。井辺 12 号墳がある尾根の南西斜面側の斜面地に位置する長径 5m・短径 4m、高さ 1m の円墳である。墳頂部中央にやや深い盗掘坑があり、一部石材が確認できる。天井石は取り去られている。盗掘坑の形状から開口方向が南向きの小型横穴式石室か竪穴式石室の可能性はある。

**井辺 33 号墳** 新規確認古墳である。井辺 12 号墳がある尾根の南西斜面側の斜面地に位置する径 3m、高さ 0.5m の円墳（低墳丘）である。石室や盗掘坑は確認できない。

**井辺 34 号墳** 新規確認古墳である。井辺 12 号墳がある尾根の南西側斜面地に位置する径 4.5m、高さ 0.5m の円墳（低墳丘）である。井辺 27 号墳西側に接していることから、27 号墳の造り出しの可能性もある。石室や盗掘坑は確認できない。

**井辺 35 号墳** 新規確認古墳である。井辺 12 号墳がある尾根の南西斜面側裾部の緩斜面に位置する径 5m、高さ 1m の円墳（低墳丘）である。裾部西側は道によって削平されている。石室や盗掘坑は確認できない。

**井辺 36 号墳** 新規確認古墳である。井辺 12 号墳がある尾根裾部中央の緩斜面に位置する長径 4m・短径 3m、高さ 0.5m の円墳（低墳丘）である。東側の井辺 17 号墳と同規模で、石室や盗掘坑は確認できない。

**井辺 37 号墳** 新規確認古墳である。井辺 12 号墳がある尾根裾部の緩斜面に位置する長径 3m・短径 2.5m、高さ 0.5m の円墳（低墳丘）である。東側の井辺 16・19 号墳と同規模で、石室や盗掘坑は確認できない。

**井辺 38 号墳** 新規確認古墳である。井辺 12 号墳がある尾根中央の急斜面地に位置する長径 4m・短径 3.5m、高さ 0.6m の円墳で、井辺 24 号墳に接する。24 号墳の墳丘の一部とも考えられるが、24 号墳の墳丘より高い盛土が斜面上方にあることから別古墳である可能性がある。盗掘坑や石室は確認できない。

**井辺 39 号墳** 新規確認古墳である。井辺 12 号墳がある尾根裾部中央の緩斜面に位置する径 3m、高さ 0.5m の円墳（低墳丘）で、井辺 23 号墳と 26 号墳の間に所在する。石室や盗掘坑は確認できない。

**井辺 40 号墳** 新規確認古墳である。井辺 12 号墳がある尾根裾部の緩斜面に位置する径 4m、高さ 1m の円墳（低墳丘）である。井辺 26 号墳の東側に接することから、26 号墳の造り出しの可能性もある。石室や盗掘坑は確認できない。

**井辺 41 号墳** 新規確認古墳である。井辺 1 号墳がある尾根裾部の緩斜面に位置する径 6m、高さ 0.8m の円墳（低墳丘）で、井辺 1 号墳と 2 号墳の間に所在する。石室や盗掘坑は確認できない。

**井辺 42 号墳** 新規確認古墳である。井辺 1 号墳がある尾根裾部の緩斜面に位置する径 6m、高さ 0.8m の円墳（低墳丘）で、井辺 2 号墳の東側にあたる。石室や盗掘坑は確認できない。

**井辺 43 号墳** 新規確認古墳である。井辺 1 号墳がある尾根裾部の緩斜面に位置する径 4m、高

さ 0.5m の円墳（低墳丘）で、井辺 6 号墳の東側にあたる。石室や盗掘坑は確認できない。

**その他** 急傾斜となっている井辺地区北側では、古墳の分布は認められなかった。地区の中央谷部では、石切場の可能性がある痕跡が複数確認された。

#### （4）寺内地区（図 14 ～ 23）

寺内地区は岩橋山塊の南斜面に位置する地区である。古墳は、大日山地区、前山 A 地区、前山 B 地区の丘陵主稜線上から南に延びる複数の尾根上に分布する。踏査範囲は寺内地区全域で、現況は雑木林で、一部はかつて蜜柑畑として利用された際の段や石垣が残る。

**寺内 1 号墳** 寺内 18 号墳がある尾根の南西側の独立した尾根頂部に位置する径 14m、高さ 2m の円墳で、北半は鉄塔造成で削平される。踏査時には笹が密生し、墳丘を確認できなかった。

**寺内 2 号墳** 寺内 18 号墳がある尾根の南西側にある独立した尾根頂部に位置する円墳で、現状で長径 7m・短径 3m、高さ 0.8m の高まりが残されており、2 号墳であると推定される。墳丘西半は竹林造成時に削平されている。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 3 号墳** 寺内 18 号墳がある尾根の南西側の独立した尾根頂部に位置する円墳で、現状でわずかな高まりが残っているが墳丘は特定できなかった。蜜柑畑造成時に削平された可能性がある。

**寺内 4 号墳** 寺内 63 号墳がある尾根の中腹斜面地に位置する径 6.5m、高さ 1.5m の円墳で、北側に周溝がある。墳丘中央に溝状の盗掘坑があり、石積みは残されていない。墳裾南東部や西半部も畑造成時に削平される。

**寺内 6 号墳** 寺内 63 号墳がある尾根上の平坦面に位置する長径 15m・短径 13m、高さ 1.5m の円墳で、南北に長い楕円形の形状である。墳丘中央に畑造成時の溝が縦断し、墳裾西側は蜜柑畑造成時に石垣が造られている。昭和 43 年度に関西大学により発掘調査され、開口方向が南南西向きの横穴式石室（玄室長 2.42 × 幅 1.85m）が確認されている。天井石は取り去られていた。玄室や墓道から須恵器や土師器が出土している。調査後に埋め戻され、現状で石室は確認できない。

**寺内 7 号墳** 寺内 63 号墳がある尾根上の平坦面に位置する径 12m、高さ 1m の円墳で、やや南北に長い形状をしている。墳丘中央に畑造成時の溝状の掘り込みが縦断しており、墳裾西側は蜜柑畑造成時に石垣が造られている。現状では石室は確認できない。

**寺内 8 号墳** 寺内 63 号墳がある尾根上の平坦面から緩斜面に位置する径 10.5m、高さ 2m の円墳である。墳丘中央に畑造成時の溝状の掘り込みが縦断しており、墳丘西側は蜜柑畑造成時に削平されている。現状では石室は確認できない。

**寺内 13 号墳** 寺内 18 号墳がある尾根中腹の斜面地に位置する径 10 ～ 12m、高さ 4m の円墳である。北側に周溝がある。墳頂部中央に大きな盗掘坑があり、石材は確認できないが、その規模から開口方向が南向きの横穴式石室であった可能性がある。

**寺内 14 号墳** 寺内 18 号墳がある尾根中腹の斜面地に位置する径 13m、高さ 4m の円墳で、北側に周溝がある。墳頂部中央に大きな盗掘坑があり、石材は確認できないが、その規模から開口方向が南向きの横穴式石室であった可能性がある。墳裾南側に高まりがあり、造り出しの可能性がある。

**寺内 15 号墳** 寺内 18 号墳がある尾根中腹の寺内 14 号墳東側に位置するとされているが、現状で古墳を確認できない。蜜柑畑造成時に墳丘が削平された可能性がある。

**寺内 16 号墳** 寺内 18 号墳がある尾根中腹の斜面地に位置する径 14m、高さ 6.5m の円墳で、北側に周溝がある。墳頂部中央の凹みには石材が 2 石露出し、これが石室であれば開口方向が南向きの横穴式石室の可能性がある。墳裾南東側に小さい高まりがあり、造り出しの可能性がある。

**寺内 17 号墳** 寺内 18 号墳がある尾根中腹の緩斜面に位置する長径 20m・短径 10m、高さ 5m の楕円形状の円墳で、双円墳又は前方後円墳の可能性もある。北側に周溝がある。墳裾西側は蜜

柑畑造成で削平される。盗掘坑は2箇所、南側には石材は確認できないが、北側には径0.2mの穴があり、覗くと開口方向が西向きの横穴式石室の玄室前道から羨門部が確認できた。玄室には空間があることから、完存していると推測できる。

**寺内 22 号墳** 寺内 18 号墳がある尾根上の緩斜面に位置する円墳で、蜜柑畑造成地のため盛土は確認できない。平成 10 年度の県教育委員会による発掘調査で、周溝をもつ径 12m、高さ 0.4m の円墳（低墳丘）で、小型竪穴式石室（長 1.0 × 幅 0.48m）と小型箱式石棺（長 1.2 × 幅 0.6m）をもつことが確認された。竪穴式石室から須恵器高杯、周溝から須恵器、形象埴輪、円筒埴輪が出土しているが、埴輪は上方に位置する寺内 18 号墳からの流入と考えられている。

**寺内 23 号墳** 寺内 18 号墳がある尾根裾部の緩斜面に位置する円墳（低墳丘）で、畑の造成又は流出のため現状では盛土は確認できない。平成 10 年度の県教育委員会の発掘調査において、竪穴式石室（長 2.0m 残存 × 幅 0.5m 残存）が確認され、石室埋土から鉄釘が 1 点出土した。

**寺内 24 号墳** 寺内 18 号墳がある尾根裾部付近の緩斜面に位置する径 13.5m、高さ 3m の円墳で、墳裾南側は造成で削平される。北側に周溝がある。墳頂部中央に大きな盗掘坑があり、石材は確認できないが、その規模から横穴式石室であった可能性がある。

**寺内 25 号墳** 新規確認古墳である。寺内 1 号墳がある尾根の北側斜面地に位置する径 12m、高さ 1.5m の円墳で、同規模の寺内 26 号墳と並ぶ。墳丘上部は削平もしくは流失している。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 26 号墳** 新規確認古墳である。寺内 1 号墳がある尾根の北側斜面地に位置する径 12m、高さ 1.5m の円墳で、同規模の寺内 25 号墳と並ぶ。墳丘上部は削平もしくは流失している。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 27 号墳** 新規確認古墳である。寺内 1 号墳がある尾根頂部から北側斜面の変換点に位置する径 12m、高さ 2m の円墳で、同規模の寺内 25・26 号墳の南側にあたる。墳丘上部は削平されている。墳裾北側に高まりがあり、造り出しの可能性がある。南側に周溝がある。墳頂部中央に浅い盗掘坑があり、開口方向が北向きの横穴式石室か南北主軸の竪穴式石室の可能性がある。

**寺内 28 号墳** 寺内 63 号墳がある尾根の東側斜面に位置する径 8m、高さ 4m の円墳で、現状で墳丘を確認できなかった。昭和 43 年度に関西大学により発掘調査が行われ、開口方向が南東向きの横穴式石室の奥壁と側壁の一部（玄室幅 2.0m）が確認されたが、天井石は欠失する。墳裾や周溝から須恵器や土師器が出土している。発掘調査後、蜜柑畑造成で削平されたと推測される。

**寺内 29 号墳** 新規確認古墳である。寺内 63 号墳がある尾根の東隣にある尾根の東側斜面側裾部から谷部付近に位置する径 9m、高さ 2m の円墳である。墳丘中央～西半は蜜柑畑造成時の石垣や通路により削平され、墳丘東半は残存している。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 30 号墳** 寺内 63 号墳がある尾根の東隣にある尾根上の緩斜面に位置する径 6m、高さ 1.5m の円墳（低墳丘）で、墳裾東側は蜜柑畑造成で削平されている。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 31 号墳** 寺内 63 号墳がある尾根の東隣にある尾根上の緩斜面に位置する径 11m、高さ 2m の円墳である。墳頂部中央が若干凹み、盗掘坑の可能性があるが、石材は確認できない。

**寺内 32 号墳** 寺内 63 号墳がある尾根の東側斜面に位置する径 8m、高さ 1m の円墳で、現状で墳丘を確認できなかった。昭和 43 年度に関西大学により発掘調査され、開口方向が南西向きの横穴式石室が確認された（玄室長 2.1 × 幅推定 1.7m）。天井石は取り去られていた。玄室から羨道部から須恵器や土師器が出土している。発掘調査後、蜜柑畑造成で削平されたと推測される。

**寺内 33 号墳** 寺内 63 号墳がある尾根の東側斜面地に位置する径 17m、高さ 3m の円墳で、寺内 28 号墳や 32 号墳の北側に所在する。墳丘は良好に残るが、石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 34 号墳** 寺内 63 号墳がある尾根の東隣にある尾根の東側斜面地に位置する径 11m、高さ 3m の円墳である。周辺は蜜柑畑造成で大きく改変され、現状では墳丘は確認できない。昭和 40

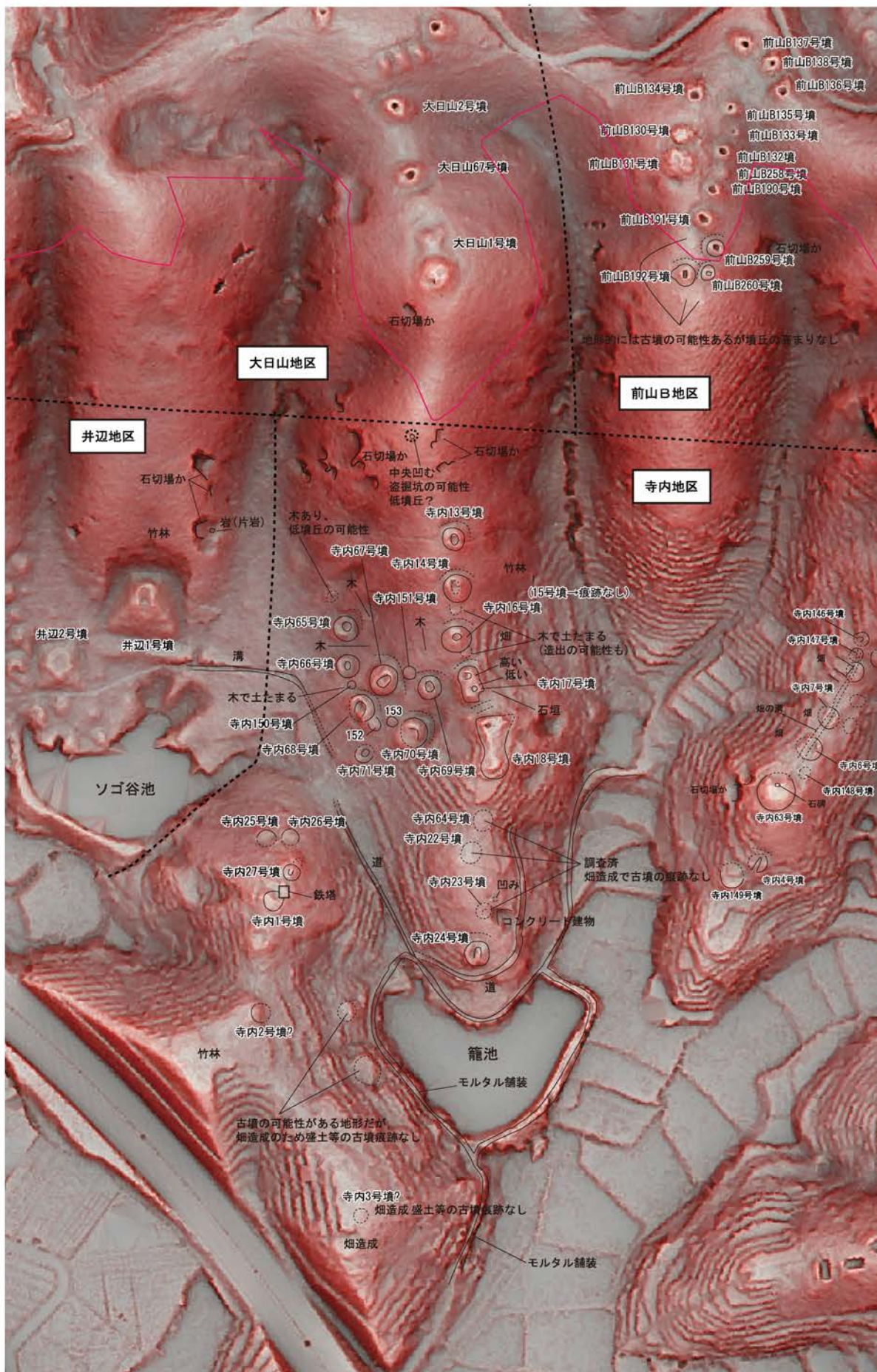


図 14 寺内地区踏査範囲① 赤色立体地図 (S= 1/2,500)

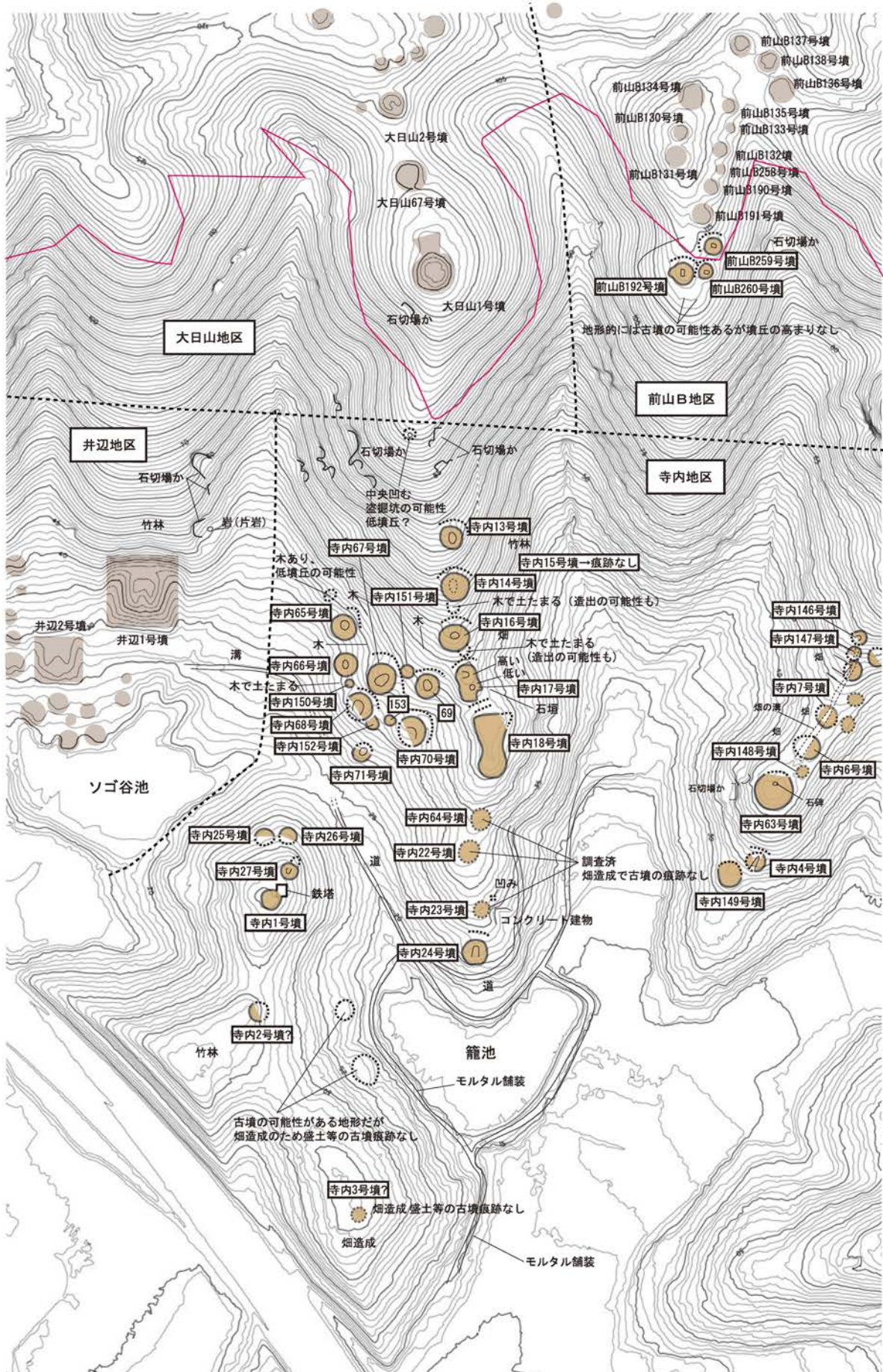


図 15 寺内地区踏査対象範囲① 地形測量図 (S= 1/2,500)



年度に関西大学により開墾で削平される玄室前道・羨道部の発掘調査が行われた。玄室は未調査であるが、開口方向が南東向きの横穴式石室が確認され、墳丘や墳裾から須恵器が出土している。畑造成により羨道部は削平されたが、玄室は畑造成地内に残存する可能性もある。

**寺内 35 号墳** 寺内 63 号墳がある尾根の東隣にある尾根東側斜面に位置する長径 12m・短径 10m、高さ 3.7m の円墳である。周辺は蜜柑畑造成による改変が大きく、現状で墳丘を確認できない。昭和 41 年度に県文化財研究会により発掘調査が行われ、開口方向が南東向きの横穴式石室（玄室長 2.6 × 幅 2.0m）と小型箱式石棺（内法 0.78 × 0.34m）が確認された。横穴式石室から須恵器や土師器、箱式石棺から鉄製刀子が出土している。畑造成で墳丘は削平されたが、石室は畑造成地内に埋没している可能性もある。

**寺内 36 号墳** 寺内 43 号墳から南西へ伸びる尾根上の先端部に位置する径 13m の円墳であるが、現状では古墳は確認できない。昭和 43 年度に県教育委員会・県文化財研究会により教明寺 I 号墳として発掘調査され、T 字形の横穴式石室（玄室長 1.2 × 幅 1.9m）が確認された。盗掘坑から須恵器高杯が出土している。発掘調査後、高速道路建設により削平されたと推測される。

**寺内 37 号墳** 寺内 43 号墳から南西へ伸びる尾根上の先端部に位置する円墳で、寺内 36 号墳の南側約 30m の地点にあたる。現在、教明寺の墓地となっており、現状では古墳は確認できない。36 号墳（教明寺 I 号墳）の発掘調査概要報告（和歌山県 1970）では西方に開口する横穴式石室を持ち、石柵を有するとある。墓地造成により墳丘は削平されたと推測される。

**寺内 38 号墳** 将軍塚から南へ伸びる尾根中腹の独立した尾根頂部に位置する円墳で、現状は蜜柑畑造成地で墳丘は確認できない。昭和 40 年度の関西大学による分布調査時にはすでに造成で墳丘は削平されていたとされる。開墾時に周辺から奈良時代の須恵器蔵骨器が出土している。

**寺内 39 号墳** 寺内 43 号墳から北東へ伸びる尾根上の平坦面に位置する径 10m、高さ 1.5m の円墳である。寺内 40 号墳とほぼ接するため、両者あわせて双円墳もしくは前方後円墳であった可能性もある。40 号墳との間の墳裾南東側は戦時中の塹壕により削平されている。墳頂部中央西寄りに凹みがあり盗掘坑であった可能性があるが、石材は確認できない。

**寺内 40 号墳** 寺内 43 号墳から北東へ伸びる尾根上の平坦面に位置する径 20m、高さ 2m の円墳である。寺内 39 号墳とほぼ接するため、両者あわせて双円墳もしくは前方後円墳であった可能性もある。39 号墳との間の墳裾北東側は戦時中の塹壕により削平されている。墳丘は良好に残存しており、墳頂部に石室や盗掘坑が確認できないため未盗掘の石室が残されている可能性がある。

**寺内 41 号墳** 寺内 43 号墳から北東へ伸びる尾根上の平坦面に位置する径 11m、高さ 1.5m の円墳である。墳丘は良好に残存しており、石室や盗掘坑が確認できないが未盗掘の石室が残存する可能性がある。

**寺内 42 号墳** 寺内 43 号墳から北東へ伸びる尾根上の平坦面に位置する径 30m、高さ 4m のやや大型の円墳である。墳丘は良好に残存しており、周囲の地形から尾根頂部の平坦部に盛土で墳丘を築造したと推測される。墳頂部には盗掘坑はなく、未盗掘の石室が残されている可能性がある。墳丘南側にはわずかな凹みがあり、羨道部の痕跡である可能性がある。

**寺内 43 号墳** 寺内 42 号墳・44 号墳・73 号墳のあるそれぞれの尾根の合流点に位置する径 14m、高さ 2m の円墳である。墳丘は良好に残存しているが、墳裾東側は蜜柑畑造成により一部削平されている。墳頂部に盗掘坑は確認できないため、未盗掘の石室が残されている可能性がある。

**寺内 44 号墳** 寺内 43 号墳から南へ伸びる尾根頂部に位置する径 31m、高さ 4m のやや大型の円墳である。墳丘は良好に残存しているが、墳裾東側は蜜柑畑造成で一部削平されている。墳頂部中央に浅い盗掘坑がある。墳裾北側に高まりがあり造り出しの可能性もある。

**寺内 45 号墳** 寺内 43 号墳がある尾根の東隣の尾根頂部に位置する径 15m、高さ 1.5m の円墳で

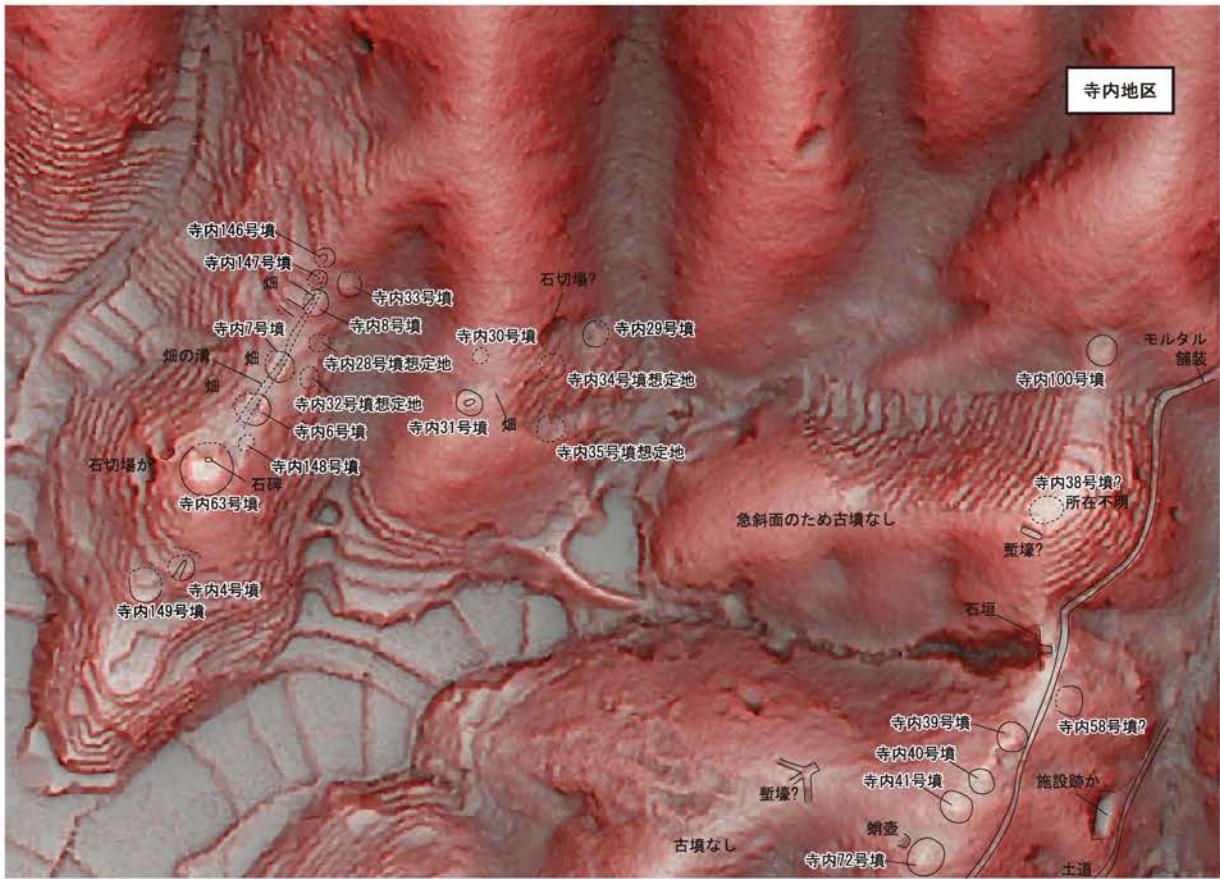


図 16 寺内地区踏査対象範囲② 赤色立体地図 (S= 1/2,500)

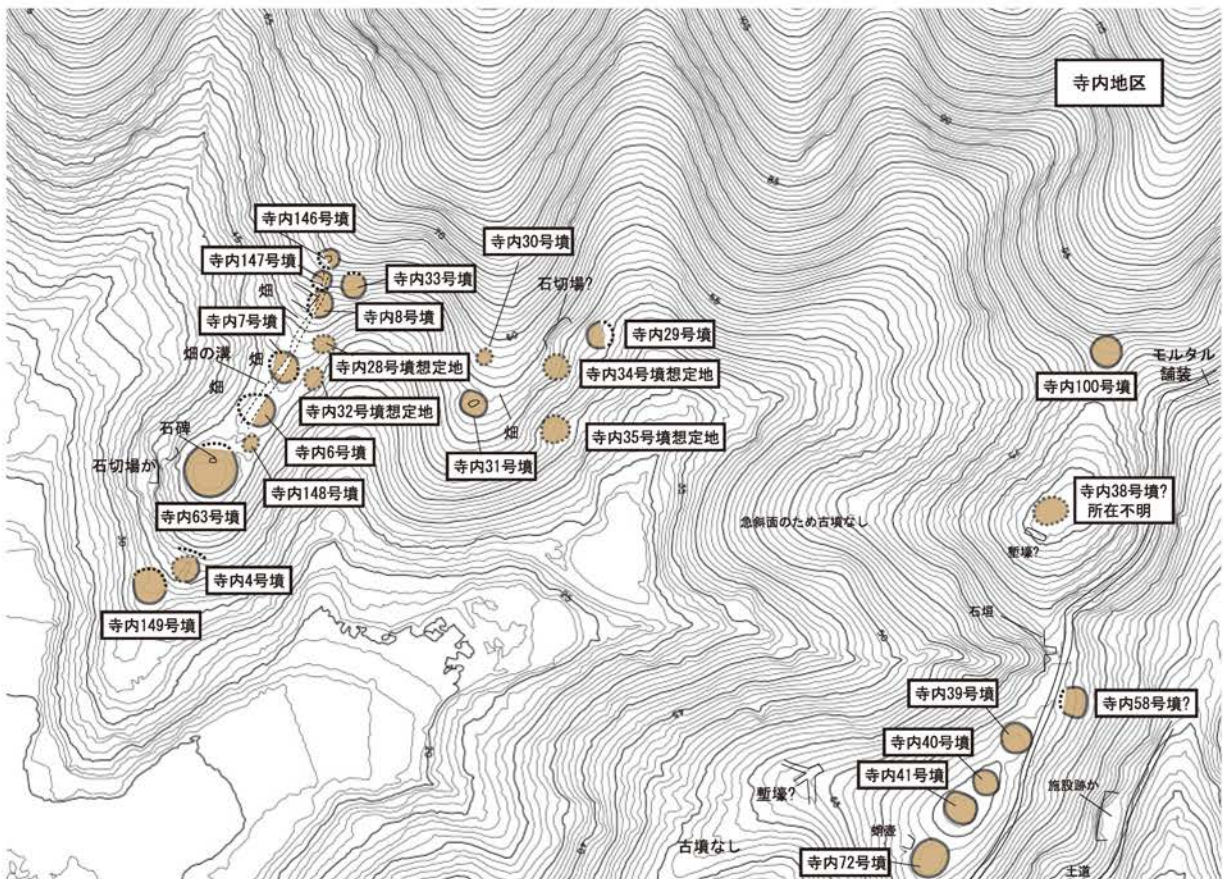


図 17 寺内地区踏査対象範囲② 地形測量図 (S= 1/2,500)

ある。尾根頂部の自然地形を利用した古墳であると推測される。墳頂部に石室や盗掘坑が確認できないため、未盗掘の石室が残されている可能性がある。

**寺内 46 号墳** 寺内 43 号墳がある尾根東隣の尾根平坦部に位置する径 15m、高さ 0.5m の円墳で、墳丘上部は削平もしくは流出している可能性がある。墳頂部に石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 47 号墳** 寺内 57 号墳の尾根と寺内 45 号墳の尾根の間にある小規模な尾根裾部に位置する古墳で、昭和 40 年代の関西大学の分布調査時に径 14m の円墳とされるが、現状では墳丘は確認できない。尾根裾部に緩斜面地があり古墳の候補地となるが、石材なども確認できない。

**寺内 48 号墳** 寺内 57 号墳の尾根と寺内 45 号墳の尾根の間にある小規模な尾根頂部に位置する径 10～12m、高さ 1.5m の円墳で、墳丘上部は削平もしくは流出している。平成 5 年度に和歌山市教育委員会による発掘調査が行われ、開口方向が南南西向きの横穴式石室（玄室長 2.42 × 幅推定 1.7m）が確認された。玄室内から土師器皿、堆積土から須恵器杯蓋が出土している。

**寺内 49 号墳** 寺内 57 号墳の尾根と寺内 45 号墳の尾根の間にある小規模な尾根上の斜面地に位置する径 12m 前後、高さ 1.5m の円墳である。平成 5 年度に和歌山市教育委員会により発掘調査が行われ、開口方向が南南西向きの横穴式石室（玄室長 2.05 × 幅 1.55m 以上）が確認された。墳丘中央に畑造成時の溝があり、墳裾東側も畑造成により削平されている。発掘調査後に埋め戻されたと考えられるが、斜面地であることから現状で側壁の一部が露出している。

**寺内 50 号墳** 昭和 40 年代の関西大学の分布調査において、前山 A10 号墳の南側にある径 18m、高さ 4m の円墳で、南北主軸の横穴式石室があるとされるが、踏査の結果、周辺に該当する墳丘や石室は確認できない。場所が少しずれるが、石室規模が近い寺内 118 号墳が該当する可能性もある。

**寺内 51 号墳** 前山 A10 号墳東側の尾根間の谷部に位置する径 7m、高さ 2m の円墳で、寺内 52 号墳の南側に所在する。墳頂部に石室や盗掘坑は確認できない。関西大学の分布調査で積石塚とされるが、北西側に戦時中と推測される塹壕があるので、塹壕排土の可能性もある。

**寺内 52 号墳** 前山 A10 号墳東側の尾根間の谷部に位置する径 5m、高さ 1.5m の円墳で、寺内 51 号墳の北側に所在する。墳頂部に石室や盗掘坑は確認できない。関西大学の分布調査で積石塚とされるが、北西側に戦時中と推測される塹壕があるので、塹壕排土の可能性もある。

**寺内 53 号墳** 寺内 119 号墳南東側の尾根間の谷部に位置する南北径 11m・東西径 8m、高さ 3m の円墳で、寺内 54・55 号墳と近接する。石室や盗掘坑は確認できない。関西大学の分布調査で積石塚とされるが、北側に戦時中と推測される防空壕があり、その排土の可能性もある。

**寺内 54 号墳** 寺内 119 号墳南東側の尾根間の谷部に位置する南北径 11m・東西径 7m、高さ 2.5m の円墳で、寺内 53・55 号墳と近接する。石室や盗掘坑は確認できない。関西大学の分布調査で積石塚とされるが、53 号墳の北側に戦時中と推測される防空壕があり、その排土の可能性もある。

**寺内 55 号墳** 寺内 119 号墳南東側の尾根間の谷部に位置する南北径 12m・東西径 8m、高さ 2m の円墳で、寺内 53・54 号墳と近接する。石室や盗掘坑は確認できない。関西大学の分布調査で積石塚とされるが、53 号墳の北側に戦時中と推測される防空壕があり、その排土の可能性もある。

**寺内 56 号墳** 寺内 57 号墳から北へ伸びる尾根上の斜面地に位置する径 11m、高さ 1.5m の円墳で、墳丘は戦時中もしくは蜜柑畑の造成により削平されているが、半円形の地形が残る。平成 5 年度・25 年度に和歌山市教育委員会により発掘調査が実施され、開口方向が南南西向きの横穴式石室（玄室長 3.3 × 幅 1.78m）が確認された。玄室から須恵器が出土している。

**寺内 57 号墳** 寺内地区東端の尾根上の平坦面に位置する径 35～40m、高さ 6.8m の大型円墳で、墳裾東側は道造成時に、墳裾南側は畑造成時に削平される。墳頂部中央に深く大きな盗掘坑（10.0m × 4.0m × 深 1.5m）と、墳丘南側に小さい盗掘坑が 3 箇所ある。現状で石室は確認でき

ないが、平成5年度に和歌山市教育委員会により発掘調査が行われ、開口方向が南向きの大型の横穴式石室（玄室長推定5.2×幅3.25×高4.66m）が確認された。羨道部から玄室前道部は天井石が残存し、玄室は天井石が斜めに落ち込んでいた。玄室内から須恵器器台が出土している。

**寺内58号墳** 寺内43号墳から北へ伸びる尾根の鞍部付近の東側斜面地に位置する径8m、高さ1.5mの円墳（低墳丘）である。墳丘中央に溝状の凹みがあり、盗掘坑の可能性はある。

**寺内59号墳** 寺内57号墳がある尾根東側斜面に位置する径12m、高さ2.5mの円墳である。現状は畑造成地で踏査できず、外側からの観察では墳丘は確認できなかった。昭和42年度に関西大学により発掘調査が行われ、開口方向が南東向きの横穴式石室（玄室長2.2m残存×幅1.48m残存）が確認された。天井石は取り去られ、奥壁と右側壁の一部が残存するのみであった。玄室から金環、管玉、須恵器、土師器が出土した。調査後に畑造成で削平されたと推測される。

**寺内60号墳** 寺内57号墳がある尾根東側斜面に位置する径17m、高さ2.5mの円墳である。現状は畑造成地で、外側からの観察では墳丘は確認できなかった。昭和42年度に関西大学により発掘調査が行われ、開口方向が南東向きの横穴式石室（玄室長3.17×幅2.17m）が確認された。玄室から鉄製品、須恵器、土師器が出土した。調査後に畑造成で削平されたと推測される。

**寺内63号墳** 知事塚から南へ伸びる尾根頂部に位置する径21.5m、高さ4.3mの大型の円墳である。墳裾北側の一部が畑造成で削平される。昭和43年度に関西大学により発掘調査が行われ、墳頂部で粘土槨（墓壙長6.6×幅2.4m）と木棺直葬（長2.6×幅0.7m）が確認された。墳頂部から墳丘全体に片岩の葺石があった。墳頂部から円筒埴輪、家形埴輪、須恵器、土師器、粘土槨から鉄槍、鉄剣、鉄鏃、短甲、漆片、木棺から蛇行状鉄剣、刀子、竹櫛が出土した。今回の踏査でも墳頂部で埴輪片1点を採集した。図28-18は円筒埴輪の基部で、推定底部径は23cmとなる。底部端はナデ調整により面をもつが、1箇所棒状のものの上に置いたような凹みが認められる。現在、墳頂上には発掘調査の記念碑（平成9年）が建立されている。

**寺内64号墳** 寺内18号墳がある尾根上の緩斜面に位置する径12mの円墳で、蜜柑畑造成のため盛土は確認できない。平成10年度に県教育委員会による発掘調査が行われ、岩盤を掘り込む墓壙が確認され、その規模から開口方向が南向きの横穴式石室であったと推測されている。周溝などから埴輪、土師器、須恵器が出土している。

**寺内65号墳** 寺内18号墳がある尾根の西側斜面地の裾部付近に位置する径14m、高さ3.5mの円墳で、墳丘上部は削平される。墳頂部中央に大きな盗掘坑があるが、石材は確認できない。

**寺内66号墳** 寺内18号墳がある尾根の西側斜面地の裾部付近に位置する径12m、高さ2mの円墳で、墳丘上部は削平されている。墳頂部中央に浅く大きな盗掘坑があり、南側に片岩が4石露出しており、横穴式石室の側壁の可能性はある。

**寺内67号墳** 寺内18号墳がある尾根の西側斜面地に位置する径16～19m、高さ5mの円墳で、北東側に周溝がある。墳頂部中央に大きな盗掘坑があるが、石材は確認できない。その規模から開口方向が南西向きの横穴式石室であった可能性はある。

**寺内68号墳** 寺内18号墳がある尾根の西側斜面地に位置する径16m、高さ4.5mの円墳で、東側に周溝があり、墳丘上部と墳裾西側は削平される。墳頂部中央に大きな盗掘坑があり、石材は確認できない。その規模から横穴式石室であった可能性はある。南東側の寺内152号墳は造出の可能性もある。

**寺内69号墳** 寺内18号墳がある尾根の西側緩斜面に位置する径12m、高さ3mの円墳で、北東側に周溝がある。墳頂部中央に大きな盗掘坑があるが、石材は確認できない。その規模から横穴式石室であった可能性はある。

**寺内70号墳** 寺内18号墳の尾根の西側緩斜面に位置する径19m、高さ4.5mの円墳で、東側～北側に周溝がある。墳裾南西側は削平される。墳頂部中央に大きな盗掘坑があるが、石材は確認

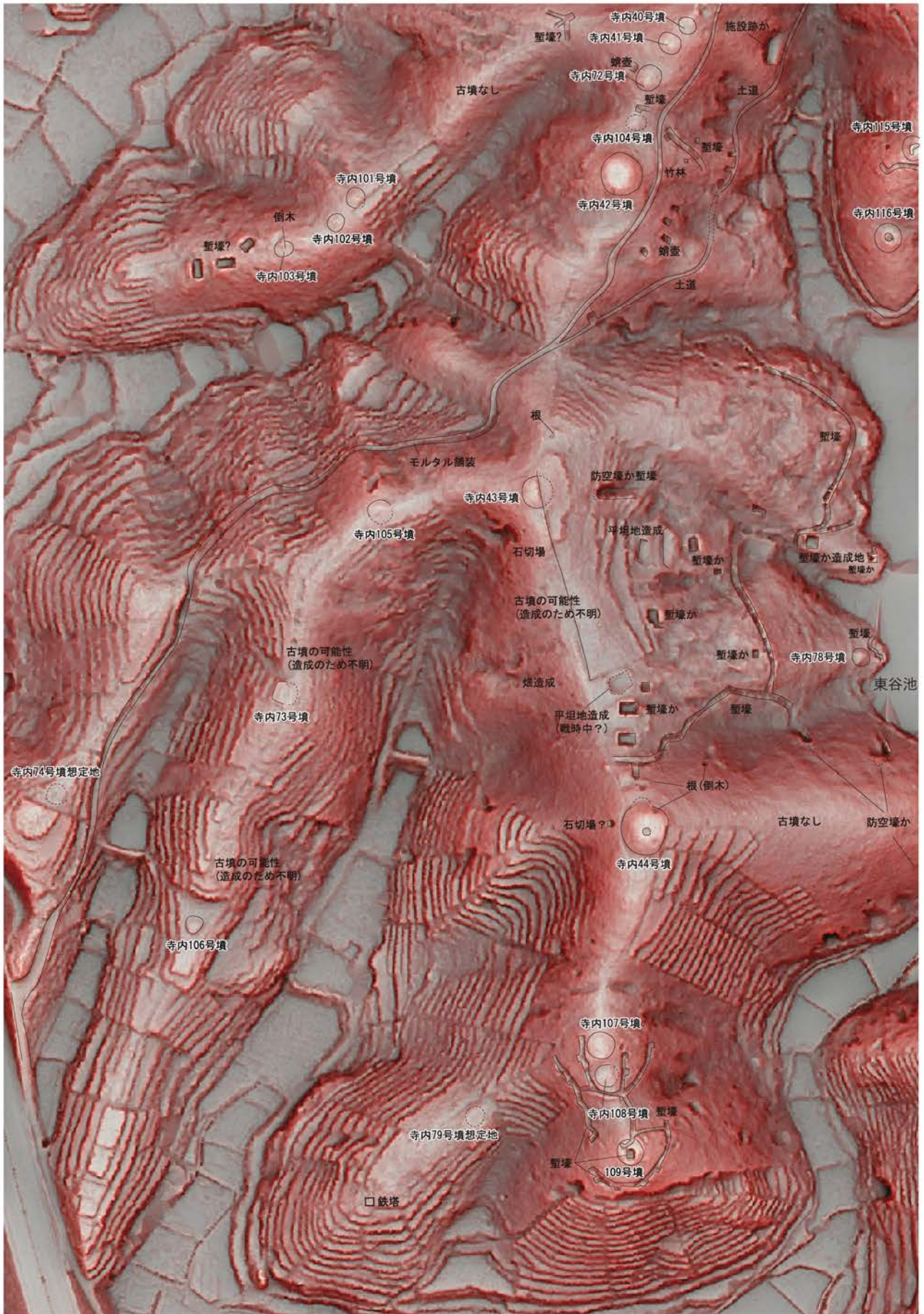


図 18 寺内地区踏査対象範囲③ 赤色立体地図 (S= 1/2,500)

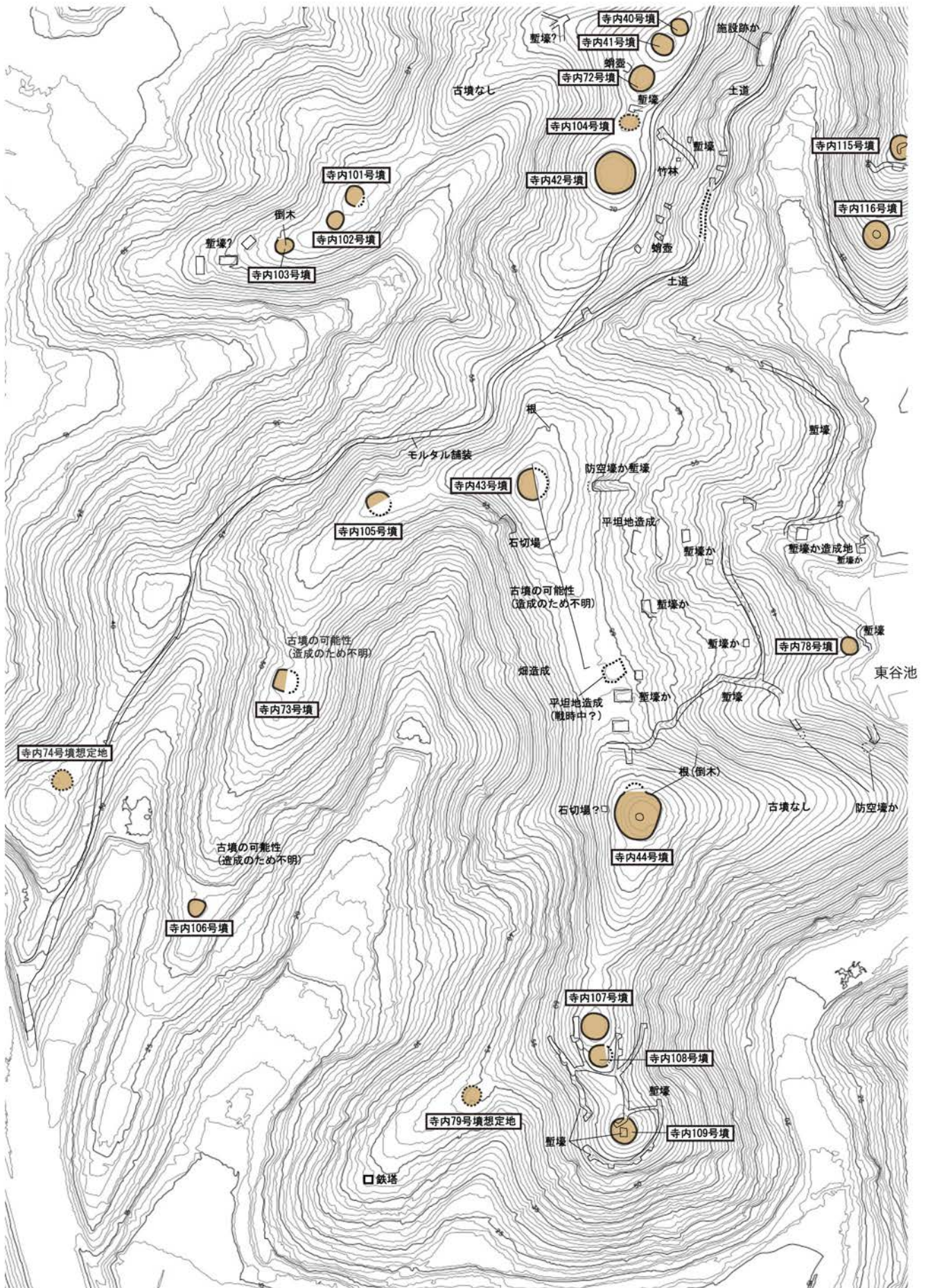


図 19 寺内地区踏査対象範囲③ 地形測量図 (S= 1/2,500)

できない。その規模から開口方向が南西向きの横穴式石室であった可能性がある。

**寺内 71 号墳** 寺内 18 号墳がある尾根の西側斜面地に位置する径 10m、高さ 3m の円墳で、墳丘上部は削平されている。墳頂部中央に大きな盗掘坑があるが、石材は確認できない。その規模から横穴式石室であった可能性がある。

**寺内 72 号墳** 寺内 43 号墳から北へ伸びる尾根上の平坦面に位置する径 12m、高さ 1.5m の円墳である。墳裾西側は戦時中の 1 人用の塹壕により一部削平されている。墳丘は良好に残存しており、墳頂部に石室や盗掘坑が確認できないため未盗掘の石室が残されている可能性がある。

**寺内 73 号墳** 寺内 43 号墳から南西へ伸びる尾根上の平坦面に位置する径 13m、高さ 0.8m の円墳で、墳丘東半は蜜柑畑の造成で削平される。残された西半も墳丘上部は削平され、石室や盗掘坑は確認できない。平成 3 年度の和歌山市教育委員会による分布調査で須恵器甕が採集された。

**寺内 74 号墳** 寺内 43 号墳から南西へ伸びる尾根上の平坦面に位置する古墳であるが、現状は畑となっており踏査ができず、外側からの観察では明瞭な墳丘は確認できなかった。平成 3 年度の和歌山市教育委員会による分布調査で蛇紋岩製勾玉が採集されている。

**寺内 75 号墳** 寺内 43 号墳の尾根と寺内 45 号墳の尾根間の小さな尾根上の頂部に位置する円墳で、墳丘の大半が蜜柑畑造成で削平されている。蜜柑畑内に半円形の段があり、古墳の形状を残している可能性があり、径 8m 程度の円墳を想定できる。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 76 号墳** 寺内 43 号墳の尾根と寺内 45 号墳の尾根間の小さな尾根上の頂部に位置する円墳で、墳丘東側と南側が蜜柑畑造成により削平されている。北西側にはわずかな高まりがあり、径 14m 程度の円墳と想定できる。墳頂部中央に浅い凹みがあり、盗掘坑の可能性はある。

**寺内 77 号墳** 寺内 43 号墳の尾根と寺内 45 号墳の尾根間の小さな尾根の緩斜面に位置する径 14m、高さ 2m の円墳で、北側に周溝がある。墳頂部中央に盗掘坑があり、盗掘坑外側の墳頂部に片岩の石積みを確認できる。開口方向が東向きの横穴式石室の側壁が露出している可能性がある。

**寺内 78 号墳** 寺内 43 号墳の尾根の東斜面裾部に位置する径 10m、高さ 2m の円墳で、東側は池に面する。池との間に戦時中の塹壕があり、排土の可能性もある。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 79 号墳** 寺内 43 号墳から南東へ伸びる尾根上の平坦面に位置する古墳で、現状は畑造成地で藪となっており踏査はできなかった。外側からの観察では墳丘は確認できなかった。平成 3 年度の和歌山市教育委員会による分布調査で須恵器高杯が採集されている。

**寺内 80 号墳** 寺内 45 号墳の尾根の東斜面裾部に位置する径 13m、高さ 3m の円墳で、寺内 81・139 号墳に近接し、西側に周溝がある。墳頂部中央に浅く大きな盗掘坑があるが石材は確認できない。

**寺内 81 号墳** 寺内 45 号墳の尾根の東斜面裾部に位置する径 14m、高さ 2.5m の円墳で、寺内 80・139 号墳に近接し、西側に周溝がある。墳頂部中央に盗掘坑があるが石材は確認できない。

**寺内 82 号墳** 寺内 57 号墳の尾根と寺内 45 号墳の尾根の間にある小規模な尾根上の緩斜面に位置する径 10～12m、高さ 2m の円墳である。墳丘は蜜柑畑造成により削平されている。平成 5 年度に和歌山市教育委員会により発掘調査が行われ、開口方向が南南西向きの横穴式石室が確認された。羨道部のみの調査で、玄室は未発掘である。羨道部から須恵器高杯が出土している。

**寺内 83 号墳** 寺内 57 号墳の尾根と寺内 45 号墳の尾根間の小規模な尾根上の斜面地に位置する径 9m、高さ 0.5m の円墳である。墳丘は蜜柑畑造成ではほぼ削平されてわずかな高まりを残すのみである。平成 5 年度に和歌山市教育委員会により発掘調査が行われ、開口方向が南向きの横穴式石室（玄室長 1.1m 以上×幅 1.65m）の奥壁と側壁の一部が確認された。玄室から須恵器杯と長頸壺及び平安時代の須恵器と土師器が出土し、平安時代に石室が再利用されたと推測される。

**寺内 84 号墳** 寺内 57 号墳の尾根と寺内 45 号墳の尾根の間にある小規模な尾根裾付近の緩斜面

に位置する径9m、高さ1mの円墳である。墳丘上部は削平もしくは流出している。平成5年度に和歌山市教育委員会により発掘調査が行われ、開口方向が南南西向きの横穴式石室（玄室長2.4×幅1.4m以上）が確認された。玄室から土師器が出土している。

**寺内85号墳** 寺内57号墳の尾根と寺内45号墳の尾根の間にある小規模な尾根北端部の南側斜面地に位置する円墳で、蜜柑畑造成のため墳丘は削平されて規模は不明である。平成5・25年度に和歌山市教育委員会により発掘調査が行われ、開口方向が南南東向きの横穴式石室（玄室長2.4×幅1.9m）が確認された。遺物は玄室から須恵器、土師器及び平安時代の土師器が出土している。

**寺内86号墳** 寺内57号墳から北へ伸びる尾根頂部付近の平坦面に位置する径10m、高さ0.5mの円墳で、墳丘の大半は削平され、わずかに高まりを残すのみである。平成5年度・25年度に和歌山市教育委員会により発掘調査が行われ、開口方向が南向きの小型横穴式石室の奥壁と側壁の一部が確認されている（玄室幅推定1.0m）。石室埋土から奈良時代の土師器甕が出土している。

**寺内87号墳** 寺内57号墳から北へ伸びる尾根上の平坦面に位置する径12m、高さ0.5mの円墳で、墳丘の大半は削平もしくは流出してわずかに高まりを残すのみである。平成5・25年度に和歌山市教育委員会により発掘調査が行われ、開口方向が南向きの小型横穴式石室が確認されている（玄室長2.0×幅1.0m）。遺物は、周溝埋土から平安時代の土師器皿が出土している。

**寺内88号墳** 寺内57号墳から北へ伸びる尾根頂部に位置する古墳で、墳丘の大半は削平もしくは流出して墳丘はほとんど残されていない。平成5年度に和歌山市教育委員会により発掘調査が行われ、石室は確認できず、周溝のみが検出されている。

**寺内89号墳** 寺内57号墳の尾根の東側斜面に位置する古墳で、現状は畑造成地で藪となっており踏査できなかった。平成3年度の和歌山市教育委員会の分布調査で須恵器が採集されている。

**寺内90号墳** 寺内57号墳から南へ伸びる尾根上の平坦面に位置する古墳で、道及び蜜柑畑造成で大きく改変されている。平成5年度の和歌山市教育委員会による発掘調査で、周溝のみが検出されて、周溝から須恵器が複数点出土している。今回の踏査でも、須恵器を複数点採集し、このうち3点を図化した。（図28-20・21・22）

**寺内91号墳** 寺内57号墳から南へ伸びる尾根上の平坦面に位置する径12m、高さ1.5mの円墳で、道造成で墳丘西半が削平される。墳頂部中央に凹みがあり、盗掘坑の可能性はある。平成7年度の和歌山市文化体育振興事業団による発掘調査では石室は確認できず、周溝のみが検出されている。墳裾から須恵器大甕が出土している。

**寺内92号墳** 寺内57号墳の尾根に所在する寺内96号墳から南西へ伸びる小さい尾根上緩斜面に位置する径10m、高さ1mの円墳で、墳丘の大半は削平される。墳頂部中央に大きな盗掘坑があるが、石材は確認できない。平成7年度に和歌山市文化体育振興事業団、平成24年度に和歌山市教育委員会により発掘調査が行われ、石室は確認されなかったが、攪乱坑底部に玉石が散乱しており、竪穴式石室床面の玉石であると推測される。玉石上からは須恵器が出土している。

**寺内93号墳** 寺内57号墳がある尾根北端から南東に伸びる小規模な尾根先端部の平坦面に位置する古墳で、畑造成で墳丘の大半は削平され、わずかな高まりが残る（径6.0×高0.5m程度）。平成5・25年度に和歌山市教育委員会により発掘調査が行われ、平安時代の溝が検出された。石室は確認されていないが周辺に片岩が散乱し、石室があった可能性が推測される。

**寺内94号墳** 新規確認古墳である。寺内57号墳から北へ伸びる尾根頂部に位置する古墳で、墳丘上部は削平もしくは流出し、わずかな高まりを残すのみである（径7.0×高1.0m）。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内95号墳** 寺内57号墳から北へ伸びる尾根の頂部に位置する古墳で、墳丘上部は削平され、径15m程度の丸い地形を残すのみである。石室や盗掘坑は確認できず、猪の沼田場となっている。平成5年度に和歌山市教育委員会により発掘調査され、周溝の可能性のある溝が検出された。周





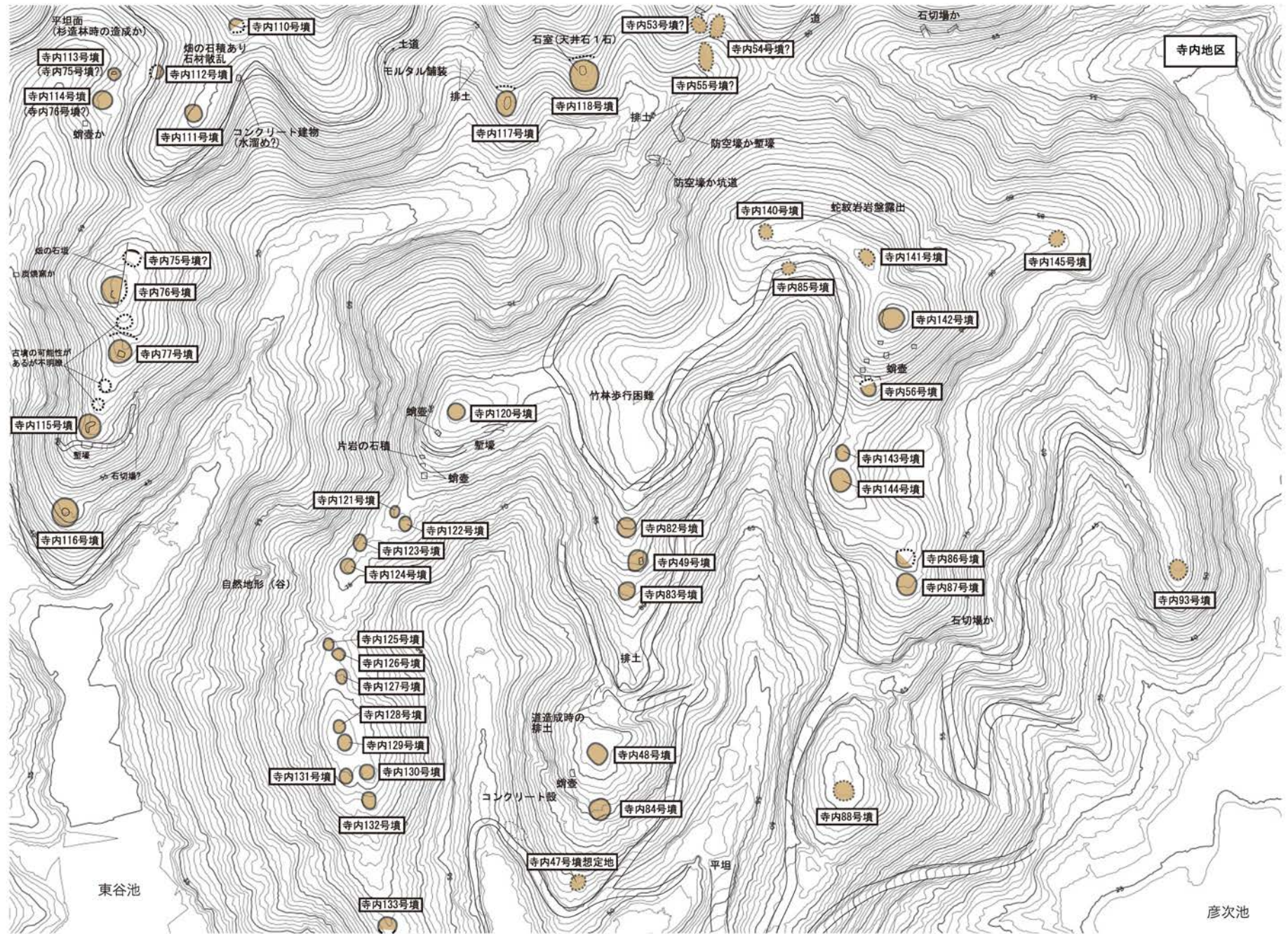


図 21 寺内地区踏査対象範囲④ 地形測量図 (S= 1/2,500)

溝埋土上層から平安時代の土師器皿が出土している。

**寺内 96 号墳** 寺内 57 号墳から北へ伸びる尾根上に位置する古墳で、道や造成のため墳丘は削平されていると推測され、周囲は岩盤が露出し、古墳の痕跡は残っていない。平成 5 年度に和歌山市教育委員会により発掘調査が行われたが、古墳に関連する遺構は確認されていない。

**寺内 97 号墳** 新規確認古墳である。寺内 57 号墳がある尾根上の平坦面に位置する古墳で、道や造成のため墳丘は削平されていると推測され、古墳の痕跡は残っていない。平成 7 年度に和歌山市文化体育振興事業団による発掘調査で、片岩板石を組み合わせた横穴式石室の排水溝（長 1.0m 残存）が確認されている。

**寺内 98 号墳** 新規確認古墳である。寺内 57 号墳から南へ伸びる尾根南端部の平坦面に位置する長径 7m・短径 5m、高さ 1m の円墳で、周辺の畑造成により墳丘全体が削平されており、本来は一回り大きいと推測される。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 99 号墳** 寺内 57 号墳から南へ伸びる尾根南端部の尾根頂部に位置する古墳で、南半と東半は道の造成で削平されて、墳丘も畑造成により大きく改変されている。径 9m、高さ 1.5m 程度のわずかな高まりを残すのみで、石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 100 号墳** 將軍塚から南へ伸びる尾根上の緩斜面に位置する径 6m、高さ 0.5m の円墳（低墳丘）である。墳頂部に浅い凹みがあり、盗掘坑の可能性はあるが、石材は確認できない。

**寺内 101 号墳** 寺内 43 号墳の尾根の南西側にある尾根上の平坦面に位置する径 9m、高さ 1m の円墳（低墳丘）である。周辺の寺内 102・103 号墳と同規模で、墳裾南東端は蜜柑畑造成により削平されている。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 102 号墳** 新規確認古墳である。寺内 43 号墳の尾根の南西側にある尾根上の平坦面に位置する径 7m、高さ 0.5m の円墳（低墳丘）である。周辺の寺内 101・103 号墳と同規模で、石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 103 号墳** 新規確認古墳である。寺内 43 号墳の尾根南西側にある尾根上の平坦面に位置する径 10m、高さ 1m の円墳（低墳丘）である。周辺の寺内 101・102 号墳と同規模で、石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 104 号墳** 新規確認古墳である。寺内 43 号墳から北へ伸びる尾根上の平坦面に位置する径 7m、高さ 1m の円墳（低墳丘）である。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 105 号墳** 新規確認古墳である。寺内 43 号墳から南西へ伸びる尾根上の平坦面に位置する径 12m、高さ 1m の円墳で、墳裾東側は蜜柑畑造成により削平されている。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 106 号墳** 新規確認古墳である。寺内 43 号墳から南西へ伸びる尾根上の平坦面に位置する径 8m、高さ 0.8m の円墳である。現状は蜜柑畑内に墳丘が残されており、墳裾は削平されている。墳丘上に蜜柑畑のモノレールが設置されている。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 107 号墳** 新規確認古墳である。寺内 43 号墳から南へ伸びる尾根南端部の平坦面に位置する径 20m、高さ 3m の円墳で、墳裾西側は戦時中の塹壕により削平されている。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 108 号墳** 新規確認古墳である。寺内 43 号墳から南へ伸びる尾根南端部の平坦面に位置する径 17m、高さ 2m の円墳で、墳裾南半を取り囲む戦時中の塹壕により削平されている。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 109 号墳** 新規確認古墳である。寺内 43 号墳から南へ伸びる尾根南端の先端に位置する径 22m、高さ 4m の円墳で、北半に戦時中の塹壕が掘削されている。墳頂部中央に深く大きな掘削坑があり、盗掘坑の可能性もあるが、塹壕に繋がることから戦時中の掘削と推測され、石室は消滅したと考えられる。

**寺内 110 号墳** 新規確認古墳である。前山 B1 号墳から南へ伸びる尾根上の斜面から平坦面に位置する径 10m、高さ 1m の円墳である。蜜柑畑造成時の溝が墳丘中央を通り、墳丘東半も畑造成で削平されている。石室や盗掘坑は確認できない。周辺に石室で使用されたと推測される片岩が集積されている。

**寺内 111 号墳** 新規確認古墳である。前山 B1 号墳から南へ伸びる尾根上の平坦面に位置する径 12m、高さ 1.5m の円墳である。蜜柑畑造成時の溝が墳丘中央を通り、墳丘上部も削平されている。石室や盗掘坑は確認できないが、墳丘周辺に石室で使用されていたと推測される片岩が散乱している。

**寺内 112 号墳** 新規確認古墳である。前山 B1 号墳から南へ伸びる尾根の西側斜面地に位置する径 8m、高さ 1.5m の円墳で、墳丘中央から西半は道造成で削平される。道の東壁に横穴式石室の奥壁か側壁の一部と推測される高さ 0.9m、長さ 1.4m 分の石積みが露出し、石室の大半が消滅していると考えられる。

**寺内 113 号墳** 前山 B1 号墳から南へ伸びる尾根の西側斜面地に位置する径 8m、高さ 1.5m の円墳である。墳頂部中央に浅い盗掘坑があるが、石材は確認できない。盗掘坑の形状から開口方向が西向きの横穴式石室であった可能性がある。

**寺内 114 号墳** 前山 B1 号墳から南へ伸びる尾根の西側斜面地に位置する径 14m、高さ 2m の円墳である。墳頂部西側に浅い盗掘坑があるが、その形状から開口方向が西向きの横穴式石室であった可能性がある。墳丘南東側は猪の沼田場となっている。

**寺内 115 号墳** 新規確認古墳である。寺内 43 号墳の尾根と寺内 45 号墳の尾根間の小さな尾根先端部の平坦面に位置する径 12m、高さ 1.5m の円墳である。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 116 号墳** 新規確認古墳である。寺内 43 号墳の尾根と寺内 45 号墳の尾根の間にある小さな尾根の斜面地に位置する径 16m、高さ 3m の円墳で、北側に周溝がある。墳頂部中央に深く大きな盗掘坑があるが、石室は確認できない。盗掘坑の規模から横穴式石室であった可能性がある。

**寺内 117 号墳** 新規確認古墳である。前山 A1 号墳から南へ伸びる尾根裾部先端の緩斜面に位置する長径 19m・短径 16m、高さ 4m の円墳で、北側に周溝がある。墳頂部中央に浅く大きな盗掘坑があるが、その規模から開口方向が南向きの横穴式石室であった可能性がある。

**寺内 118 号墳** 新規確認古墳である。前山 A1 号墳から南へ伸びる尾根裾部先端の緩斜面に位置する径 16m、高さ 4m の円墳であるが、方墳の可能性もある。北側に周溝がある。埋葬施設は、開口方向が南向きの横穴式石室（玄室長 3.0 × 幅 1.7m）で、玄室の天井石が 1 枚残存している。地点は異なるが石室規模などから関西大学分布調査時の寺内 50 号墳の可能性もある。

**寺内 119 号墳** 新規確認古墳である。前山 A8 号墳から南へ伸びる尾根裾部先端の斜面地に位置する長径 12m・短径 9m、高さ 1.5m の円墳で、北側に周溝がある。埋葬施設は、開口方向が南向きの横穴式石室（玄室長 2.2m 以上 × 幅 1.6m）で、玄室の天井石は取り去られている。今回の踏査で、石室内を清掃中に古代の須恵器の坏又は皿が採集された（図 28 - 19）。

**寺内 120 号墳** 新規確認古墳である。寺内 45 号墳から北へ伸びる尾根北端の尾根頂部に位置する径 15m、高さ 0.5m の円墳で、墳丘上部は削平され、わずかな高まりを残す。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 121 号墳** 新規確認古墳である。寺内 45 号墳から北へ伸びる尾根北端の緩斜面に位置する径 7m、高さ 1m の円墳（低墳丘）で、同規模の寺内 122 号墳と並ぶ。墳丘上部は削平され、石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 122 号墳** 新規確認古墳である。寺内 45 号墳から北へ伸びる尾根北端付近の緩斜面に位置する径 8m、高さ 1m の円墳（低墳丘）で、同規模の寺内 121 号墳と並んでいる。墳丘上部は削平もしくは流出している。墳頂部中央に盗掘坑があり、開口方向が南東向きの横穴式石室の奥壁

と側壁の一部が確認できる。

**寺内 123号墳** 新規確認古墳である。寺内 45号墳から北へ伸びる尾根北半の鞍部に位置する径 8m、高さ 1m の円墳（低墳丘）で、墳丘上部は削平もしくは流出している。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 124号墳** 新規確認古墳である。寺内 45号墳から北へ伸びる尾根北半の鞍部に位置する径 11m、高さ 1m の円墳（低墳丘）で、墳丘上部は削平もしくは流出している。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 125号墳** 新規確認古墳である。寺内 45号墳から北へ伸びる尾根北半の鞍部に位置する径 9m、高さ 1m の円墳（低墳丘）で、墳丘上部は削平もしくは流出している。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 126号墳** 新規確認古墳である。寺内 45号墳から北へ伸びる尾根北半の鞍部に位置する径 7m、高さ 1m の円墳（低墳丘）で、墳丘上部は削平もしくは流出している。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 127号墳** 新規確認古墳である。寺内 45号墳から北へ伸びる尾根北半の鞍部に位置する径 8m、高さ 1.2m の円墳（低墳丘）で、墳丘上部は削平もしくは流出している。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 128号墳** 新規確認古墳である。寺内 45号墳から北へ伸びる尾根北半の頂部に位置する径 14m、高さ 1m の円墳で、頂部の寺内 129号墳に近接する。墳丘上部は削平され、石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 129号墳** 寺内 45号墳から北へ伸びる尾根北半の頂部に位置する径 10m、高さ 1m の円墳で、同じ尾根頂部の寺内 128号墳に近接する。墳丘上部は削平される。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 130号墳** 新規確認古墳である。寺内 45号墳から北へ伸びる尾根北半の尾根頂部に位置する径 14m、高さ 2m の円墳である。墳頂部に浅く大きな盗掘坑があるが、石材は確認できない。

**寺内 131号墳** 新規確認古墳である。寺内 45号墳から北へ伸びる尾根北半の尾根頂部から斜面地に位置する径 8m、高さ 1m の円墳（低墳丘）である。墳丘上部は削平され、石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 132号墳** 新規確認古墳である。寺内 45号墳から北へ伸びる尾根北半の尾根上斜面地に位置する径 9m、高さ 1m の円墳（低墳丘）である。墳丘上部は削平もしくは流出し、石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 133号墳** 新規確認古墳である。寺内 45号墳から北へ伸びる尾根北半の尾根上平坦面に位置する径 7m、高さ 1m の円墳（低墳丘）である。墳丘上部は削平もしくは流出している。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 134号墳** 新規確認古墳である。寺内 45号墳がある尾根南半の尾根上平坦面に位置する径 6m、高さ 0.7m の円墳（低墳丘）で、墳丘上部は削平される。墳頂部中央に小さな凹みがあり、盗掘坑の可能性はある。

**寺内 135号墳** 新規確認古墳である。寺内 45号墳の尾根南半の尾根上平坦面から斜面地に位置する径 8m、高さ 1m の円墳（低墳丘）である。墳丘上部は削平もしくは流出している。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 136号墳** 新規確認古墳である。寺内 45号墳がある尾根南半の尾根上平坦面に位置する径 12m、高さ 0.7m の円墳（低墳丘）である。墳丘上部は削平もしくは流出している。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 137号墳** 新規確認古墳である。寺内 45号墳がある尾根南半の平坦面に位置する古墳





で、畑造成で墳丘はほぼ削平される。畑の石積みが円弧状を呈する箇所があり、円墳の形状（径15m）を残す可能性がある。

**寺内 138 号墳** 新規確認古墳である。寺内 45 号墳がある尾根南半の尾根頂部に位置する径14m、高さ1.5mの円墳で墳丘上部は削平される。石室や盗掘坑は確認できない。墳丘に五輪塔（火輪）が残されていた。

**寺内 139 号墳** 新規確認古墳である。寺内 45 号墳の尾根の東斜面裾部に位置する径9m、高さ1.5mの円墳で、寺内 80・81 号墳の東側に近接する。墳頂部中央に浅く大きな盗掘坑があるが、石材は確認できない。

**寺内 140 号墳** 新規確認古墳である。寺内 57 号墳の尾根と寺内 45 号墳の尾根の間にある小規模な尾根北端部の平坦面に位置する径5m、高さ0.5mの円墳で蜜柑畑造成で周辺は改変され、わずかに高まりを残す。石室や盗掘坑は確認できない。蛇紋岩の石材が散乱しているが、石室に用いられたものではない。

**寺内 141 号墳** 新規確認古墳である。寺内 57 号墳から北へ伸びる尾根北端部の平坦面に位置する径10m、高さ1mの円墳で墳丘上部は削平され、わずかに高まりを残す。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 142 号墳** 新規確認古墳である。寺内 57 号墳から北へ伸びる尾根北半の頂部に位置する径15m、高さ1.5mの円墳で、墳丘上部は削平もしくは流出している。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 143 号墳** 新規確認古墳である。寺内 57 号墳から北へ伸びる尾根北半の平坦面に位置する径11m、高さ1mの円墳で、墳丘上部は削平もしくは流出している。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 144 号墳** 新規確認古墳である。寺内 57 号墳から北へ伸びる尾根北半の平坦面に位置する径13m、高さ1mの円墳で、墳丘上部は削平もしくは流出している。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 145 号墳** 新規確認古墳である。寺内 57 号墳から北へ伸びる尾根北端から東へ続く尾根の平坦面に位置する径5m、高さ0.5mの円墳（低墳丘）で、墳丘上部は削平もしくは流出している。平成 25 年度に和歌山市教育委員会により発掘調査が行われ、周溝のみが確認された。

**寺内 146 号墳** 新規確認古墳である。寺内 63 号墳がある尾根上の斜面地に位置する径5.5m、高さ0.3mの円墳（低墳丘）で、墳丘西半及び墳丘上部は蜜柑畑造成により削平されている。墳頂部中央の凹みに石積みがあり、竪穴式石室である可能性がある。

**寺内 147 号墳** 新規確認古墳である。寺内 63 号墳がある尾根上の斜面地に位置する径6m、高さ0.5mの円墳（低墳丘）で、墳丘中央～西半は蜜柑畑造成時の溝状通路などで削平される。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 148 号墳** 新規確認古墳である。寺内 63 号墳がある尾根上の平坦面に位置する径3.5m、高さ1mの円墳（低墳丘）で、石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 149 号墳** 新規確認古墳である。寺内 63 号墳がある尾根南端の斜面地に位置する径15m、高さ3mの円墳で、蜜柑畑造成により墳丘の大半は削平されている。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 150 号墳** 新規確認古墳である。寺内 18 号墳がある尾根の西側斜面地の裾部付近に位置する径3.5m、高さ0.8mの円墳（低墳丘）である。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 151 号墳** 新規確認古墳である。寺内 18 号墳がある尾根の西側斜面地に位置する径4m、高さ0.8mの円墳（低墳丘）である。石室や盗掘坑は確認できない。

**寺内 152 号墳** 新規確認古墳である。寺内 18 号墳がある尾根の西側斜面地に位置する径7m、高さ1mの円墳（低墳丘）である。石室や盗掘坑は確認できない。寺内 68 号墳の南東側に接しており、68 号墳の造出の可能性もある。

**寺内 153 号墳** 新規確認古墳である。寺内 18 号墳がある尾根の西側斜面地に位置する径6m、高さ0.8mの円墳（低墳丘）である。石室や盗掘坑は確認できない。寺内 70 号墳の北西側に接



しており、70号墳の造り出しの可能性もある。

**総綱寺谷の古墳** 井辺地区南東に位置するソゴ谷池と寺内地区南西に位置する籠池に挟まれた丘陵地周辺（図14）は、現在の寺内地区南西に位置づけられるが、かつてはソゴ谷池南の総綱寺谷の地名から総綱寺谷古墳群と呼称されていた。現在、阪和自動車道が縦断し、その南西側は宅地及び畑として開墾され、旧地形をとどめていない。北東側は蜜柑畑跡となっている。かつては寺内5・9・10・11・12号墳が分布していたが、現在は消滅している。道路より北東側の丘陵の頂部には、寺内1・2・3・26・27号墳が残るが、丘陵斜面は蜜柑畑利用時の段と石垣が残るのみで、遺構及び遺物や石材の散布は認められない。大野嶺夫による踏査や聞き取り調査によると、かつてソゴ谷池と籠池の間には10～15基の古墳が群集し、ソゴ谷池南側には15基の古墳が群集していたとのことであるが、昭和20年代の聞き取り調査時点ですでに古墳は消滅していたことから、正確な場所は把握できず、今回の踏査でもその痕跡を確認することはできなかった。

**その他** 寺内地区中央の尾根には、塹壕とみられる空堀及び土塁数条が認められるほか、岩盤を削り抜いた防空壕や、1人用の塹壕である蛸壺状の土坑を多数確認した。

#### （5）前山A地区（図24・25）

岩橋山塊の北西部の通称前山に位置する地区である。主稜線上の丘陵頂部と派生する尾根に小支群が形成されている。大正期に「岩橋千塚第1期調査」が行われた地区で、地区の大部分が昭和6年（1931）の史跡指定範囲に含まれる。踏査範囲は岩橋山塊の主稜線から南に派生する尾根で、現況は雑木林である。

**前山A 10号墳** 前山A8号墳から南へ伸びる尾根上の緩斜面に位置する古墳で、形状から方墳の可能性がある（南北長13.0×南辺長13.0・北辺長11.0×高2.0m）。北側に周溝がある。埋葬施設は開口方向が南向きの横穴式石室（玄室長3.0×幅2.2m）で、羨道部は埋没している。玄室の天井石は取り去られている。墳丘上東側に石室の石材と考えられる片岩が散乱する。

**前山A14号墳** 前山A8号墳から東へ続く主尾根上に位置する径11m、高さ1.7mの円墳である。低墳丘もしくは墳丘上部が削平されて墳丘が低い。南北方向に主軸をもつ浅い盗掘坑が2箇所ある。石材は確認できないが、両者ともに長2.3×幅0.8mで、竪穴式石室であった可能性がある。

**前山A15号墳** 前山A14号墳から東へ続く主尾根上に位置する径7m、高さ1mの円墳である。低墳丘もしくは墳丘上部が削平されて墳丘が低い。墳丘上にL字形の浅い盗掘坑があり、石材などは確認できないが、竪穴式石室であった可能性がある。

#### （6）前山B地区（図26・27）

岩橋山塊の北西部の通称前山のうち、前山A地区の西側にあたる地区で、主稜線上の丘陵頂部には中・小型の前方後円墳である将軍塚古墳、知事塚古墳、郡長塚古墳が築造され、派生する尾根に小支群が形成される。令和3年度に実施した確認調査では、北側の丘陵裾に前山B370号墳など新たに4基の古墳の存在を確認した。地区の大部分が昭和6年（1931）の史跡指定範囲に含まれる。踏査範囲は主稜線から南に派生する尾根で、現況は雑木林である。

**前山B 192号墳** 前山B130号墳から南へ伸びる尾根上の緩斜面に位置する径11m、高さ2mの円墳で、北側に周溝がある。玄室の天井石は取り去られている。埋葬施設は、開口方向が南向きの横穴式石室（玄室長2.45×幅1.6m）で、羨道部は埋没している。

**前山B 193号墳** 知事塚から南西へ伸びる尾根上の緩斜面に位置する径7m、高さ1.3mの小型の円墳で、前山B194号墳に隣接している。北側に周溝がある。埋葬施設は、北西－南東を主軸とする竪穴式石室（石室長1.95×幅0.95m）で、天井石は取り去られている。

**前山B 194号墳** 知事塚から南西へ伸びる尾根上の緩斜面に位置する径17.5m、高さ3.5mの円

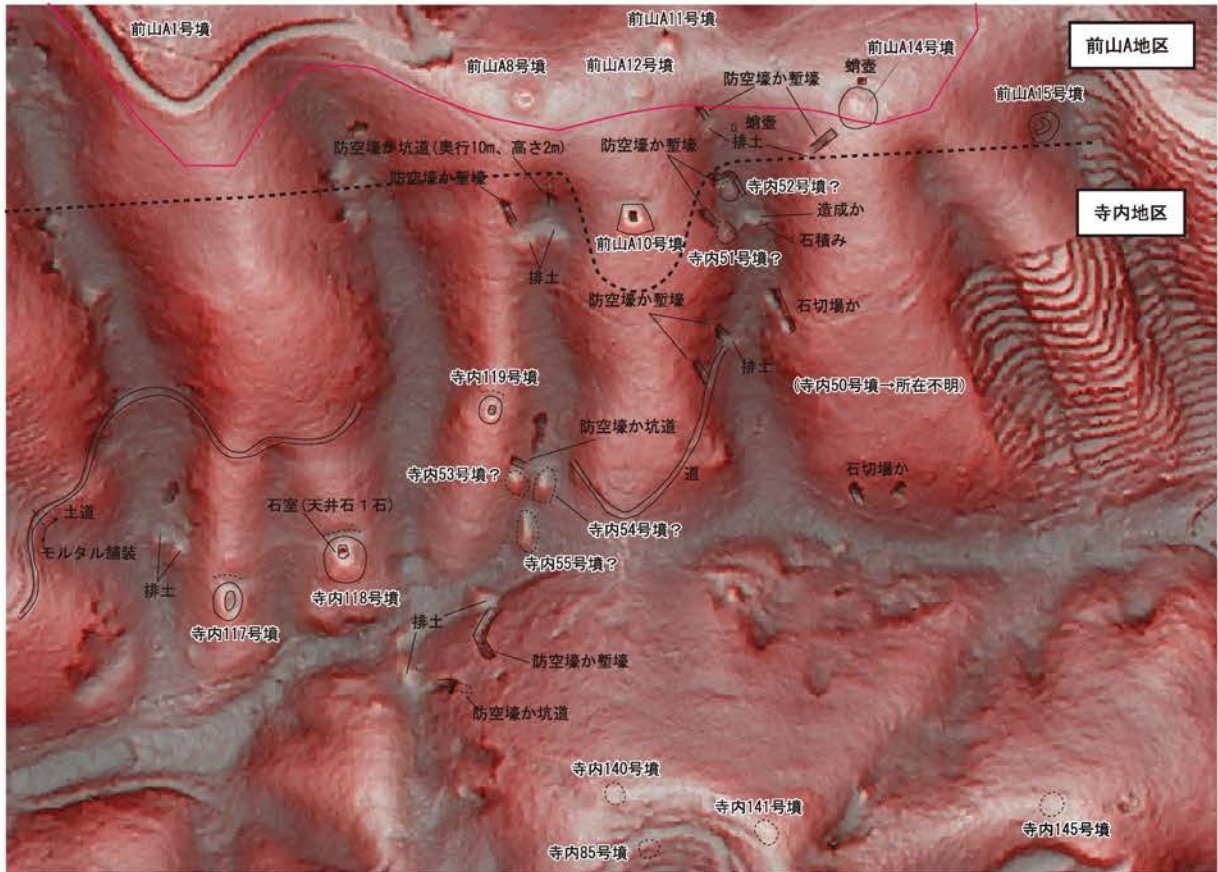


图 24 前山 A 地区 (南尾根) 踏查対象範囲 赤色立体地図 (S= 1/2,500)

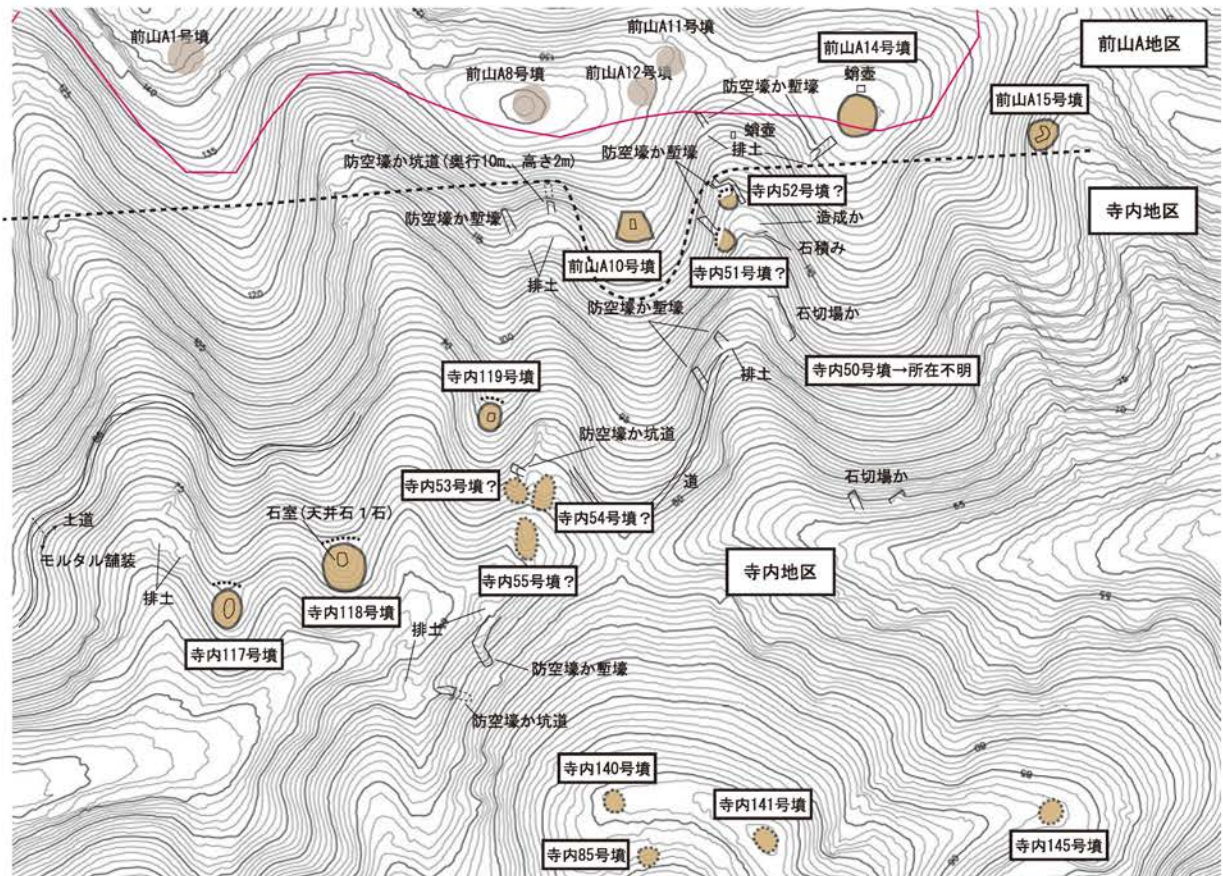


图 25 前山 A 地区 (南尾根) 踏查対象範囲 地形測量図 (S= 1/2,500)

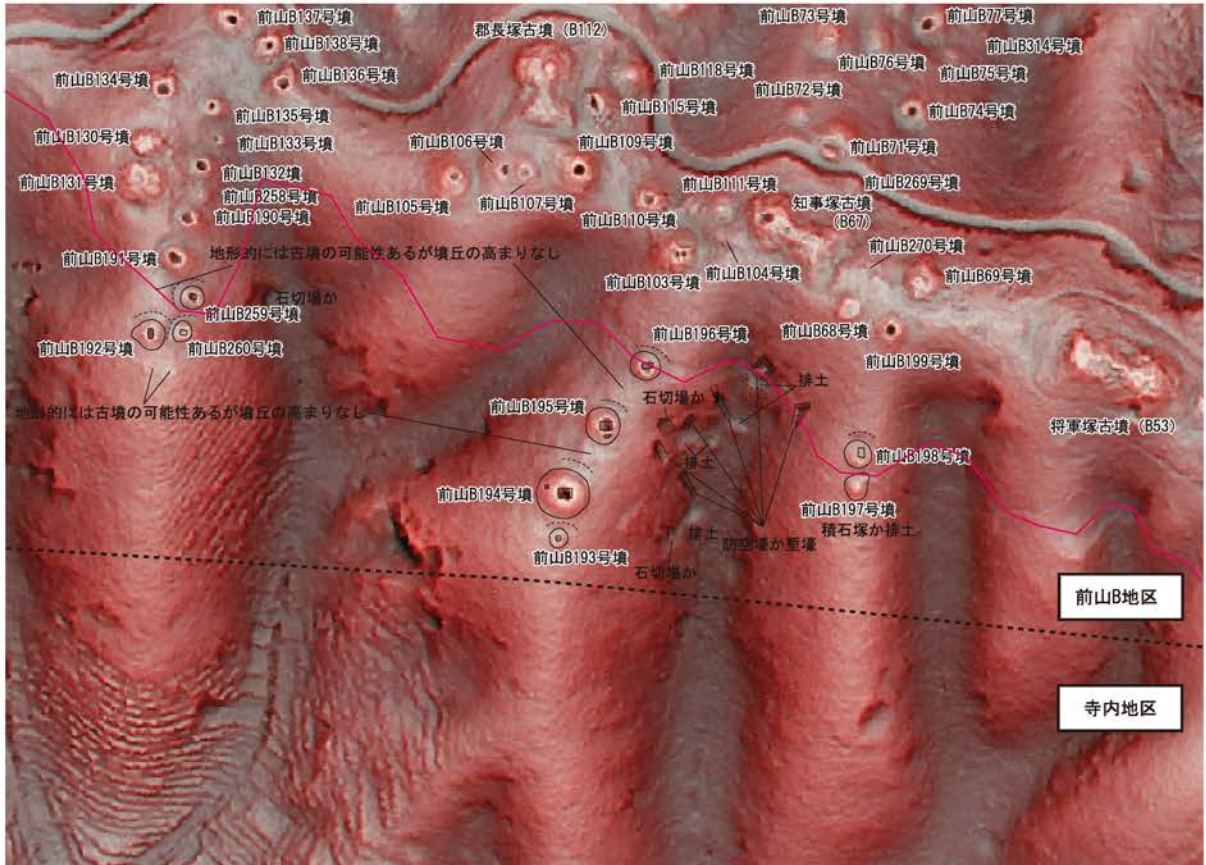


図 26 前山 B 地区 (南西) 踏査対象範囲 赤色立体地図 (S= 1 / 2,500)

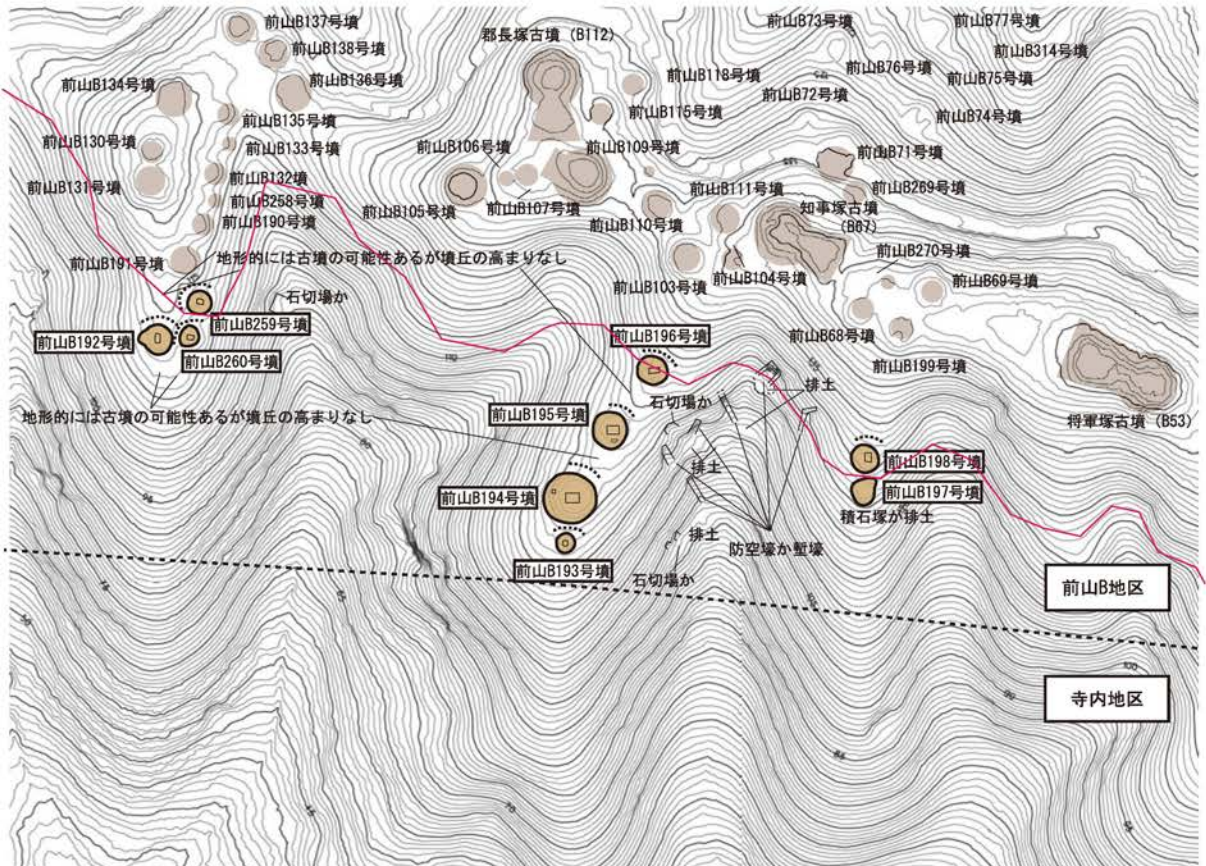


図 27 前山 B 地区 (南西) 踏査対象範囲 地形測量図 (S= 1 / 2,500)

墳である。北側に周溝がある。埋葬施設は、開口方向が西向きの横穴式石室(玄室長2.2×幅1.9m)で、玄室の天井石は取り去られている。羨道部は埋没している。

**前山B 195号墳** 知事塚から南西へ伸びる尾根上の緩斜面に位置する径13m、高さ2mの円墳で、前山B 194号墳と196号墳の間に所在する。北側に周溝がある。埋葬施設は開口方向が西向きの横穴式石室(玄室長2.4×幅1.7m)で、玄室の天井石は取り去られ、羨道部は埋没している。

**前山B 196号墳** 知事塚から南西へ伸びる尾根上の緩斜面に位置する径10.5m、高さ2mの円墳で、北側に周溝がある。埋葬施設は、開口方向が西向きの横穴式石室(玄室長1.4m以上×幅1.7m)で、玄室の天井石は取り去られている。玄室袖部から羨道部は埋没している。

**前山B 197号墳** 知事塚と将軍塚の間から南側へ伸びる尾根上の斜面に位置する径9m、高さ2.5mの片岩礫の盛土で、B198号墳の南に隣接する。関西大学の分布調査で積石塚とされる(関西大学考古学研究室1967)。石切場の排土の可能性もあるが、隣接地に石切場は見当たらなかった。

**前山B 198号墳** 知事塚と将軍塚の間から南へ伸びる尾根上の緩斜面に位置する径9m、高さ1.5mの円墳で、B197号墳の北側に隣接している。北側に周溝がある。埋葬施設は、奥壁と側壁の一部のみが残存している横穴式石室で、天井石及び側壁の大半の石材は取り去られている。

**前山B 259号墳** 前山B130号墳から南へ伸びる尾根の東側緩斜面に位置する径10.5m、高さ2mの円墳である。北側～西側に周溝がある。埋葬施設は、開口方向が東向きの横穴式石室(玄室長2.25×幅1.8m)で、玄室の天井石は取り去られている。残存する奥壁上部に長さ1.1m×厚さ0.2mの片岩が積まれており、石棚の可能性はある。

**前山B 260号墳** 前山B130号墳から南へ伸びる尾根の東側緩斜面に位置する径10m、高さ1.5mの円墳で、北～西側に周溝がある。埋葬施設は、開口方向が南東向きの横穴式石室(玄室長2.3×幅1.7m)で、玄室の天井石は取り去られているが、玄室前道・羨道部の天井石は残存する。

### 第3節 まとめ

踏査の結果、調査対象地全体で239基の古墳を確認し、このうち83基が新たに確認した古墳となる。

新規確認古墳の内訳は、大日山地区で大日山30・31・34・36・41・46・49・57・77号墳の9基、井辺地区で井辺16・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43号墳の15基、寺内地区で寺内25・26・27・29・94・97・98・102～109・110～119・120～128・130～139・140～149・150～153号墳の59基である。

また、井辺32号墳で小型横穴式石室又は竪穴式石室、井辺18号墳で横穴式石室、寺内112号墳・寺内118号墳・寺内119号墳・寺内122号墳で横穴式石室、寺内146号墳で竪穴式石室など、新たに7基の古墳の埋葬施設を確認した。

この他、埴輪が配置されていた可能性のある大日山35号墳南東側平坦地や、各地区において古墳時代の石切場の可能性のある地点を複数地点確認することができた。



図 28 分布調査 採集遺物 (S=1/4)

1 ~ 17 : 大日山 35 号墳南東側平坦地 18 : 寺内 63 号墳 19 : 寺内 119 号墳 20 ~ 22 : 寺内 90 号墳

表3 分布調査採集遺物観察表

\* 法量は幅×高×厚、( )内は残存値 特徴・色調の内・外・断は「面」を省略。色調は土色帖を基とする。

NO.	図版番号	器種	採集位置	法量 (cm)	特徴	色調	胎土	焼成	残存率	備考
1	図版28 写真図版53	円筒埴輪 口縁部	大日山35号墳南東 平地地埴輪集中部 表採	(3.4) × (4.2) × 0.7	外・内) 調整不明瞭 口縁端部) ヨコナデで外側につ まみ出す?	外・内・断) 5YR4/6 赤褐色	やや粗: ~ 0.5mm 片岩・ 半透明粒多量	良好	5% 以下	IV 群系
2	図版28 写真図版53	円筒埴輪 口縁部	大日山35号墳南東 平地地埴輪集中部 表採	(8.0) × (6.0) × 1.3	外) ヨコハケ (5本/cm) 内) 調整不明瞭 口縁端部) ヨコナデ	外) 5YR5/4 におい赤褐色 内) 5YR5/6 明赤褐色 断) 10YR5/2 灰黄褐色	粗: ~ 5mm 片岩・半透明 粒・白色粒多量、~ 2mm 赤色粒中量	良好	5% 以下	IV 群系 傾きが不確定で朝 顔形の可能性あり
3	図版28 写真図版53	円筒埴輪 口縁部	大日山35号墳南東 平地地埴輪集中部 表採	(4.5) × (3.2) × 1.0	外) ナデか、内) ナデか 口縁端部) 面あり (ナデ)	外) 5YR6/3 におい橙色 内) 2.5YR6/4 におい橙色 断) 2.5YR4/2 灰赤色	密: ~ 1mm 白色粒・半透 明粒・片岩・赤色粒少量	良好	5% 以下	V 群系 基部の可能性あり
4	図版28 写真図版54	円筒埴輪 口縁部	大日山35号墳南東 平地地埴輪集中部 表採	(6.5) × (7.8) × 1.2	外・内) ナデ 口縁端部) 強いヨコナデで少し 凹む	外・内) 7.5YR6/4 におい橙色 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色	密: ~ 3mm 片岩中量、 ~ 1mm 赤色粒中量、~ 5mm 半透明粒少量	良好 (硬質)	5% 以下	V 群系 やや須恵質
5	図版28 写真図版53	円筒埴輪 口縁部	大日山35号墳南東 平地地埴輪集中部 表採	(6.0) × (6.1) × 1.2、 推定口径 24.0	外・内) ナデか (不明瞭) 口縁端部) 面あり・強いナデ	外) 7.5YR7/3 におい橙色 内) 7.5YR6/4 におい橙色 断) 7.5YR4/1 褐灰色	やや粗: ~ 2mm チャート・ 赤色粒・片岩・半透明粒・ 白色粒多量、8mm 片岩1 個・白色粒1個	良好	5% 以下	V 群系 基部の可能性あり
6	図版28 写真図版54	円筒埴輪 口縁部	大日山35号墳南東 平地地埴輪集中部 表採	(5.9) × (10.0) × 1.3	外) 調整不明瞭 内) ナデか (不明瞭) 口縁端部) 面あり (ナデ)	外・内) 5YR6/4 におい橙色 断) 5YR4/1 褐灰色	やや粗: ~ 3mm 片岩・ 赤色粒多量、~ 8mm チャート微量	良好	5% 以下	V 群系? 湾曲が少ないため 家形の可能性あり
7	図版28 写真図版53	円筒埴輪 体部	大日山35号墳南東 平地地埴輪集中部 表採	(6.5) × (4.2) × 0.9	外) ヨコハケ (4~5本/cm)、 突帯あり (断面M字形、幅2.0 × 高0.3cm) 内) 調整不明瞭	外・断) 7.5YR6/3 におい褐色 内) 5YR6/4 におい橙色	粗: ~ 2mm 赤色粒・白色粒 半透明粒多量、~ 3mm 片岩少量、~ 2mm チャ ート少量	良好	5% 以下	IV 群系
8	図版28 写真図版53	円筒埴輪 体部	大日山35号墳南東 平地地埴輪集中部 表採	(8.6) × (6.9) × 0.9	外) ヨコハケ (5本/cm程度)・ 一部タテハケ残る、突帯あり (断 面M字形、幅2.4 × 高0.4cm) 内) ナデ	外・内) 5YR5/6 明赤褐色 断) 5YR5/8 明赤褐色	粗: ~ 2.5mm 片岩・白 色粒・半透明粒多量、~ 2mm 赤色粒少量	良好	5% 以下	IV 群系
9	図版28 写真図版53	円筒埴輪 体部	大日山35号墳南東 平地地埴輪集中部 表採	(8.0) × (6.9) × 1.1	外) ヨコナデ、スカシ・突帯あり (断面M字形、幅1.5 × 高0.4cm) 内) ナデ	外・内) 7.5YR6/3 におい褐色 断) 7.5YR4/1 褐灰色	密: ~ 1.5mm 半透明粒・ 片岩・赤色粒中量、3mm 片岩1個	良好	5% 以下	V 群系
10	図版28 写真図版54	円筒埴輪 体部	大日山35号墳南東 平地地埴輪集中部 表採	(7.1) × (11.3) × 1.2	外) ナメハケ (6~7本/cm)、 スカシ孔あり (切り込む工具痕 残る)・突帯あり (下端部のナデ 不十分・幅1.6 × 高0.6cm) 内) ナデ・ユビオサエ	外) 7.5YR7/4 におい橙色 内) 7.5YR7/3 におい橙色 断) 2.5GY5/1 オリーブ灰色	密: ~ 3mm 半透明粒中 量、~ 2.5mm 片岩・赤色 粒中量	良好	5% 以下	V 群系
11	図版28 写真図版53	円筒埴輪 体部	大日山35号墳南東 平地地埴輪集中部 表採	(9.5) × (9.5) × 1.4	外) 調整不明瞭、突帯あり (断 面台形・下端部のナデ不十分、 幅1.5 × 高0.5cm) 内) ナデ・ユビオサエ	外) 10YR7/2 におい黄褐色 内) 10YR7/4 におい黄褐色 断) 10YR6/1 褐灰色	密: ~ 2.5mm 片岩・半透 明粒中量	良好	5% 以下	V 群系
12	図版28 写真図版53	円筒埴輪 基部	大日山35号墳南東 平地地埴輪集中部 表採	(3.9) × (5.8) × 1.3	外) 調整不明瞭 内) 調整不明瞭 基部端部) 面あり (ナデ不十分)	外・内) 5YR5/4 におい赤褐色 断) 5YR3/1 黒褐色	密: ~ 1.5mm 赤色粒・半 透明粒中量、~ 2mm 片岩 少量、9mm 半透明粒1個	良好	5% 以下	V 群系
13	図版28 写真図版54	円筒埴輪 基部	大日山35号墳南東 平地地埴輪集中部 表採	(7.1) × (6.4) × 1.2	外) 調整不明瞭 内) ナデ・ユビオサエ、端部う すくなるので底部調整か	外・内) 5YR6/4 におい橙色 断) 5YR4/1 褐灰色	密: ~ 1.5mm 赤色粒多量、 ~ 2mm 片岩・半透明粒 中量、5mm 片岩1個	良好	5% 以下	V 群系
14	図版28 写真図版53	円筒埴輪 基部	大日山35号墳南東 平地地埴輪集中部 表採	(7.8) × (9.9) × 1.1	外・内) 調整不明瞭 基部端部) 面あり・ナデ・棒状 の痕跡1箇所	外・内) 5YR5/6 明赤褐色 断) 5YR5/1 褐灰色	やや粗: ~ 4mm 半透明 粒・白色粒多量、~ 2mm 片岩少量、4mm チャート 1個	良好	5% 以下	IV 群系か
15	図版28 写真図版53	円筒埴輪 基部	大日山35号墳南東 平地地埴輪集中部 表採	(12.4) × (13.4) × 1.3	外) 不明瞭・板オサエか (工具 痕残る、底部調整か) 内) ナデ、 基部端部) やや面あり	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 10YR6/2 灰黄褐色 断) 2.5Y4/1 黄灰色	密: ~ 4mm 白色粒・片岩・ 半透明粒中量	良好 (や や硬質)	5% (底 部15%)	V 群系
16	図版28 写真図版54	円筒埴輪 基部	大日山35号墳南東 平地地埴輪集中部 表採	(7.6) × (11.2) × 1.5、 底部径 17.1	外) タテハケ (5本/cm)・板ナ デか板オサエ (底部調整) 内) ナデ 基部端部) 面あるがナデなし・ 基部内面はユビオサエで器壁う すくする	外) 7.5YR6/4 におい橙色~ 10YR5/2 灰黄褐色 内) 7.5YR6/3 におい褐色 断) 7.5Y5/1 灰色	密: ~ 1.5mm 片岩・半透 明粒中量	良好 (硬質)	5% 以下	V 群系 反転復元 はば須恵質
17	図版28 写真図版53	形象埴輪か	大日山35号墳南東 平地地埴輪集中部 表採	(4.2) × (3.0) × 1.6	外) ハケ (6~7本/cm)・沈 線1条あり (幅0.3 × 深0.1cm) 内) ナデ・ユビオサエ	外・断) N5/0 灰色 内) 7.5YR6/3 におい褐色	密: ~ 2mm 片岩・半透明 粒少量、~ 1.5mm 白色粒 微量	良好 (硬質)	5% 以下	天地左右不詳 須恵質
18	図版28 写真図版54	円筒埴輪 基部	寺内63号墳 埴頂 (石碑の横) 表採	(9.5) × (5.3) × 1.6、 推定底部径 23.0	外・内) 調整不明瞭 基部端部) 面あり (ナデ)・端 部に1箇所凹みあり (棒状の上 に置いた跡か)	外) 7.5YR4/4 褐色 内) 5YR4/4 におい赤褐色 断) 7.5YR2/1 黒色	粗: ~ 3mm 赤色粒・半 透明粒・白色粒多量、~ 1mm 片岩微量か	良好	5% 以下 (底部 15%)	
19	図版28 写真図版54	須恵器 坏又は皿	寺内119号墳 横穴式室内 落ち葉清掃時	(13.8) × (2.2) × 0.6、 底部径約 11.2	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ 底部) 回転ヘラ切り後ナデか、 内外面に粘土紐の痕跡残る	外・断) 10YR7/2 におい黄橙 色、内) 10YR6/2 灰黄褐色	密: ~ 5mm 半透明粒・ 片岩微量	良好	70%	皿の可能性あり 一部反転復元
20	図版28 写真図版54	須恵器 壺頸 頸部	寺内90号墳 表採	(5.4) × (5.0) × 1.0、 体部径 9.6、 頸部径 4.6	外) 回転ナデ・沈線・刺突文 内) 回転ナデ・しほり痕	外) N4/0 灰色 ~ N6/0 灰色 内) N7/0 灰白色 断) N6/0 灰色 ~ 7.5YR7/2 明 褐色	密: ~ 1mm 白色粒・半 透明粒・片岩・赤色粒・ 黒色粒微量	良好	10%	ハソウか 反転復元
21	図版28 写真図版54	須恵器 器台 口縁部	寺内90号墳 表採	(5.9) × (4.5) × 0.7、 口径 25.2	外) 剥離 (不明瞭) 内) 回転ナデ・列点文・内面に 重ね焼きの跡?	外・内) N3/0 暗灰色 断) N4/0 灰色	やや粗: ~ 1.5mm 白色粒・ 片岩中量	良好	5% 以下	反転復元
22	図版28 写真図版54	須恵器 甕か壺 の頸部?	寺内90号墳 表採	(6.3) × (11.0) × 1.1	外) タタキ 内) 同心円文当具痕	外) N4/0 灰色 内) N5/0 灰色 断) 5R4/1 暗赤灰色 ~ N4/0 灰 色	やや密: ~ 2mm 片岩少量	良好	5% 以下	非常に焼けひど くたゞ器体部の可能性 あり